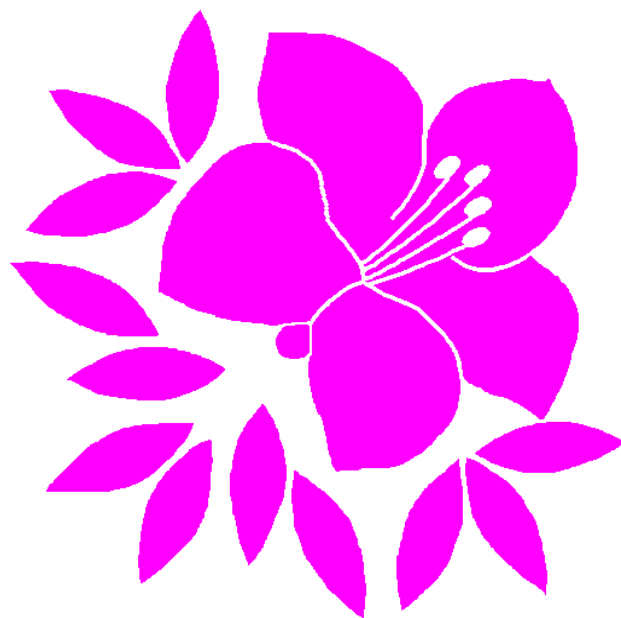


平成26年度

病院年報



泉大津市立病院

はじめに

平素は、泉大津市立病院の運営にご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年6月に、地方公営企業法の全部適用に先立ち院長に就任し、同年10月には全部適用へ移行、宮下律子先生が泉大津市病院事業管理者に就任され、事業管理者と力を合わせ、泉大津市立病院緊急対策プログラムの達成に向け、全力を尽くしてまいりました。この緊急対策プログラム中、医療の目標については、職員の意識改革を中心に取り組み一定の成果を上げることができましたが、経営の目標については、医業収支の改善、経常収支の黒字化、病床稼働率とともに掲げた目標を下回りました。

これは、平成26年度は、診療報酬のマイナス改定、消費税率の引き上げ、地方公営企業会計制度の見直しなどにより、病院経営を取り巻く環境が大きく変わり、入院患者数も前年度を下回ったことにより、医業収益も下回りましたが、緊急対策プログラムの経営の目標については、比較対象とした平成24年度医業収支、経常収支から大きく改善しており、各般の成果が着実に結実したものと考えています。

さらに、平成26年度において人工透析室を拡張し、11床を16床と増床しました。また、透析患者の送迎も始めており、今後、患者数の増加につながるものと見込んでいます。

施設内においては、大阪府再生可能エネルギー等導入推進基金事業補助金を活用し、南館並びに地域周産期母子医療センターの屋上に、太陽光パネルを設置しました。これは、災害発生時に電力会社からの電力が遮断された際には、緊急治療エリアにおいて輸液ポンプ等へ電力供給でき、常時は蓄電池の余電力を各フロアの電灯等に使用しています。

また、本院は平成25年度から新たに目標を一つ加え、1. 子どもと女性に優しい医療、2. 内視鏡を駆使した消化器病診療、3. 生活習慣病に対するチーム医療、4. 高齢者に優しい病院の4本柱に特化した急性期医療を地道に継続して、地域医療に貢献してまいりたいと思いますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成28年12月

院長 西尾 順子

基 本 理 念

1. 良質の医療を提供し信頼され安心感を与える医療を実践します
2. 地域の中核病院として地域全体の医療・福祉の向上に寄与します
3. 常に向上心を持ち、協調の精神でチーム医療をおこないます

基 本 方 針

1. 当院は、患者さんの立場に立ち、患者さんの権利を尊重した医療を実践します。
2. 当院は、急性期医療を中心に地域医療を行います。
3. 当院は、医療事故を防止し、医療の安全確保に努めます。
4. 当院は、地域の医療機関と協力し、医療連携を推進します。
5. 当院は、効率的な医療を行い、経営の健全化に努めます。
6. 当院は、医療の質の向上のため研鑽に努めます。

職 員 目 標

1. 社会性 良識ある社会人となろう
2. 信頼性 信頼される医療人となろう
3. 協調性 相互理解と協調の気持ちを持とう
4. 創造性 向上心を持ち、創造的な考え方を持とう
5. 効率性 効率性を考え、経済性の発揮に努めよう

泉大津市立病院

..... 1

病院の沿革

1. 病院の沿革

昭和2年4月	和泉伝染病院創設	48年4月	結核病棟70床を一般病棟に変更 (一般病床計215床)
5年6月	和泉公民病院創設 初代院長 樋渡雋二郎就任		整形外科新設
13年2月	第二代院長 岩鶴 龍三就任	50年11月	手術室、薬局、中央材料室、業務課(鉄筋コンクリート三階建)完成
14年3月	第三代院長 比留間恵三就任		
16年1月	眼科新設	52年4月	第八代院長 西村譲就任
17年4月	泉大津市制施行	6月	リハビリテーション室開設
7月	第四代院長 須賀 進就任	53年5月	基準看護(特一類)実施
20年11月	第五代院長 小林正一就任	54年8月	外科診療室改装
21年4月	第六代院長 船松達一就任	10月	産科授乳室新設
23年8月	第七代院長 梅田悦二就任	55年6月	病院創設50周年、年誌発刊
24年12月	看護婦宿舎(木造瓦葺平家建)完成	58年10月	市立病院外来棟完成
25年5月	公立和泉病院に改称し総合病院として発足(内科、外科、婦人科、眼科、小児科、耳鼻科、放射線科)	平成3年11月	第九代院長 岡村光雄就任 院内に病院整備計画院内検討委員会を設置
27年3月	第五病棟木造スレート瓦葺平家建完成	6年5月	看護婦宿舎着工
28年5月	別館木造スレート瓦葺二階建完成	7月	病院整備工事着工
30年10月	完全給食実施	7年2月	看護婦宿舎竣工
32年3月	本館鉄筋コンクリート三階建完成	8年2月	北棟(鉄骨鉄筋コンクリート地上5階地下1階)竣工
33年10月	解剖室新設	9年4月	第10代院長 栗本博史就任
35年12月	西館鉄筋コンクリート三階建完成	10年2月	南棟(鉄骨鉄筋コンクリート地上7階地下1階)竣工
37年6月	第五病棟連絡通路の改築	10年5月	開院 病床数230床(一般215・伝染15床)
38年4月	公立和泉病院分院和泉市に開設	10年10月	グラウンドオープン
40年3月	伝染病院(鉄筋コンクリート二階建)完成	11年4月	第11代院長 岡澤 崇就任 伝染病棟(15床)廃止 病床数215床(一般)
42年3月	結核病棟新築(鉄筋コンクリート二階建)	11年10月	内科救急告示
44年6月	中央棟(鉄筋コンクリート四階建)完成 職員院内食堂新設	12年4月	小児科救急告示
46年12月	看護婦宿舎新築(鉄筋三階建)	14年10月	院内全面禁煙実施
47年4月	泉大津市立病院に改称	15年10月	管理型臨床研修病院に指定
		16年6月	病院機能評価受審
		16年9月	第12代院長 飯田さよみ就任
		16年11月	病院機能評価認定
		16年12月	内視鏡センター設立

平成18年 9月	脳神経外科新設	平成27年 3月	病院機能評価受審
19年 4月	消化器病センター設立		太陽光発電装置設置
20年 4月	消化器内科新設		
21年 7月	第13代院長 永井 祐吾就任		
9月	NICU棟（鉄骨造地上4階）竣工		
10月	新生児内科新設		
	地域周産期母子医療センター設立		
	病床数230床		
	病院機能評価受審		
22年 4月	病院機能評価認定		
23年 2月	院内保育所新設		
24年11月	NASVA病棟開設		
25年 6月	第14代院長 西尾 順子就任		
25年10月	地方公営企業法全部適用		
	事業管理者 宮下 律子就任		



..... 2

病 院 の 現 況
.....

概要と現況

職員の状況

病院各階の配置

職員構成

院内組織機構図

災害救助体制及び出勤表

平成23年度各種委員会

2. 病院の現況

〔概要と現況〕

- (1) 名称 泉大津市立病院(おづ病院)
所在地 泉大津市下条町16番1号
敷地面積 10,470.71 m²
建築面積 3,591.72 m²
延床面積 19,312.39 m²
- (2) 診療科目 内科・消化器内科・外科・内視鏡外科・脳神経外科・整形外科(リハビリテーション)・産婦人科・小児科・新生児内科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・麻酔科・放射線科・健診科

- (3) 病床数 230床

(4) 病棟

病棟	病床数
3階病棟	55床
4階病棟	55床
5階病棟	54床
6階小児専用病棟	23床
6階一般病棟	28床
N I C U 棟	15床

(5) 附属施設

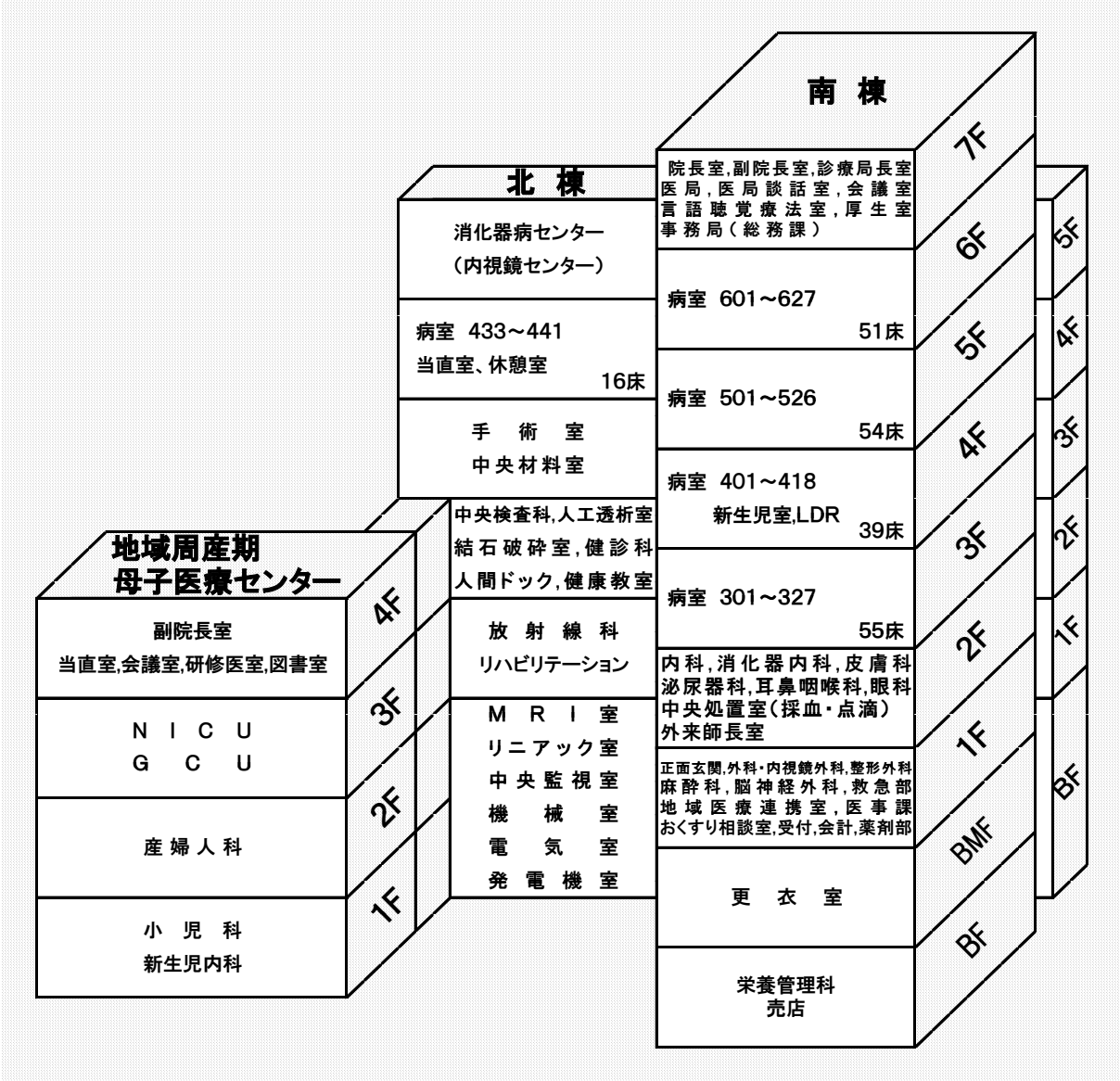
- 名称 泉大津市立病院看護師宿舎
(コーラルハウス)
および院内保育所(おづキッズ)
所在地 泉大津市下条町17番37号
構造・規模 鉄筋コンクリート造3階建
敷地面積 899.02m²
建築面積 413.56m²
延床面積 1,060.95m²
(うち院内保育所84.00m²)
室数 28室

〔職員の状況〕

- 事業管理者 宮下 律子
名誉院長 三木 隆己
病院長 西尾 順子
副院長 宇田 光伸
" 金井 真
" 梶川 博司
事務局長 森田 雅明
看護部長 鳥羽 敏子
薬剤部長 田辺 和史
(平成27年3月末日現在)

- 医師 44名
正看護師 187名
准看護師 1名
医療技師 48名
事務員 16名
M S W 2名
(平成27年3月末日現在)

● 病院各階の配置



[職員構成]

平成27年3月末日現在

区 分		職 員 数							計
		医 師	正 看	准 看	看 助	医 技	事 務	労 務	
病院事業管理者		1							1
療 局	内 科 部	7				3			10
	消化器内科	7							7
	外 科 部	7							7
	脳神経外科部	1							1
	整形外科部	(1)				12			12
	小 児 科 部	4							4
	新生児内科	3							3
	産婦人科部	7							7
	眼 科 部	1				2			3
	耳鼻いんこう科部								0
	皮 膚 科 部	2							2
	泌尿器科部	2							2
	麻 酔 科 部								0
	放射線科部	2				9			11
	健 診 科 部	1°							0
	中央検査科部	1°				11			11
	薬 剤 部					9			9
栄養管理科部	1°				2			2	
看 護 部	看 護 部 長		1						1
	三 階 詰 所		25						25
	四 階 詰 所		30	1					31
	四 階 北 詰 所		16						16
	五 階 詰 所		26						26
	六階一般詰所		22						22
	六階小児詰所		14						14
	N I C U 詰 所		15						15
	三階詰所GCU		13						13
	外 来		10						10
手 術 室		14						14	
事 務 局	局 長 ・ 次 長						2		2
	総 務 課						8		8
	医 事 課						5		5
地域医療連携室		2°	1				3		4
計		44 (1)	187	1	0	48	18	0	298

()は常勤嘱託
°は兼職

災害救助体制及び出勤表

(平成26年3月末日現在)

A 号 動 員	B 号 動 員	C 号 動 員	備 考
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%;"> <p style="text-align: center;">本 部 長 (院 長)</p> </div> <div style="width: 85%;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">副本部長 (副院長)</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;">外 来 保安・救護 (副院長) (診療局長) (薬剤部長) (看護副部長)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">副本部長 (事務局長)</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;">病 棟 保安・避難・誘導 (診療局次長) (看護部長)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">総 務 部 (総務課長)</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;">庶 務 班 (総務課総務係長)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">防 災 部 (事務局理事)</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;">通 信 連 絡 班 (総務課総務係長)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">資 材 工 作 班 (総務課管理係長)</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;">防 災 班 (医事課長)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">給 食 班 (栄養管理科部 技師長補佐)</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;">給 食 班 (栄養管理科部 技師長補佐)</p> </div> </div> </div> </div>	<p style="text-align: center;">医 療 班 (診療局部長) (" 副部長)</p> <p style="text-align: center;">救 護 班 (手術室師長)</p> <p style="text-align: center;">避 難 誘 導 班 (技師長) (技師長補佐) (各病棟師長) (診療局参事)</p>	<p style="text-align: center;">医師全員</p> <p style="text-align: center;">外来及び手術室の 看護師</p> <p style="text-align: center;">病棟の 看護師・看護助手 薬剤部・放射線科・ 中央検査科部等の 医療技術員全員</p> <p style="text-align: center;">総務課総務係全員</p> <p style="text-align: center;">総務課管理係全員</p> <p style="text-align: center;">医事課 全員</p> <p style="text-align: center;">栄養管理科部全員</p>	<p style="text-align: center;">患者の救出及び負傷者 の手当て</p> <p style="text-align: center;">安全場所への避難・誘導</p> <p style="text-align: center;">各部、各班との連絡 災害状況の把握 各関係機関との連絡 及び運送</p> <p style="text-align: center;">施設、機器等の安全 管理及び各所維持修繕</p> <p style="text-align: center;">安全場所の確保 避難者の安全措施</p> <p style="text-align: center;">災害者等の食料確保 及び供給</p>

※ 警報発令時又は震度4以上の地震発令時は、A号動員とする
 ※ 担当任務は、本部の指令に基づき臨機応変の措置を取ることもある

平成26年度 各種委員会

- 1 . 統括会議
- 2 . 運営会議
- 3 . 治験審査委員会
- 4 . 手術室委員会
- 5 . 医療安全管理委員会
- 6 . 医療安全管理部門
- 7 . クリニカルパス推進委員会
- 8 . 輸血療法委員会
- 9 . D P C ・保険請求対策委員会
- 1 0 . 診療情報管理委員会
- 1 1 . 放射線障害防止委員会
- 1 2 . 院内感染対策委員会
- 1 3 . 学術委員会
- 1 4 . 薬事委員会
- 1 5 . 救急委員会
- 1 6 . 臨床検査委員会
- 1 7 . 臨床研修管理委員会
- 1 8 . 職員衛生委員会
- 1 9 . 医療ガス安全管理委員会
- 2 0 . 職員倫理委員会
- 2 1 . 化学療法委員会
- 2 2 . 周産期センター運営委員会
- 2 3 . 消化器病センター運営委員会
- 2 4 . 接遇プロジェクト
- 2 5 . 病院機能評価受審プロジェクト
- 2 6 . 褥瘡対策チーム
- 2 7 . 栄養管理委員会（N S T）
- 2 8 . 緩和ケアチーム
- 2 9 . 呼吸ケアチーム
- 3 0 . 糖尿病療養指導委員会
- 3 1 . 患者支援取組評価委員会
- 3 2 . N A S V A 委託病床運営委員会
- 3 3 . 勤務医負担軽減委員会
- 3 4 . 透析機器安全管理委員会
- 3 5 . 個人情報保護委員会
- 3 6 . 人権・虐待対策委員会
- 3 7 . 精度管理委員会
- 3 8 . 災害対策委員会
- 3 9 . 災害マニュアルチーム
- 4 0 . 健診委員会

3

診療局の現況

内科、消化器内科
外科・内視鏡外科
消化器病センター
脳神経外科
整形外科
小児科
新生児内科
皮膚科
泌尿器科
産婦人科
眼科
耳鼻咽喉科
麻酔科
放射線科
健診科
中央検査科

3. 診療局の現況

内科、消化器内科

【スタッフ】

内科：破戸部長、伊東部長、野村副部長、岡本副部長、設楽副部長、津田医長
沼口医員

消化器内科：山形理事、格谷部長、青松副部長、早川副部長、林医員、木下医員、
柳井医員

【概要、実績】

外来延べ患者数45,670人(1日平均187.2人 前年度比5.8人増)と増加したが、入院延べ患者数23,535人(1日平均64.5人 前年度比4.8人減)と減少した。(表1)

入院患者疾患別分類を見ると、消化器内科医は前年度に比し2名減にもかかわらず消化器分野での入院患者増が目立った。(表2)

表1 過去5年間 延べ患者数

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
外来	38,779	40,460	40,845	44,265	45,670
(一日平均)	159.6	165.8	166.7	181.4	187.2
入院	22,784	24,980	24,959	25,288	23,535
(一日平均)	62.4	68.3	68.4	69.3	64.5

表2 入院患者疾患別分類

	24年度	25年度	26年度
消化器	506	538	610
呼吸器	254	295	267
循環器	109	138	103
新生物	180	207	203
感染症	102	96	106
内分泌・代謝	168	194	107
腎・尿路	108	147	145
神経・精神・筋	52	53	54
血液・免疫	23	31	37
その他	112	91	66
総数	1,614	1,790	1,698

透析患者の送迎サービス、午前・午後透析の実施や透析室増床（11床から16床）により透析件数は著明に増加した（表3）。

表3 透析件数

	24年度	25年度	26年度
透析件数	2,094	3,353	4,957

新しい取り組みとして、27年2月より睡眠時無呼吸症候群の1泊入院による検査を開始した。検査結果により適切な医療機関へ紹介している。

表4 検査件数

	24年度	25年度	26年度
レントゲン			
上部消化管	14	9	22
注腸	10	8	5
胆のう	0	0	0
骨密度	145	137	99
冠動脈C T	78	88	55
内視鏡			
上部消化管	3,641	3,871	3,673
下部消化管	2,081	2,158	2,089
カプセル	13	8	12
小腸	70	34	16
気管支鏡	48	36	35
超音波			
腹部	3,004	2,828	3,076
心臓	1,198	1,397	1,509
頸動脈	240	244	154
甲状腺	203	246	295
心電図	2,317	2,500	2,573
ホルター心電図	126	152	115
心臓カテーテル	12	10	6
脈波図	323	305	247
ペースメーカー	4	4	2
睡眠時無呼吸			2

消化器疾患入院患者では大腸ポリープが285人と目立った。当科では原則外来にて大腸ポリペクトミーを施行しているが、ポリープの大きさや個数、患者の希望により1泊入院としている。また、当院は炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の専門家の在籍する病院として近隣の医療機関からも積極的に患者紹介を受け入れている。

しかしながら、最近の薬剤の進歩により、入院することなく外来での治療が可能な症例が増えたことにより、炎症性腸疾患患者の入院症例は減少したと思われる。（表5）

表5 入院患者 主な消化器疾患

	24年度	25年度	26年度
食道癌	4	6	0
食道炎	6	9	10
食道胃静脈瘤	22	21	8
胃癌	36	65	45
胃 十二指腸潰瘍	44	40	30
大腸癌	19	13	7
大腸ポリープ	160	202	285
腸炎	56	75	88
虫垂炎	1	2	0
潰瘍性大腸炎	10	14	2
クローン病	18	19	10
腸閉塞	20	23	18
肝臓癌	44	49	55
慢性肝炎	2	4	4
肝硬変	57	29	20
その他肝疾患	43	27	31
胆石症 胆のう炎 総胆管結石	25	32	60
胆のう癌 胆管癌	11	8	4
膵臓癌	14	6	6
膵炎	11	12	31
その他	207	194	129
総計	810	850	843

糖尿病部門では月1回の糖尿病教室(表6)、年1回の市民セミナー(表7)を行った。
 10日間の糖尿病教育パス入院や糖尿病地域連携パスを引き続き稼働させた。
 また、日本糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士で
 構成された糖尿病療養指導チームで糖尿病診療のチーム医療を行った。

表6 平成26年度 糖尿病教室

日時	テーマ	講師
平成26年 4月8日	生活活動と運動	神谷理学療法士
5月13日	この勘違いが高血糖の落とし穴?	佃管理栄養士
6月10日	3500年の歴史から学ぶ糖尿病治療	沼口医師
7月8日	糖尿病合併症について	沼口医師
8月12日	糖尿病網膜症	稲垣医師
9月9日	糖尿病性腎症について	津田医師
10月14日	糖尿病と運動療法 ～安全に運動を行うためには～	宇野理学療法士
11月11日	糖尿病注射は怖くない ～膵臓を長持ちさせるために～	松岡薬剤師
12月9日	おさえておきたい年末年始の食生活	大北管理栄養士
平成27年 1月20日	生活習慣病と骨粗鬆症	岡本医師
2月10日	糖尿病と心筋梗塞・脳梗塞について	沼口医師
3月17日	糖尿病と上手につきあうために ～今年度のおさらい～	沼口医師

表7 糖尿病 市民セミナー

「糖尿病っていわれたら・・・」	平成27年3月28日	テクスピア大阪
	司会 川知内科クリニック院長	川知 雅典先生
「知らなきゃいけない糖尿病」		沼口医師
「それをやっちゃ～だめよ、ダメ!ダメ!」		スタッフによる糖尿病劇場
「Let'sウォーキング ～ありのまま～」		宇野理学療法士
「おさえておきたい高血糖を防ぐ食生活」		佃管理栄養士

【平成26年度業績】

【論文】

伊東友好 「脾臓内多発結節を呈したサルコイドーシスの1例」
 日本胸部臨床 73巻7号 Page829-835

【学会、研究会、講演会など】

林 克平 「治療に難渋し外科手術を必要とした柿胃石の1例」
第205回 日本内科学会近畿地方会 平成26年9月20日 大阪

南野 弘明 「大腸EMRにおける一括切除不成功予測因子の検討」
第88回 日本消化器内視鏡学会総会 平成26年10月26日 神戸

津田 昌宏 「イヌリード研究からわかったこと」
第53回 おづカンファレンス 平成26年11月11日 泉大津

岡本 圭司 「骨粗鬆症～将来寝たきりにならないために～」
泉大津市立病院 市民公開講座 平成27年3月18日 泉大津

山形 知 「新しい検診・人間ドックと消化器疾患」
泉大津市立病院 市民公開講座 平成27年1月24日 泉大津

青松 和輝 「大腸がん検診と内視鏡検査・治療」
泉大津市立病院 市民公開講座 平成27年月24日 泉大津

野村 奈穂 「超結核と肺結核を合併した1例」
第113回日本結核病学会近畿地方会 平成26年6月28日 姫路

伊東 友好 「呼吸器聴診について」
泉大津市立病院院内講習会 平成26年7月2日 泉大津

野村 奈穂 「糖尿病を治療中に多発結節影を呈した1例」
4月例会 呼吸器研究会 平成26年4月17日 堺

伊東 友好 司会
9月例会 呼吸器研究会 平成26年9月25日 堺

伊東 友好 「肺炎治療の実際～オーダーリングシステムを利用して～」
9月例会 呼吸器研究会 平成26年9月25日 堺

伊東 友好 「高齢者に発症した胸膜炎の2症例」
12月例会 呼吸器研究会 平成26年12月11日 堺

伊東 友好 座長
第10回 Clinical Respiratory Conference 平成26年11月13日 大阪

野村 奈穂 「胸部異常陰影を契機に診断したCastleman病の1例」
第10回 Clinical Respiratory Conference 平成26年11月13日 大阪

伊藤 友好 「気管支喘息の治療薬について～具体事例を用いて～」
第2回泉大津支部薬薬連携研究会 平成26年11月27日 泉大津

伊藤 友好 「気管支喘息の治療薬について」
気管支喘息治療の最前線 平成27年3月28日 堺

沼口 隆太郎 「肥満2型糖尿病においてレプチンは動脈硬化に関連する」
第29回日本糖尿病合併症学会 平成26年10月4日 東京

外科・内視鏡外科

【概要】

本年度のスタッフは、野口浩平主任部長、庄野嘉治部長、石田興一郎部長、中 禎二部長、森田隆平副部長（呼吸器外科）、田村耕一副部長、合田太郎医長（小児外科）の7名の常勤医師と、上西幹洋医師（乳腺・甲状腺外科）、諸富嘉樹医師（小児外科、大阪市立大学医学部小児外科）の2名の非常勤医師の計9名で診療を行ってきた。当科の業績を振り返ると、年間手術件数とその内の全身麻酔手術件数ともに順調に増加していた。本年度の新たな試みとして、肝胆膵外科外来と肛門外来を新設し、より専門性の高い治療を提供してきた。消化器外科手術のみならず、呼吸器外科手術、乳腺外科手術、小児外科手術件数のいずれも着実に増加していた。当院の3本柱である、消化器病診療の充実、子供と女性に優しい病院、生活習慣病対策に加え、「更により一層、専門性を高めるとともに、新たに高齢者に優しい病院」という方針に合致する医療を行ってきたと自負している。

今後も、上記理念に沿った地域医療の充実を図り、更なる病診・病病連携を進めていく所存である。

【平成26年度業績】

① 論文

- 1 中 禎二, 佐原稚基, 福永裕充, 伊藤秀一, 瀧藤克也: 検診の経鼻内視鏡で発見された早期十二指腸癌の1例. Gastroenterological Endoscopy 56(2):267-272, 2014
- 2 田村耕一, 野口浩平, 東郷直希, 中 禎二, 永井祐吾, 岩橋 誠: 腹腔鏡下に穿孔部へのTチューブ挿入が有効であった巨大十二指腸潰瘍穿孔の1例. 日本内視鏡外科学会雑誌19(2):217-221, 2014

② 学会発表(筆頭発表者のみ)

- 1 庄野嘉治: 胆管粘液栓を伴った膵IPMNに対する外科的治療について. 第114回日本外科学会, 2014.4, 京都
- 2 合田太郎: 腸回転異常症と臍腸管遺残を合併し腸閉塞を来した一幼児例. 第51回日本小児外科学会, 2014.5, 大阪
- 3 野口浩平: 腹腔鏡下幽門側胃切除術における体腔内三角吻合法の導入. 第57回和歌山消化器外科談話会, 2014.4, 和歌山
- 4 庄野嘉治: 当科で経験した8例の門脈ガス血症症例の診断と治療について. 第69回日本消化器外科学会総会, 2014.7, 郡山
- 5 田村耕一: 当院における完全腹腔鏡下幽門側胃切除術(B-I再建)での三角吻合の短期成績. 第69回日本消化器外科学会, 2014.7, 郡山
- 6 石田興一郎: 術後縫合不全治癒後に来した食物摂取障害に対して外科治療が有効であった1例(続報). 第68回日本食道学会学術集会, 2014.7, 東京
- 7 庄野嘉治: 当センターで施行したがん診療地域連携パスの4年間の経験. 第52回日本癌治療学会学術集会, 2014.8, 横浜

- 8 田村耕一:SP+トラスツズマブ併用化学療法が奏功し組織学的CRが得られた腹膜転移合併進行胃癌の1例. 第52回日本癌治療学会, 2014. 8, 横浜
- 9 庄野嘉治:腹腔鏡下尾側膵切除での術野展開の工夫. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 2014. 11, 盛岡
- 10 石田興一郎:当院における鏡視下食道空腸吻合法 ~かがり縫い法~ . 第27回日本内視鏡外科学会, 2014. 10, 盛岡
- 11 田村耕一:当院における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(TAPP法)の短期成績の検討. 第27回日本内視鏡外科学会, 2014. 10, 盛岡
- 12 中禎二:早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)のサルベージ治療としての腹腔鏡下胃切除術の検討. 第27回日本内視鏡外科学会, 2014. 10, 盛岡
- 13 合田太郎:尿管管遺残に対する内視鏡下手術の適応についての検討. 第27回日本内視鏡外科学会, 2014. 10, 盛岡

消化器病センター

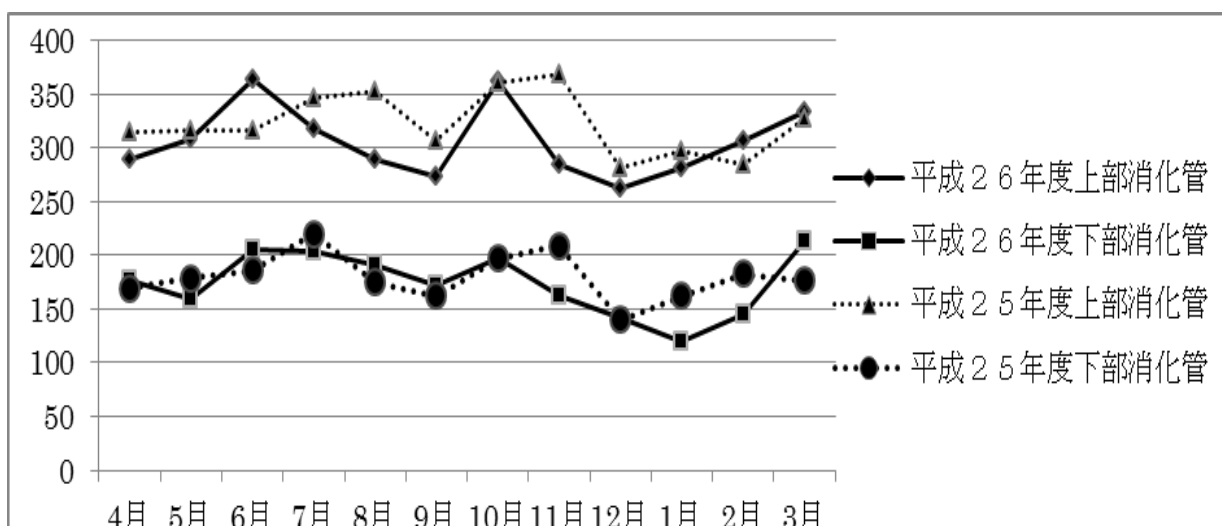
～スタッフ～

消化器内科は25年度より2名減の7名、外科・内視鏡外科8名の合計15名のスタッフで、日々協力しながら、消化器病診療を行った。

～検査件数～

上部消化管内視鏡検査は25年度3,871件、26年度3,666件の205件減、
下部消化管内視鏡検査は25年度2,158件、26年度2,061件の97件減であった。

平成25年度 26年度内視鏡検査件数



～内視鏡検査と治療件数～

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	上部消化管	下部消化管	上部消化管	下部消化管	上部消化管	下部消化管
総数	3,641件	2,081件	3,871件	2,158件	3,666件	2,061件
ポリペクトミー	1件	159件	0件	298件	0件	346件
EMR	4件	511件	13件	461件	5件	418件
ESD	39件	2件	54件	1件	43件	3件
拡張術	6件	1件	7件	2件	10件	1件
止血術	56件	24件	45件	28件	49件	28件
PEG	85件		78件		78件	
EVL EIS	45件		37件		29件	
異物除去術	8件		9件		11件	3件
ERCP	22件		10件		12件	
EST ENBD	49件		67件		53件	
小腸内視鏡	70件		34件		16件	
カプセル内視鏡	13件		8件		12件	

脳神経外科

【概要】

平成26年度医業収益については入院は増収、外来は減収であるが、入院が2億8,598万円、外来が4,083万円計3億2,681万円で、平成25年度より増加しております。

現在、脳神経外科は医師一人で応援医師もなく、外来に専属の看護師もいないという状況ですが、医業収益の金額面だけで判断することには多少の問題点はあるとはいえ、一応善戦できたものと考えております。

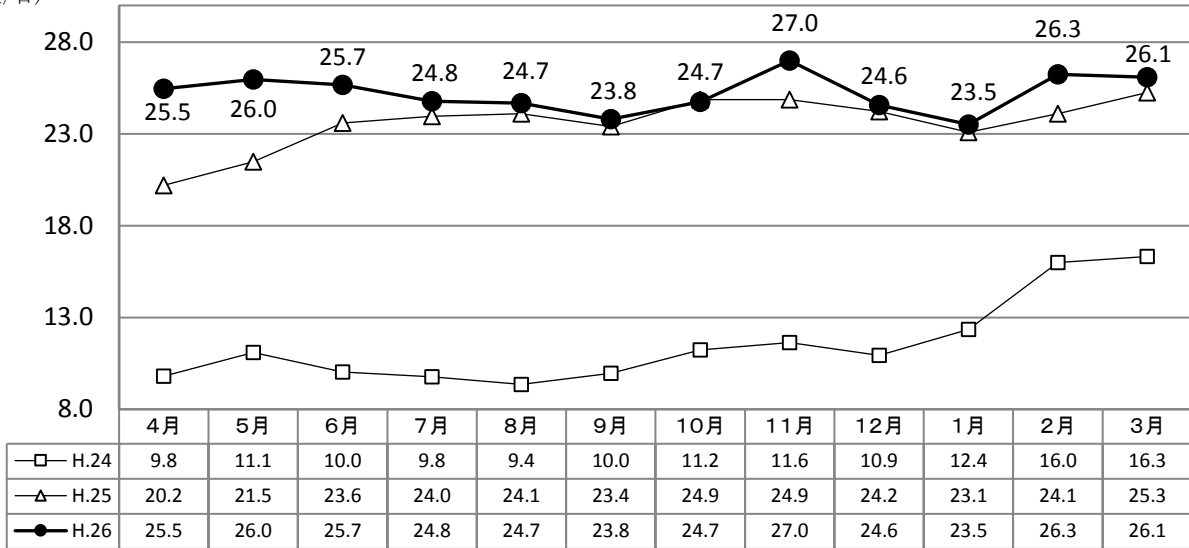
【学術業績】

末梢神経障害類似の症状を呈したprecentral knob近傍の皮質梗塞の2例

内科 第113巻 第5号 [2014年5月号]

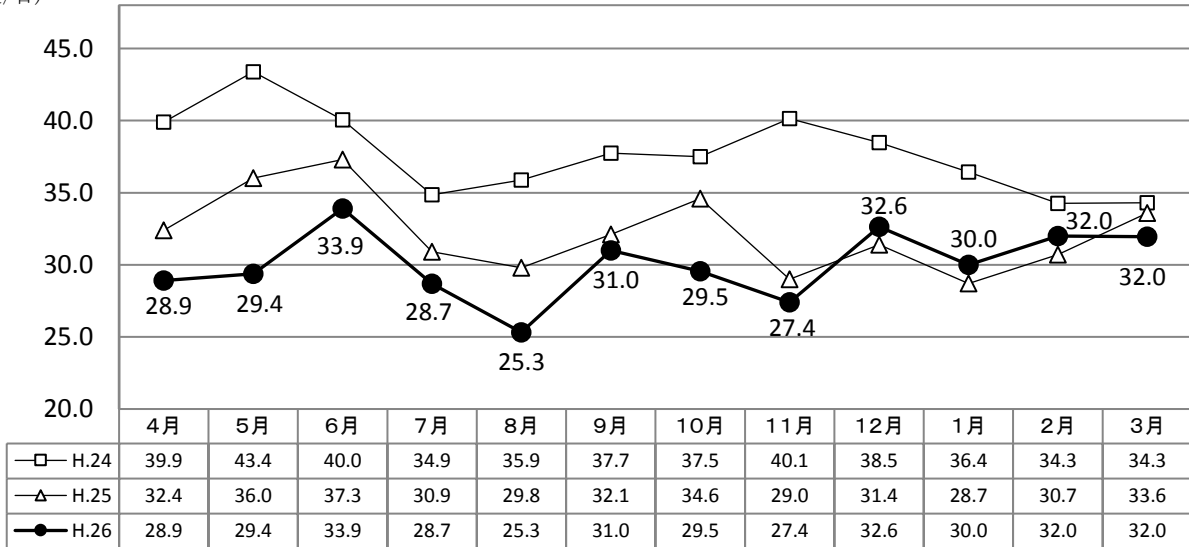
入院患者数

(人/日)



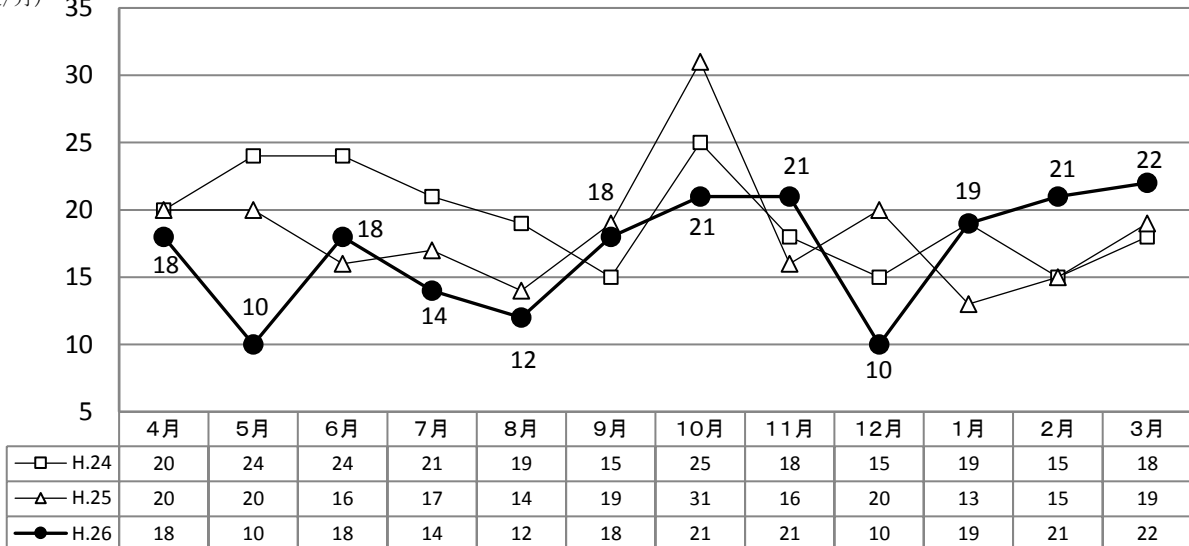
外来患者数

(人/日)



新入院患者数

(人/月)



整形外科

【概要】

平成26年3月常勤医師退職により、常勤医師不在となっている。外来においては非常勤医師の支援を得ているが、整形外科の診療体制としては、不十分な状況であるが、現状で行える医療の質は維持したいとは考えている。

【入院患者数】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
入院患者数	1,267人	863人	0人

【外来患者数】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来患者数	5,757人	5,075人	4,775人

平成26年度 リハビリテーション室の実績

【概要】

平成26年度、リハビリテーション科では、言語聴覚士1名を増員した。

その結果理学療法士7名 作業療法士3名 言語聴覚士3名となり、リハスタッフは13名の体制となった。

言語聴覚士の増員によりNASVA病棟でのST（言語聴覚）訓練や急性期病棟での摂食嚥下療法に充実が図られた。

当院では誤嚥性肺炎により入院される高齢者が多く、リハスタッフが肺炎後の呼吸リハ、摂食嚥下リハにも積極的に関わっている。

従来よりリハビリテーション科では、食道がん術前術後など外科周術期の早期リハにも積極的に取り組んでいる。

リハスタッフが術後早期から介入することにより、術後肺炎などの合併症予防や早期離床に寄与できている。

NASVA委託病床においては、PT OT STが協力し患者への訓練を実施しているが、多くの患者でNASVAスコアが改善し治療効果が見られている。

また病棟スタッフとの頻回なカンファレンスを実施する事で、リハビリの充実を目指している。

小児リハビリテーションの分野では肢体不自由児、発達障がい児へのリハビリも積極的に実施している。

近隣の病院で小児リハビリを実施している施設は少なく、「子育てのしやすい街づくり」に貢献しているものと考えている。

小児リハビリにおいては、子ども未来課と協力しさらに充実したものにしていく予定である。

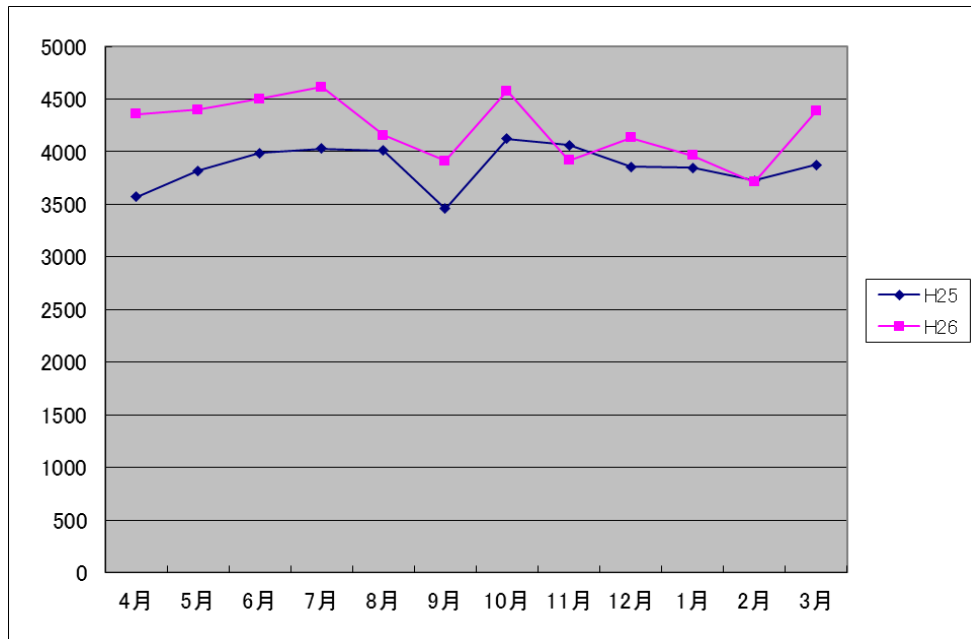
このように当科では、様々な疾病、障がいに対してリハビリテーションの提供を行っているが、今後このような取り組みを、さらに発展させていきたい。

【実績】

月次報告(リハビリテーション部門・平成26年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 部 門	外 来	運動器	32	36	32	33	34	29	47	41	56	39	41	45	465
		脳血管疾患	881	935	980	953	837	838	946	855	806	651	575	824	10,081
		呼吸器	0	6	0	0	0	1	0	0	0	4	2	1	14
		早期加算	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4
		初期加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
		がん患者リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		消炎鎮痛処置(マッサージ)	166	166	165	183	177	173	182	143	155	167	150	171	1,998
	リハ総合計画評価料	2	14	11	10	14	12	7	14	13	13	15	16	141	
	小計	1,081	1,157	1,190	1,179	1,062	1,053	1,182	1,053	1,030	874	787	1,057	12,705	
	入 院 部 門	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	運動器	141	176	288	317	197	115	165	127	49	121	147	90
脳血管疾患			2,634	2,515	2,513	2,596	2,467	2,350	2,665	2,465	2,624	2,517	2,261	2,650	30,257
呼吸器			391	455	337	447	318	319	427	302	344	342	417	505	4,604
摂食嚥下療法			88	110	132	142	108	121	130	74	102	114	138	156	1,415
早期加算			803	799	694	850	822	685	824	820	717	602	808	1,050	9,474
初期加算			476	379	384	461	482	358	525	413	363	397	503	245	4,986
がん患者リハビリテーション			192	166	219	126	197	142	197	48	141	176	132	113	1,849
消炎鎮痛処置(マッサージ)		9	11	1	11	0	0	20	17	17	17	17	0	120	
退院時リハビリテーション指導		16	14	16	16	23	10	22	17	15	7	13	17	186	
リハ総合計画評価料		108	109	127	123	125	119	125	112	107	100	126	136	1,417	
小計	4,858	4,734	4,711	5,089	4,739	4,219	5,100	4,395	4,479	4,393	4,562	4,962	56,241		
合計	5,939	5,891	5,901	6,268	5,801	5,272	6,282	5,448	5,509	5,267	5,349	6,019	68,946		

平成25年度との実施単位数の比較



小 児 科

【勤務体制】

常勤医

宮下律子 中西直之 木岡直美 原田智

非常勤医

柳川敏彦 中西浩一 上碓仁美 熊谷健

後期研修医

栗並樹里

臨床心理士

前川登代美 福井星仰

【はじめに】

平成26年度は、前年度に引き続き和歌山県立医科大学から小児科初期研修として毎月1人から2人の研修医の先生が来られていました。24年度から取り組んでいる小児在宅生活支援地域連携の一環としてレスパイト入院の受け入れが前年度月平均2.83名から月平均4.3名の増加となった。

1ヶ月健診で腹部膨満を指摘されていた1ヶ月の男児が発熱を主訴に当科紹介受診となった。腹部エコー、造影CTにて脾門部に膿瘍があり、保存的に治療を開始したが、改善せず、開腹ドレナージ術を行なった。培養結果は、黄色ブドウ球菌(MSSA)であった。

14歳の女児、腹痛、血便を認め受診。潰瘍性大腸炎と診断された。ステロイドの開始後、症状は改善したが、その後スムーズに歩行できない状態が続き、ステロイドミオパチーが疑われ、リハビリが開始された。

ヒトメタニューモウイルスの検査が保険適応となり、例年春に流行すると言われていたが、2月から流行がみられ入院患者の増加がみられた。

【外 来】

外来患者数	1日平均161.4名
夜間救急外来（水曜日、土曜日）受診者数	2859名／年
紹介患者数	372名／年
乳児健診数	868名／年
予防接種者数	4590名／年
入院患者数	995名（新生児は除く）

平成26年度 小児科病名別件数

呼吸器系	肺炎・気管支炎	140		感冒性嘔吐症	2
	喘息・喘息性気管支炎	101		ウイルス性胃腸炎	1
	咽頭炎	45		髄膜炎	1
	上気道炎・扁桃炎	20		敗血症	1
	急性喉頭炎・クループ	6		炎症性腸疾患	1
	誤嚥性肺炎	2		伝染性膿痂疹	1
	扁桃周囲膿瘍	1			
消化器系	腸重積	8	血液・腫瘍	シェーンライン・ヘノッフ紫斑病	3
	クローン病	4		血管性紫斑病	3
	新生児黄疸	4		血球貪食症候群	3
	潰瘍性大腸炎	4		急性リンパ性白血病	1
	虫垂炎	3	免疫系、	川崎病	17
	過敏性腸症候群	2	アレルギー	アトピー	10
	肝炎	2		アナフィラキシー	4
	肝機能障害	2		食物アレルギー	4
	便秘症	1		SLE	2
	慢性膵炎	1		蕁麻疹	2
	難治性下痢	1	神経系	熱性けいれん	27
	肥厚性幽門狭窄症	1		痙攣	3
尿路系	ネフローゼ症候群	16		過換気症候群	1
	尿路感染症	5		痙攣重積	1
	腎盂腎炎	4		片頭痛	1
	急性巣状細菌性腎炎	3		無熱性けいれん	1
	腎不全	1		顔面神経麻痺	1
感染症	RSウイルス	142	代謝、	成長ホルモン分泌不全性低身長	36
	ウイルス性腸炎	63	内分泌	思春期早発症	4
	ロタ	32		ケトン性嘔吐症	2
	ヒトメタニューモウイルス	26		糖尿病	2
	アデノウイルス	17	その他	脳性麻痺	31
	インフルエンザ	13		染色体異常	5
	溶連菌感染症	13		Miller Dieker 症候群	4
	中耳炎	11		小児麻痺	4
	化膿性リンパ節炎	10		股関節炎	3
	ノロウイルス性腸炎	9		薬物誤飲	3
	不明熱	7		アイカルディ症候群	2
	突発性発疹	7		小児心身症	2
	キャンピロ腸炎	6		肥満症	2
	細菌性腸炎	6		結膜炎	1
	蜂窩織炎	5		広汎性発達障害	1
	周期性嘔吐症	4		多形紅斑	1
	ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群	4		脱水	1
	サルモネラ腸炎	3		脱水症	1
	ヘルペス	3		哺乳不良	1
	リンパ節炎	3		結節性紅斑	1
	帯状疱疹	3		体重増加不良	1
	EBウイルス	2		腸骨筋剥離骨折	1
	ウイルス髄膜炎	2		腹部膨満	1
ウイルス性発疹症	2				
マイコプラズマ	2				

新生児内科

【医療機関の指定・学会認定施設】

日本周産期・新生児医学会暫定研修施設認定

【概要】

1. スタッフ

周産期母子医療センター・NICU 常勤医師

関谷 真一郎 (せきや しんいちろう)	日本小児科学会専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法インストラクター
鷺尾 隆太 (わしお りゅうた) (平成26年9月30日で退職)	小児疾患全般 新生児蘇生法「専門」コース認定
(平成26年4月1日入職) 赤川 友布子 (あかがわ ゆうこ)	小児疾患全般 新生児蘇生法「専門」コース認定
(平成26年10月1日入職) 山口 正 (やまぐち ただし)	小児疾患全般

周産期母子医療センター 非常勤医師・スタッフ

外来、病棟回診・指導

関西医科大学小児科講師

大橋 敦	日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児医学会新生児専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法インストラクター
------	--

大阪市立大学外科学教室講師

諸富 嘉樹	日本外科学会指導医、日本小児外科学会専門医 日本小児泌尿器学会認定医
-------	---------------------------------------

和歌山県立医科大学眼科学教室

南出 文子	
-------	--

臨床心理士

大阪市立大学大学院生活科学研究科・生活科学部

石垣 莉沙	臨床心理士
-------	-------

宿直応援

大阪市立大学外科学教室（現 田附興風会医学研究所北野病院勤務）

林 宏昭	日本外科学会専門医（泉大津市立病院外科常勤）
------	------------------------

関西医科大学小児科学教室

辻 章志	日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児医学会新生児専門医 新生児蘇生法「専門」コース認定
峰 研治	日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児医学会新生児専門医 新生児蘇生法インストラクター

中島 純一	日本小児科学会専門医、新生児蘇生法インストラクター PALSプロバイダー
平林 雅人	関西医科大学大学院、新生児蘇生法「専門」コース認定
山内 壮作	関西医科大学大学院、日本小児科学会専門医、 新生児蘇生法「専門」コース認定

2. 診療体系（主な診療内容と取り組み）

入院病棟・病床： NICU 6床、GCU 9床

- 1) 診療疾患：原則として出生直後または産科施設を退院していない新生児で、以下の入院基準を満たすものを診療対象とする。
(入院基準に一部変更あり。別表参照)
- 2) 他診療科との連携
産婦人科・小児科・小児外科医師、周産期病棟・NICU・GCU看護部、臨床心理士と
合同でNICU病床利用委員会（周産期カンファレンス）を毎週金曜日に開催し、入院患者とハイリスク症例の情報交換ならびに治療方針検討を行っている。
- 3) 地域医療機関との連携
大阪新生児診療相互援助システム（NMCS）産科施設
平成26年NMCS紹介新生児受け入れ実績 21症例
平成26年救急隊搬送新生児受け入れ実績 1症例
- 4) 専門外来
NICU・GCU退院後フォローアップ外来（兼シナジス外来、予約制）
乳幼児健診（1か月健診、後期健診）

3. 主な診療実績

2014年入院内訳

入院数 141

男女比 男80 : 女61

OGCS	16
NMCS	21
院内	103
救急隊	1

居住市町村	症例数
泉大津市	63
岸和田市	26
高石市	20
堺市	12
和泉市	10
貝塚市	2
泉北郡忠岡町	1
泉佐野市	1
泉南市	1
大阪府他	3
奈良県他	1
京都府他	1
合計	141

人工呼吸器使用	
babylog8000plus	6
SLE5000	1
NDPAP	28
器内酸素	17
なし	89

転機

死亡 0例

転院 4例

(大阪府立母子保健総合医療センター、ベルランド総合病院)

他の137例はすべて軽快退院

在胎週数症例数	
28	1
29	1
30	1
31	2
32	4
33	8
34	15
35	7
36	10
37	17
38	28
39	18
40	24
41	5
42	1

出生体重	症例数	%
<1000	0	0
1000-1499	8	5.6
1500-1999	22	15.6
2000-2499	29	20.6
2500-2999	40	28.4
3000-3499	32	22.7
3500-3999	9	6.4
4000<	1	0.7

入院時間帯	症例数	%
深夜帯 0～7時	24	17
日勤帯 8～16時	77	54.6
準夜帯 17～23時	40	28.4

疾患別入院症例分類 (重複あり)

病名		
早産・低出生体重児	低出生体重児	49
	不当軽量児	22
	極低出生体重児	7
	超低出生体重児	0
	早産児	48
呼吸不全	無呼吸発作	31
	胎便吸引症候群	7
	大量羊水吸引症候群	4
	新生児一過性多呼吸	31
	新生児特発性呼吸窮迫症候群	9
	気胸・縦隔気腫	6
	新生児肺出血	1
	咽頭軟化症	1
	慢性肺疾患	1
	その他の呼吸不全	3
循環器疾患	症候性動脈管開存症	2
	心室中隔欠損症	1
	単一臍帯動脈	1
	新生児遷延性肺高血圧	1
代謝性疾患	早発黄疸	4
	遷延性黄疸	1
	新生児低血糖	21
	糖尿病母体児	19
新生児仮死 (超・極低出生体重児を除く)	重症新生児仮死	5
	軽度新生児仮死	4
新生児感染症	新生児敗血症	1
	肺炎	2
	髄膜炎	0
	新生児感染症 (focus不明)	12
双胎	双胎第一子	9
	双胎第二子	9
品胎	品胎第一子	1
	品胎第二子	1
	品胎第三子	1

病名		
消化器疾患	新生児嘔吐・哺乳不良	11
	新生児メレナ	2
	ミルクアレルギー	1
	胆汁鬱滞	1
血液疾患	遺伝性球状赤血球症	1
	播種性血管内凝固症候群	2
	溶血性貧血	1
染色体異常	10番短腕部分欠失	1
その他の新生児合併症	墜落産	2
	帽状腱膜下出血	3
	静脈洞血栓症（疑）	1
その他の先天異常	海綿状血管腫	1
	腎盂拡大	1
	外耳道閉鎖	1
	脳梁欠損	1

考察

泉大津市を中心とした泉州地区北部の周産期医療中核病院をめざしています。

大阪府や泉大津市の援助により平成21年10月に開設され、現在新生児集中治療室（NICU）6床、回復期病床（GCU）9床の合計15床で運営しています。平成22年には164名、平成23年には163名、平成24年には144名、平成25年には158名、そして平成26年には141名の新生児が入院しました。関西医科大学小児科学教室、大阪市立大学外科学教室の協力により、大阪新生児診療相互援助システム（NMCS）に参加して、365日24時間体制で救急入院に対応しています。

平成25年3月に前周産期センター長である北村直行先生が退職となり、常勤医3名体制は維持しているものの、経験年数がこれまでに比すると若くなっております。そのため、NICUの入院基準を、平成25年4月1日より一部変更し、早産児に関しては受け入れ週数を在胎28週から32週へ引き上げました。また各種合併症が懸念される糖尿病母体児や一絨毛膜二羊膜双胎に関しては、出生時の合併症検索のため、全員一旦はNICUに入室するようになりました。不必要な母児分離を避けるため、そのような症例に関しては合併症等認めない場合には可及的速やかに母児同室へ移行させています。

症例としては早産児・極出生体重児等の入院数は減少したものの、在宅医療へ移行する症例を経験しました。それに伴い病棟としての在宅移行のためのマニュアル制作から、各種社会資源の調整等を行うといった当NICUでは開設以来初となる経験を致しました。今後はこの財産を大切に、今後の症例に活かしていきたいと考えています。

また当NICUの特徴として『ファミリーセンタードケア』を今後病棟全体として実践していくべく、平成26年8月より両親の面会時間を順次延長し（平成27年1からの24時間面会を目標として）、またGCUを患者毎にカーテンで仕切って半個室化出来るように、カーテンレールを新たに敷設する等、ソフト・ハード両面からの改革を進めています。

平成26年も救急隊搬送で2名入院がありましたが、自宅出産児（墜落産児）でした。当院産婦人科は月2回、第一・第三土曜日に産婦人科一次救急を請け負っており、今後もこのような症例受け入れがあるものと考えられます。泉州北部に限らず堺市、大阪市、泉州南部からの入院もあり、今後とも広域に連携して周産期医療に貢献することが使命となっています。

4. 業績 平成26年 発表、講演会、学会・研究会活動実績

平成26年5月24日 : 第11回泉大津市立病院地域周産期母子センター新生児蘇生講習会開催

皮膚科

【担当医師】（平成27年3月現在）

部長 永尾 淳
医長 星 郁里

【平成26年度紹介患者数】

計 84名（泉大津市立病院月次経営動態指標平成27年3月分より引用）

【平成26年度外来患者数】

計 7,805名（泉大津市立病院月次経営動態指標平成27年3月分より引用）

【平成26年度入院患者数】

計 18名（退院時要約より引用）

【学会活動など】

1. 偽性血小板減少症をともなった遺伝性出血性末梢血管拡張症 (Osler病) の1例
永尾 淳
(第52回おづカンファレンス ホテルレイクアルスターアルザ泉大津 2014年5月13日)
2. 皮膚の老化とその対策
永尾 淳
(市立病院8月市民公開講座 泉大津市立病院7階大会議室 2014年8月29日)

泌 尿 器 科

スタッフ：梶川博司部長、橋本潔部長

【概 要】

平成26年12月末で森康範副部長が退職し、平成27年1月より橋本潔部長が赴任した。平成26年度の診療実績については一日平均外来患者数は50.4人と前年度に比べ1.0人増加したが、一日平均入院患者数は8.2人と前年度より1.1人減少した。ESWLを除く手術件数は前年度に比べ約20件増加し、手術内容については経尿道的膀胱腫瘍切除術が15件増加した。ESWL件数は前年度に比べ39件増加した。今後も微力ながら良質の医療を提供し地域医療の向上に貢献したいと考えている。

【平成26年度患者数】

入院患者数 8.2名/日
 外来患者数 50.4名/日

【平成26年度手術統計】

(腎・尿管・後腹膜)

腎摘除術	4例
腎尿管全摘術	2例
腎部分切除術	1例
経皮的腎瘻造設術(PNS)	9例
腎生検術	9例
経尿道的尿管碎石術(TUL)	9例
その他	34例

(膀胱)

膀胱全摘+回腸導管造設術	1例
経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt)	70例
膀胱碎石術	12例
膀胱水圧拡張術	2例
膀胱瘻造設術	1例
膣前壁形成術	1例

(前立腺・尿道)

根治的前立腺全摘術	3例
経尿道的前立腺切除術(TUR-P)	12例
直視下内尿道切開術	2例
前立腺生検術	48例
その他	2例

(陰茎・陰囊)

精巣摘出術	3例
陰囊水腫根治術	1例
陰茎全摘術	1例
包茎手術	2例
その他	6例

(その他)

内シヤント造設術	24例
上皮小体摘出術	1例
その他	1例

【平成26年度体外衝撃波結石破碎術件数】

腎結石	51例
尿管結石	75例
合計	126例

【学会発表】

1. 腎移植後妊娠・出産例の検討

森康範、その他9名

第64回日本泌尿器科学会中部総会 平成26年10月17日 浜松

産 婦 人 科

【概要】

産婦人科は平成16年以降、大阪市立大学産婦人科医局より医師が派遣され、平成26年度の常勤医師は以下のとおりである。

平成26年3月末で山内医師が退職し、4月に長嶋医師と今井医師が入職となった。

中川医師は産休・育休のため6月より12月まで休職となった。

全員が病棟入院患者を把握し対処できるようなチーム医療が目標である。

平成26年4月～平成27年3月：常勤医

職 名	氏 名	資 格	備 考・専門領域
副院長（平成26年6月に院長就任） 産婦人科部長	西尾順子	産婦人科専門医 超音波専門医 母体保護法指定医 母体・胎児専門医暫定指導医 新生児蘇生インストラクター	平成16年7月入職 周産期
産婦人科部長	竹林忠洋	産婦人科専門医 母体保護法指定医	平成19年4月入職
産婦人科医長	三枚卓也	産婦人科専門医 母体保護法指定医	平成19年4月入職 不妊・内分泌
産婦人科医長	田中雅子	産婦人科専門医 新生児蘇生インストラクター	平成25年4月入職
医員	中川佳代子	産婦人科専門医	平成24年4月入職
医員	長嶋愛子		平成26年4月入職
医員	今井健至		平成27年4月入職

【外来診療体系】

午前中は産科・婦人科の2診制で診療を行なっている。

午後は特殊外来・予約診・産後1ヶ月健診・助産師外来を主体とした診療を行っている。

胎児超音波検査については月曜日～木曜日に検査枠を設け、妊娠20週、30週頃に健診と同時に胎児スクリーニングを行なえるように配慮している。

医師が超音波検査を担当し、異常の鑑別については複数の医師で協議し、さらに小児科の専門医に相談を行っている。

助産師外来は、母乳に関する相談が多いが、それ以外に妊娠・育児の相談や指導を行なうようになっている。母乳に関するトラブルはできるだけ受け入れるよう配慮しているため、夜間・休日の相談は病棟勤務の助産師が対応し、当院以外の施設で分娩を行った褥婦の相談も受け入れ可能である。

毎週木曜日には両親学級を行い、妊娠中の生活等について熱心な指導を行っている。

また、マタニティヨガ・インファントマッサージの教室を、資格をもった助産師が指導し活動中である。

産科・婦人科の両科に所属する医師は、自然分娩を第一とし、自然分娩が困難な場合は、必要に応じて剖宮産を選択し、剖宮産に対しては可能な限り経膈分娩の方針としている。

希望があれば硬膜外麻酔による無痛分娩が可能で、分娩時の体位も妊婦の希望に応えるよう対処（側臥位での分娩など）をしている。無痛分娩の希望も増加し、入職した産婦人科医師は麻酔科医師の指導をうけるため2～3か月間は麻酔科に所属して研修をうけている。

母乳育児のために母子同室も勧め、健診中に母子同室にするか否かについての希望をきいている。両親学級を受講してもらったうえでの立会い分娩を希望される妊婦が増加しつつあり、陣痛時～産褥までを同じ部屋で行えるLDR専用の分娩室で過ごしてもらっている。

常勤医5～6名＋当直応援医が、産婦人科当直を交代で行い、夜間・休日の産科救急診察や分娩に対処している。

婦人科診療：手術日は火曜・金曜とし、子宮筋腫・卵巣腫瘍・骨盤臓器脱・外陰部病変等の良性疾患に対応している。腹腔鏡下手術は主に卵巣嚢腫・異所性妊娠に対して行なっている。悪性腫瘍に関しては、その状態と患者の希望により、和泉市立病院・市立岸和田市民病院をはじめとする専門の病院や大学病院へ紹介している。午後の予約外来は検査・異形成・更年期・手術後のフォロー患者の対応や、時間のかかる処置を主としてうけいれている。

子宮癌の市民検診は月曜・金曜の予約枠で行い、待ち時間のないよう配慮している。

産科・婦人科ともクリニカル・パスを使用し、各々の症例に対して標準化されたケアを行うようにし、在院日数を短くするべく努力している。

不妊治療についてはタイミング指導、排卵誘発、AIH等は可能で希望者に対して処置をおこなっているが、体外受精希望者は他院への紹介をしている。

他診療科との連携

総合病院である利点として、合併症妊娠について他科へのコンサルトが容易である。

緊急帝王切開時は、休日・深夜を問わないが、手術場の待機スタッフや麻酔科の協力で遅くとも1時間以内に手術に臨める状況にあり、平成21年10月よりNICU病棟が本格的に稼働しているため、分娩時の新生児科医立会いやその後の新生児治療等が独立した病棟で可能となっており、より安心して分娩に臨めるようになった。現在、当院NICUでは、妊娠32週以上、出生体重1500g以上の児については対応可能としているが、状況に応じて新生児科医師と連絡をとりあっている。当院外科では小児外科疾患にも対応可能である。

新生児科医師を中心とした新生児蘇生講習会も院内で行なわれ、当院の助産師・看護師をはじめ、近隣の病院からの受講者にも対応している。

1週間に1回、小児科・新生児科との合同カンファレンスを持ち、また、2か月に1回は泉大津市との連携で、虐待予防をふまえた周産期社会的ハイリスク妊婦の連絡会を行っている。

地域医療機関との連携

産科診療については近医で健診を行い、分娩は当院でといったセミ・オープン方式で分娩予約をしている症例も多い。

和泉市立病院との協体制により当院は産科に特化し、婦人科悪性症例は和泉市立病院や市立岸和田市民病院等の関連病院や大学病院、その他近隣の病院への紹介としているが、患者の希望に応じて紹介病院を考慮している。術後の経過観察・追加治療や初期治療後の緊急時対応は当院で行うことも可能である。

当直医の派遣は大学病院や和泉市立病院の協力を得て、365日当直医を配置し、緊急時の対応に備え医師を1～2名待機としている。

大阪府産婦人科相互援助システム（OGCS）の加盟病院であり、母体搬送件数は年間平均約50件である。

大阪府産婦人科一次救急の受け入れにも月2回であるが協力している。

【診療実績】(平成26年1月～12月)

分娩統計（平成26年1～12月）

分娩様式		(双胎妊娠児数)
正常分娩(自然)	392	3
(陣痛促進)	67	2
(陣痛誘発)	79	2
骨盤位経膈分娩	9	1
吸引分娩	25	0
鉗子分娩	3	0
帝王切開	112	4
選択的帝王切開	82	4
緊急帝王切開	30	0
中期中絶	3	0
子宮内胎児死亡	5	0
計	695	12

母体搬送受入症例：56症例（婦人科手術症例を含む）

近隣の開業医・病院からの搬送が多く、30～36週の切迫早産や前期破水、子宮内胎児発育遅延といった症例がほとんどである。正期産の期間に入った場合は希望により前医へのバックトランスファーを行っている。

当院から他院への搬送症例は3例であった。

手術統計（手術場使用）平成26年1～12月

帝王切開術	112 (選択的:82 緊急:30)
子宮外妊娠	5 (3)
単純子宮全摘術	18
筋腫核出術	6
附属器摘出術	20 (9)
卵巣悪性手術	0
性器脱	6
その他小手術(円錐切除、頸管縫縮など)	17 (3)
計	184 (15)

()内 腹腔鏡・内視鏡手術

その他、病棟処置室での小手術は流産手術や子宮内膜増殖症、子宮頸管ポリープ、筋腫分娩、コンジローマ焼灼等、年間100件前後の症例を数える。

眼 科

【概要】

稲垣直人部長、澤明子医師の2名体制で平成26年度を迎えた。手術機器、外来検査機器等に特に変化なかったが、平成27年2月末で稲垣直人部長が退職し、スタッフ減となった。

【手術件数】

(手術室)

超音波白内障手術	190件
眼瞼内反症	2件
眼瞼下垂	2件
翼状片	1件
霰粒腫	3件
ケナコルトテノン嚢下注入	2件
ルセンティス硝子体腔内注射	67件
その他	40件

計 307件

(レーザー手術)

網膜光凝固術	50件
YAG後発切開術	68件
レーザー虹彩切開術	4件

計 122件

耳鼻咽喉科

【医局の現況】

平成22年9月より常勤医師が不在となり、以降は非常勤医師により外来診療を行っている。

非常勤医師 坂口喜清医師 木村忠司医師 宮下美恵医師 藤原良平医師 小林孝光医師
小泉敏三医師

【入院患者数】

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
入院患者数	0人	0人	0人	0人

【外来患者数】

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
外来患者数	5,810人	5,010人	5,145人	5,544人

麻 醉 科

【スタッフ】

常勤医 高津徹

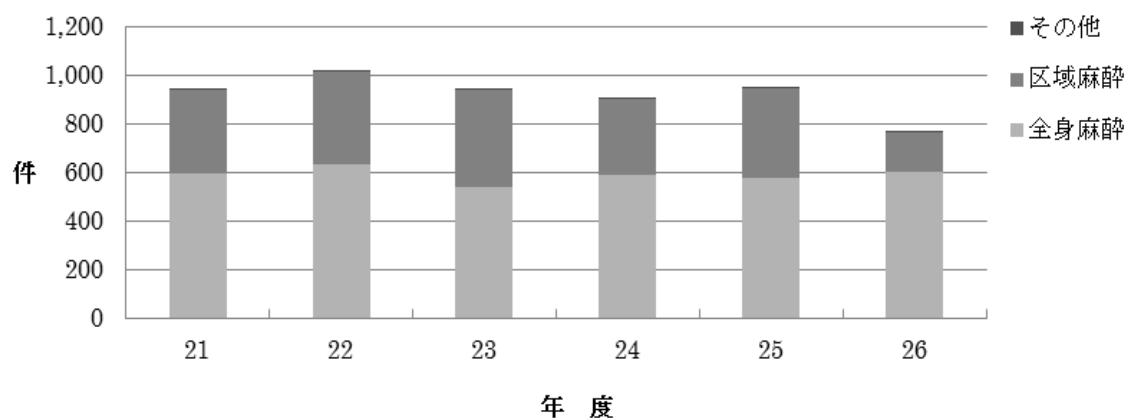
4月より大学からの医師派遣が打ち切られ、一人常勤となった。

【概要】

本年度、当科が担当した麻酔件数は、下表のとおりであった。

	件数
全身麻酔	603件 (78.1%)
区域麻酔	159件 (20.6%)
その他	10件 (1.3%)
合 計	772件 (100%)

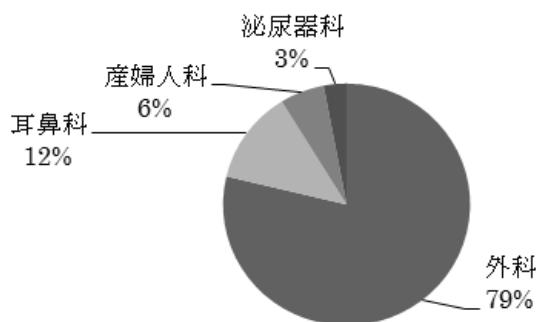
麻酔件数の年次推移



全身麻酔の依頼には院外医師の応援を受けながらも全例に対応したが、脊椎麻酔では一部にしか応える余裕がなかった。そのため当科管理の麻酔件数は、昨年度より約200件減少した(上グラフ)。

全身麻酔603件における診療科の内訳を見ると、昨年度より泌尿器科の件数が半減し外科が43件増えた結果、外科の占有率が一層大きくなった(下グラフ)。

全身麻酔の
診療科別占有率



放射線科

【スタッフ】

宇田光伸（副院長兼放射線科部長）、清水洋（副部長）の2名の常勤医師、9名の診療放射線技師で平成26年度を迎えた。

【機器】

一般撮影

（株）日立メディコ DHF-S2-158×2台

東芝メディカルシステムズ（株） MRAD-A32S/01×1台

X線TV装置

東芝メディカルシステムズ（株） ZEXIRA DREX-ZX-80×2台

X線CT装置

GEヘルスケア・ジャパン（株） LightSpeed Plus×1台

（株）フィリップスエレクトロニクスジャパン Brilliance iCT×1台

MR I装置

シーメンス・ジャパン（株） MAGNETOM Avanto×1台

乳房撮影装置

シーメンス・ジャパン（株） MAMMOMAT 3000Nova×1台

血管撮影装置

（株）島津製作所 DIGITEX2400×1台

回診型撮影装置

（株）日立メディコ シリウス125B×1台

（株）日立メディコ シリウス125MX×1台

（株）日立メディコ シリウス130HP×1台

放射線治療装置

（株）三菱電機 EXL-12SP×1台

シュミレーター

（株）島津製作所 SAT-20×1台

放射線治療計画装置

（株）バリアンメディカルシステムズ ECLIPSE×1台

骨塩定量検査装置

GEヘルスケア・ジャパン（株） Lunar Prodigy×1台

H26年度放射線科検査件数

一般撮影	頭頸部		躯幹部					四肢	
	頭部	頸部	胸部	腹部	骨部	小児	ドック	上肢	下肢
4月	41	11	630	292	290	247	11	57	64
5月	63	8	584	274	258	232	24	49	91
6月	85	10	659	292	359	245	21	41	92
7月	45	13	614	303	309	169	24	54	64
8月	56	10	575	304	228	213	22	60	85
9月	53	23	588	313	320	201	25	38	99
10月	50	19	601	290	283	198	24	29	103
11月	48	8	525	271	284	191	25	27	40
12月	80	15	564	344	240	241	21	40	60
1月	42	8	585	278	264	210	8	23	74
2月	65	7	576	256	290	181	14	39	69
3月	47	15	649	249	270	325	22	62	108
計	675	147	7,150	3,466	3,395	2,653	241	519	949

一般撮影	頭頸部 合計	躯幹部 合計	四肢合計	全合計
4月	52	1,470	121	1,643
5月	71	1,372	140	1,583
6月	95	1,576	133	1,804
7月	58	1,419	118	1,595
8月	66	1,342	145	1,553
9月	76	1,447	137	1,660
10月	69	1,396	132	1,597
11月	56	1,296	67	1,419
12月	95	1,410	100	1,605
1月	50	1,345	97	1,492
2月	72	1,317	108	1,497
3月	62	1,515	170	1,747
計	822	16,905	1,468	19,195

ポータブル 撮影	病棟撮影	OP室撮影	合計
4月	147	24	171
5月	107	18	125
6月	117	36	153
7月	77	25	102
8月	89	35	124
9月	106	29	135
10月	84	17	101
11月	86	21	107
12月	61	21	82
1月	83	15	98
2月	94	25	119
3月	96	14	110
計	1,147	280	1,427

乳房撮影	乳腺外来	検診	合計
4月	15	12	27
5月	9	19	28
6月	12	23	35
7月	21	21	42
8月	14	17	31
9月	9	14	23
10月	18	27	45
11月	17	20	37
12月	9	11	20
1月	11	11	22
2月	10	13	23
3月	13	22	35
計	158	210	368

骨密度測定	予約	予約外	ドック	合計
4月	9	4	11	24
5月	11	6	24	41
6月	15	4	21	40
7月	6	5	24	35
8月	8	5	22	35
9月	16	5	25	46
10月	12	2	24	38
11月	14	1	25	40
12月	10	1	21	32
1月	17	3	8	28
2月	11	1	14	26
3月	17	5	22	44
計	146	42	241	429

CT検査	頭頸部単純		頭頸部造影		四肢単純・造影		その他 単純・造影	RTPS
	頭部	頸部	頭部	頸部	上肢	下肢		
4月	159	2	4	0	0	1	0	4
5月	143	6	11	1	0	2	2	2
6月	162	2	7	3	1	2	0	1
7月	141	1	6	2	0	0	1	4
8月	149	4	9	1	0	2	0	9
9月	160	1	4	1	2	2	0	7
10月	159	5	7	1	0	2	0	7
11月	149	3	4	1	0	1	1	3
12月	119	5	7	1	0	0	0	0
1月	115	6	8	1	0	0	0	7
2月	145	4	9	3	2	0	0	2
3月	142	1	8	1	0	0	0	4
計	1,743	40	84	16	5	12	4	50

CT検査	躯幹部単純				躯幹部造影				
	胸部	腹部	骨盤部	脊椎部	胸部	腹部	骨盤部	脊椎部	心臓
4月	146	134	7	2	9	80	0	0	0
5月	174	139	6	1	9	65	0	0	7
6月	160	167	4	0	16	71	0	0	8
7月	185	162	4	2	10	60	0	0	6
8月	158	157	4	2	20	59	0	0	2
9月	178	145	2	0	11	61	0	0	2
10月	194	157	3	1	12	70	0	0	5
11月	174	155	3	0	10	70	1	0	4
12月	162	170	4	1	12	58	0	0	7
1月	160	150	4	0	13	61	1	0	7
2月	159	139	8	1	8	59	0	0	3
3月	173	139	2	0	3	51	0	0	4
計	2,023	1,814	51	10	133	765	2	0	55

CT検査	頭頸部 合計	四肢 合計	躯幹部 合計	その他 合計	RTPS	全合計
4月	165	1	378	0	4	548
5月	161	2	401	2	2	568
6月	174	3	426	0	1	604
7月	150	0	429	1	4	584
8月	163	2	402	0	9	576
9月	166	4	399	0	7	576
10月	172	2	442	0	7	623
11月	157	1	417	1	3	579
12月	132	0	414	0	0	546
1月	130	0	396	0	7	533
2月	161	2	377	0	2	542
3月	152	0	372	0	4	528
計	1,883	17	4,853	4	50	6,807

血管造影	腹部	心カテ	合計
4月	2	1	3
5月	3	1	4
6月	5	1	6
7月	3	2	5
8月	6	0	6
9月	5	1	6
10月	3	1	4
11月	6	0	6
12月	4	0	4
1月	4	1	5
2月	5	1	6
3月	7	0	7
計	53	9	62

MRI検査	頭頸部単純			頭部造影	四肢単純・造影		その他 単純・造影
	頭部	頸部	ドック	頭頸部	上肢	下肢	
4月	94	4	1	3	3	8	0
5月	98	1	1	2	1	5	0
6月	82	1	3	1	1	7	0
7月	103	2	1	4	2	4	1
8月	98	2	2	5	0	4	2
9月	101	3	2	2	0	4	1
10月	119	2	3	7	3	6	1
11月	94	2	1	3	0	9	0
12月	94	0	2	2	0	5	1
1月	85	1	3	7	5	6	0
2月	100	1	4	3	3	7	2
3月	113	1	4	1	2	9	0
計	1,181	20	27	40	20	74	8

MRI検査	躯幹部単純					躯幹部造影				
	胸部	腹部	骨盤部	肩・股関節	脊椎部	胸部	腹部	骨盤部	肩・股関節	脊椎部
4月	2	9	30	5	35	3	2	3	0	0
5月	0	21	28	8	42	3	4	2	0	1
6月	0	13	28	0	37	9	11	2	0	2
7月	0	15	30	6	22	6	13	1	0	1
8月	1	13	28	5	43	2	5	1	0	1
9月	0	18	23	4	38	3	6	0	0	2
10月	0	13	32	10	44	1	9	3	1	2
11月	0	11	37	6	34	1	11	2	0	0
12月	0	19	44	5	32	3	9	0	0	1
1月	1	16	27	8	42	2	4	0	0	0
2月	0	14	24	2	32	3	5	0	0	1
3月	0	17	34	4	35	2	6	2	0	0
計	4	179	365	63	436	38	85	16	1	11

MRI検査	頭頸部 合計	四肢 合計	躯幹部 合計	その他 合計	全合計
4月	102	11	89	0	202
5月	102	6	109	0	217
6月	87	8	102	0	197
7月	110	6	94	1	211
8月	107	4	99	2	212
9月	108	4	94	1	207
10月	131	9	115	1	256
11月	100	9	102	0	211
12月	98	5	113	1	217
1月	96	11	100	0	207
2月	108	10	81	2	201
3月	119	11	100	0	230
計	1,268	94	1,198	8	2,568

放射線治療	診察	シミュレーション	治療照射	合計
4月	5	4	75	84
5月	2	3	90	95
6月	3	3	77	83
7月	4	3	63	70
8月	13	13	159	185
9月	8	9	287	304
10月	8	7	188	203
11月	4	5	127	136
12月	3	0	79	82
1月	8	7	65	80
2月	4	2	127	133
3月	4	4	67	75
計	66	60	1,404	1,530

X線TV検査	UGI	BE	食道造影	小腸造影	イレウス管	CF	EIS	その他消化器
4月	3	2	4	0	17	2	1	2
5月	4	5	3	2	6	0	0	2
6月	1	2	3	3	16	1	3	1
7月	6	3	2	2	5	1	3	4
8月	9	3	0	2	2	0	3	2
9月	7	2	0	2	9	0	0	3
10月	11	2	0	2	10	1	2	0
11月	10	1	2	1	8	1	0	3
12月	3	4	1	3	1	1	3	4
1月	2	2	2	0	2	0	2	3
2月	4	1	2	0	5	0	2	2
3月	8	2	2	3	3	0	5	1
計	68	29	21	20	84	7	24	27

X線TV検査	HSG	腸重積	チューブ造影	PTC(GB)D	PEIT	ERCP	ENBD	BF	RFA	IVH	トロッカー
4月	0	0	2	6	2	3	0	1	1	1	3
5月	0	1	0	2	2	8	0	2	0	1	1
6月	1	1	0	7	0	9	0	4	3	2	4
7月	0	0	0	2	1	5	0	4	1	1	2
8月	2	4	1	2	0	3	1	2	2	2	0
9月	2	0	0	2	1	4	0	4	0	2	1
10月	1	1	0	4	0	6	1	5	2	1	0
11月	2	0	0	4	0	4	1	1	0	4	1
12月	4	2	0	4	0	2	0	2	1	2	1
1月	0	1	1	0	2	5	2	4	2	2	5
2月	2	0	1	3	0	5	0	2	0	0	0
3月	1	0	1	4	1	2	0	0	2	2	0
計	15	10	6	40	9	56	5	31	14	20	18

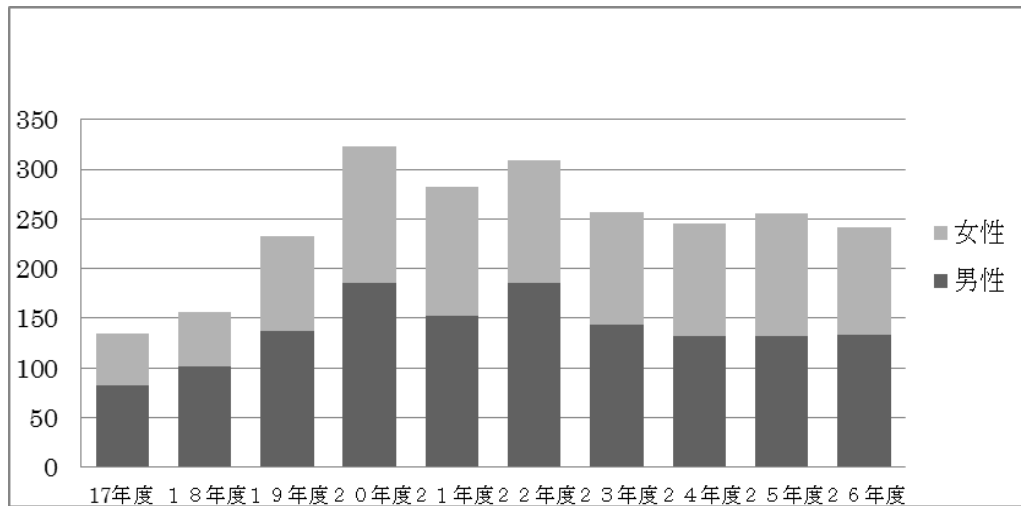
X線TV検査	IVP・DIP	S-J交換	UCG VCG・CG	RP・AP	その他	全合計
4月	6	17	3	0	1	77
5月	6	17	1	0	1	64
6月	7	13	1	1	1	84
7月	11	13	1	0	1	68
8月	9	16	2	0	1	68
9月	7	11	1	1	2	61
10月	7	18	1	1	1	77
11月	2	11	2	0	0	58
12月	6	14	1	1	2	62
1月	6	13	1	0	1	58
2月	9	12	0	0	3	53
3月	10	10	2	0	1	60
計	86	165	16	4	15	790

健 診 科

【概要】

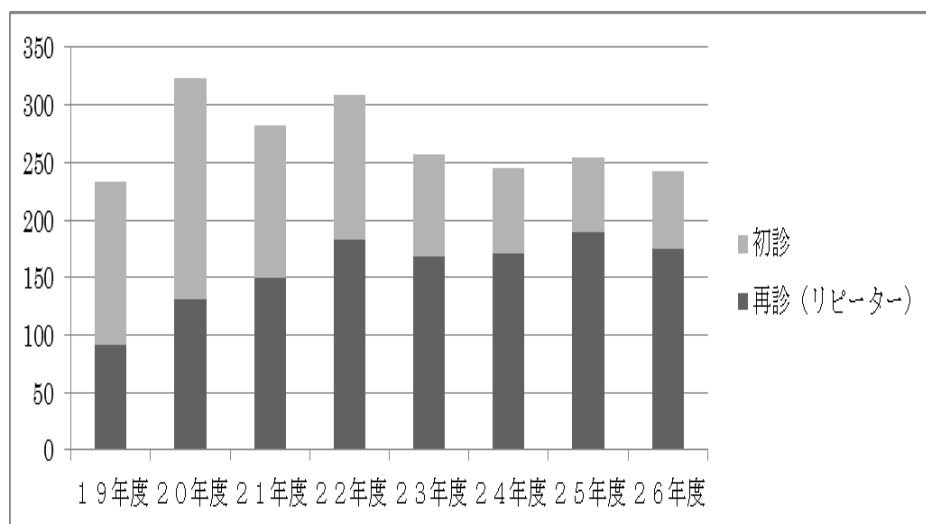
平成25年度は255件の件数であったが、26年度は242件と13件減となった。男女別では、男性は1件増の133件、女性は14件減の109件であった。（図1）

図1 年度別人間ドック件数(男女別)



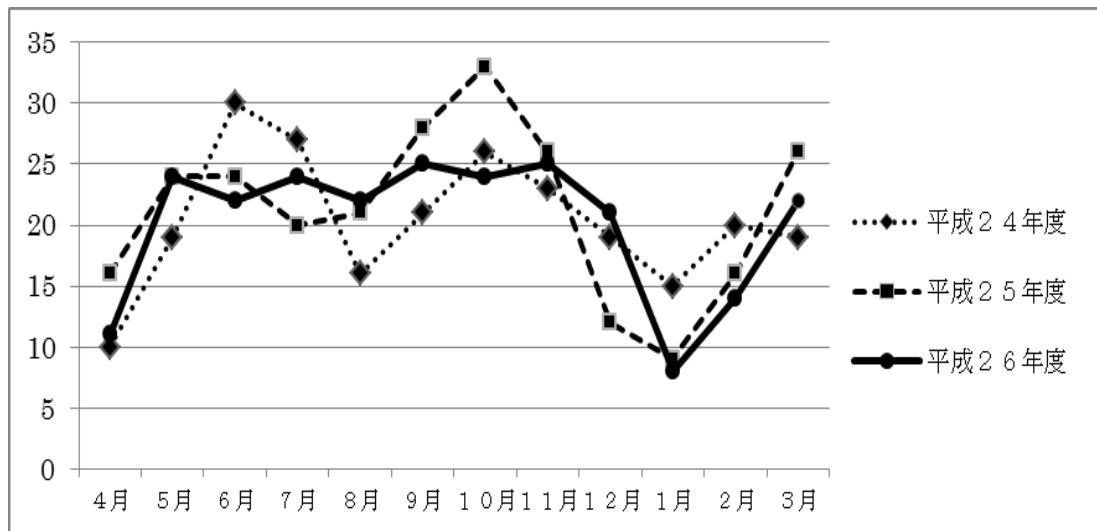
初診、再診別でみると初診は1件増の67件。再診（いわゆるリピーター）は14件減の175件であった。（図2）

図2 初診再診別人間ドック件数



月別件数で見ると、9、10、11月に多く、4月、1月に少ない傾向は、ほぼ例年どおりであった。(図3)

図3 月別人間ドック件数



平成19年より実施している脳ドックであるが、平成24年度は20件、25年度は11件、26年度は27件の実績であった。

また、26年度より新しい取り組みとしてABC検診、AICS検診を導入した。

ABC検診15件、AICS検診94件の実績であった。

今後も積極的にこれら新しい検診をアピールして、胃がんを含め各種がんの早期発見、早期治療に貢献していきたい。

中央検査科部

【スタッフ】

平成26年度の検査科部体制は4月1日現在、部長（内科医）1名、臨床検査技師14名（内訳：正規職員10名、嘱託職員3名、産休代替要員1名）、事務職員1名。

- 認定技師 ・超音波検査士4名（腹部、体表3名・循環器1名）
- ・細胞検査士1名（国際細胞検査士含む）
- ・大阪糖尿病療法指導士2名

【概要】

（検体検査）

血液、生化学検査オーダーは増加したが、尿一般検査（内科初診尿検査廃止）が減少したため、前年度に比べて減少した。

健診関連では、市職員の大腸がん検診やA I C Sキャンペーンを実施した。

（生理検査）

頸動脈・下肢動静脈エコーが微増するも、各超音波検査含めオーダー数は減少した。また、病床利用率向上と潜在的な需要から終夜睡眠検査を導入した。

（病理検査）

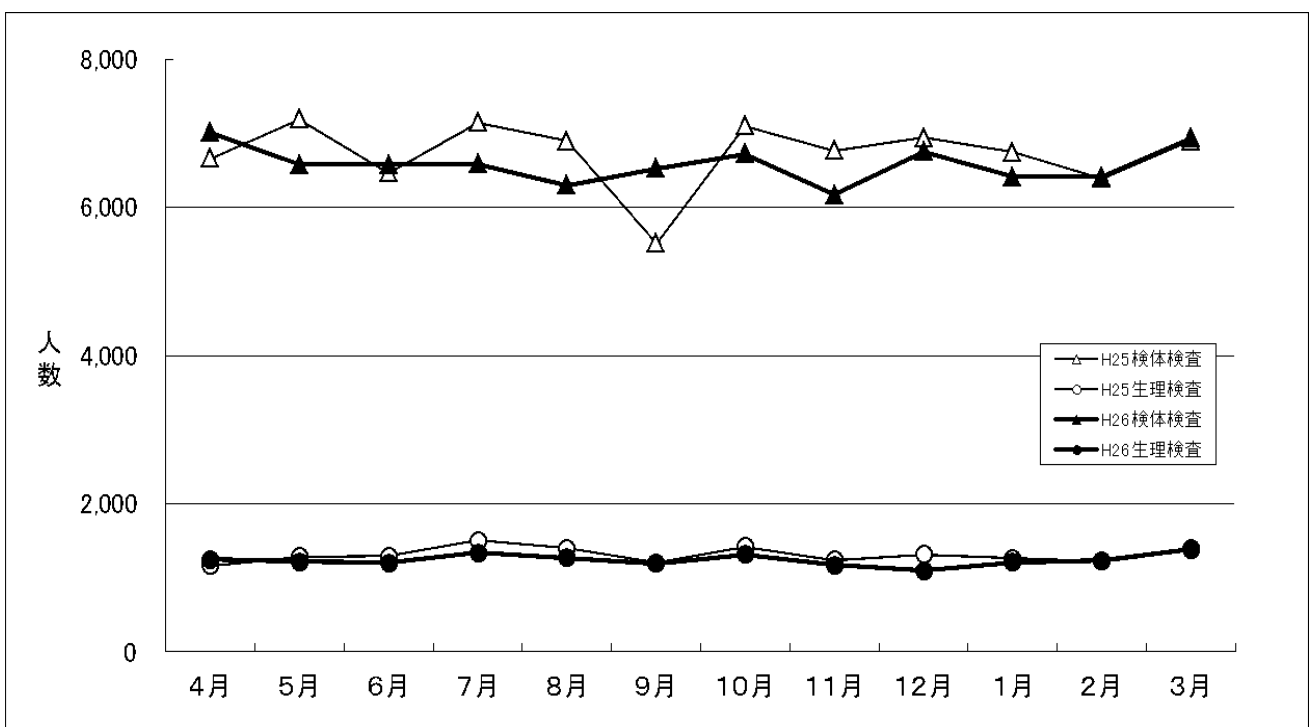
術中迅速組織検査と細胞診が増加したことで、オーダー数は微増した。また、剖検も2例行うことができた。

（輸血検査）

病院機能評価受審に向けた取り組みの中で、血液製剤廃棄率の高さが問題となったため交差適合試験件数が減少した。この影響により輸血適正加算基準をクリアすることができなくなり、平成27年度は輸血管理加算（Ⅱ）のみとなった。

【実績】

平成26年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体検査	尿一般	3,182	2,820	2,824	2,999	2,798	2,722	3,023	2,703	2,976	2,729	2,475	2,879	34,130
	血液・生化学検査	3,773	3,724	3,711	3,542	3,458	3,760	3,666	3,428	3,743	3,651	3,895	4,022	44,373
	細菌・ウイルス検査	12	7	12	16	15	8	9	11	7	10	14	13	134
	輸血検査	43	31	31	30	27	40	27	29	24	20	27	17	346
	小計	7,010	6,582	6,578	6,587	6,298	6,530	6,725	6,171	6,750	6,410	6,411	6,931	78,983
	時間外検査	758	786	614	662	686	669	644	769	972	724	622	679	8,585
外注検査(細胞診検査含)		1,864	2,178	1,919	1,808	1,902	1,686	1,694	1,578	1,790	1,544	1,587	1,877	21,427
生理検査	脳波	44	43	47	47	70	51	39	43	39	43	43	62	571
	心電図	395	402	444	434	387	408	417	392	344	386	385	465	4,859
	心エコー	125	124	120	117	96	105	126	104	101	121	131	142	1,412
	神経伝導速度	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	腹部エコー	442	424	377	463	474	420	481	386	419	438	457	445	5,226
	ドプラーエコー	16	15	19	23	28	20	28	27	18	20	25	33	272
	甲状腺エコー	31	26	39	30	29	29	32	29	34	32	30	46	387
	頸動脈エコー	39	42	40	47	41	37	54	50	36	41	48	57	532
	乳腺エコー	31	22	18	33	20	20	31	33	16	21	16	23	284
	マスター負荷心電図	3	5	4	5	6	2	1	3	1	3	1	3	37
	トレッドミル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ホルター心電図	10	15	16	14	12	7	11	8	10	8	8	12	131
	肺機能	75	64	49	77	83	63	54	59	51	58	51	64	748
	脈波	4	5	3	11	7	8	5	11	11	8	12	13	98
	ABR	6	5	1	1	1	5	5	1	0	1	0	1	27
	ABI	25	23	29	33	17	18	30	27	14	29	27	27	299
小計	1,246	1,216	1,206	1,335	1,271	1,193	1,314	1,173	1,095	1,209	1,234	1,393	14,885	
病理	細胞診検査	237	283	318	269	234	237	287	225	221	219	217	255	3,002
	病理検査	262	262	299	313	323	256	298	251	246	234	273	279	3,296
	免疫抗体法	12	19	9	14	17	14	12	18	21	18	25	17	196
	迅速術中組織検査・細胞診	7	4	9	11	10	4	8	4	7	5	6	7	82
	剖検数	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2



..... 4

薬剤部の現況

4. 薬剤部の現況

【スタッフ】

薬剤師 9名、事務員（嘱託） 1名

【概要】

平成26年度は、6月12日に改正薬剤師法が施行され、調剤時における薬剤師の役割が「情報提供義務」から「情報提供及び指導義務」に変更となった。この法改正は、患者ニーズを把握し、複雑化している薬物療法において、薬学的知見に基づいた指導を実施することが求められているものであります。

この法改正を受けて、薬剤部では、薬剤指導と情報提供の強化に取り組み、服薬指導件数の増（前年度比10.5%増）、チーム医療での積極的な情報提供、薬剤情報の発信源であるD I室業務の充実、D Iニュースの定期発行、出前講座の実施、研修会の講師等を行ってまいりました。

また、薬品費の削減に取り組み、持参薬の有効活用、後発医薬品の採用増等（前年度比30品目増）に取り組んでまいりました。

【採用医薬品数】平成27年3月末時点

内服薬	452品目（内、後発薬品142品目）
外用薬	228品目（内、後発薬品41品目）
注射薬	445品目（内、後発薬品93品目）
合計	1,125品目（内、後発薬品276品目）

【薬学部学生実務実習受け入れ】

1期（平成26年4月14日～7月6日）	兵庫医療大学	1名
2期（平成26年7月7日～9月28日）	大阪大谷大学	2名
3期（平成26年9月29日～12月14日）	大阪大谷大学	2名
4期（平成27年1月7日～3月24日）	大阪大谷大学	1名

【講演・研修会等】

平成26年7月10日 南大阪呼吸器レクチャー

『皮膚感染症領域における広域抗菌薬の効果』 南野 充宏

平成26年10月19日 出前講座

『ワクチンについて～流行してからでは遅い？～』 宇梶 明起

平成26年10月23日 院内感染対策研修

『TDM（薬物血中濃度モニタリング）とは』 南野 充宏

平成26年11月3日 出前講座

『くすりの管理について～災害など、いざという時のために～』 宇梶 明起

平成26年11月11日 糖尿病教室

『糖尿病注射薬は怖くない～膵臓を長持ちさせるために～』 松岡 慶子

平成26年11月17日 市民公開講座

『認知症とくすり』 田辺 和史

平成26年11月27日 泉大津支部薬薬連携研究会

『吸入療法～薬剤師としての取り組み～』 野中 あおい

平成26年12月18日 院内医療安全研修会

『医薬品の適正使用に向けて』 田辺 和史

平成27年2月18日 出前講座

『知って得するお薬の飲み方、使い方、飲み合わせについて』 宇梶 明起

平成27年2月19日 出前講座

『くすりの管理について～災害など、いざという時のために～』 宇梶 明起

平成27年2月22日 出前講座

『認知症とくすり』 南野 充宏

平成27年3月19日 南大阪薬薬連携協議会

『当院におけるクリニカルパスへの取り組み』 野中 あおい

【専門・認定薬剤師等取得状況】

認定実務実習指導薬剤師 2名

日本薬剤師研修センター認定薬剤師 3名

生涯研修履修認定薬剤師 5名

糖尿病療養指導士 1名

日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士 1名

平成26年度薬剤部統計

	外 来							入 院							
	院外処方箋 枚数 (枚)	院内処方箋 枚数 (枚)	左記の内小児救 急処方箋枚数 (枚)	院外処方箋発 行率 (%)	化学療法 ミキシング件数			入院処方箋枚 数 (枚)	注射薬		薬剤管理指導算定件数				持参薬鑑別件 数 (件)
					580点	430点	入院		処方箋枚数 (枚)	処方件数 (件)	ハリスカ(380点)	その他(325点)	麻薬管理加算 (50点)	退院時指導科(90点)	
平成26年4月	6,433	302	211	95.5	40	9	20	1,781	1,802	5,394	121	349	10	126	174
5月	6,260	273	205	95.8	34	5	18	1,734	1,628	4,154	105	285	8	109	149
6月	6,175	246	178	96.2	34	13	23	1,832	1,763	5,143	123	301	6	123	185
7月	6,597	270	219	96.1	40	10	10	1,702	1,693	4,740	124	313	5	120	151
8月	5,897	227	181	96.3	25	10	15	1,684	1,885	5,337	97	324	10	118	177
9月	6,188	239	193	96.3	33	11	7	1,609	1,666	4,690	78	309	10	101	131
10月	6,692	219	184	96.8	31	9	12	1,729	1,683	4,639	99	349	16	131	174
11月	5,910	240	174	96.1	24	9	12	1,610	1,746	4,755	103	348	9	126	156
12月	6,611	410	326	94.2	24	8	3	1,772	1,643	4,503	117	339	17	106	199
平成27年1月	6,095	351	231	94.6	30	10	10	1,570	1,334	3,567	123	344	17	99	186
2月	5,797	236	171	96.1	29	8	12	1,602	1,646	4,692	108	374	10	126	186
3月	6,896	266	217	96.3	27	11	31	1,740	1,746	5,103	90	393	9	112	189
合計	75,551	3,279	2,490	95.8	371	113	173	20,365	20,235	56,717	1,288	4,028	127	1,397	2,057
月平均	6,295.9	273.3	207.5	95.8	30.9	9.4	14.4	1,697.1	1,686.3	4,726.4	107.3	335.7	10.6	116.4	171.4

..... 5

看護部の現況

5. 看護部の現況

看護部の理念

私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任をもって最善を尽くします。

平成26年度 看護部目標

患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する

1. 患者に寄り添う看護が提供できる
2. 全員が前向きに経営に参画できる
3. 他職種と連携し専門職として看護が提供できる環境が整う
4. 専門職としての自覚を持ち、共に成長できる

【平成26年度の主な取り組み】

1. 病床稼働率85%達成のため、円滑に入院を受け入れられるように25年度3月から開始した応援体制が定着した。
2. 看護部委員会に現任教育推進委員会を新たに設置。院外研修受講者による伝達講習の計画・実施、および伝達講習受講者による部署での伝達を計画的に支援した。また、認定看護師が行う研修の企画・運営を行った。
3. 看護職員の接遇の維持向上のために接遇研修を継続実施した。2ヶ月に1回行われる接遇研修の運営を、看護部患者サービス向上委員会が担当した。
4. 看護職員の接遇の維持向上のために患者アンケート調査を継続実施、結果を全ての看護単位に返し、課題の共有、改善策を計画・実施・評価した。
5. 公費院外研修受講者による伝達講習の計画的実施を開始。
6. 病院機能評価・機能種別機能評価を受審した。各部署1名の看護部機能評価委員を2名に増員して準備をすすめた。
7. 7月から認定看護師に特別勤務手当支給を開始。
8. 透析室のベッド数が増床。看護師配置1名増。
9. 外来治療室の非常勤職員退職に伴い、専任の正職員1名を配置。
10. 部署のチーム力を強化するためのリーダー育成を主任会が担当。当院における目指すべきリーダー像について意見交換・共有を行い18名を対象にリーダー研修を実施した。

[看護部]

看護部長 鳥羽 敏子

看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
26年度看護部目標	患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する				
区分	目標	主な成果	25年目標値	25年実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に寄り添う看護が提供できる	患者一人ひとりの看護を 考えることができる 接遇向上	ケースカンファレンス件数 患者参画型看護計画の件数 全対象数 固定チームナーシングマニュアルの 見直し 1回/年 患者アンケートで良いコメント 接遇研修実施数 6回/年 お礼の件数	424件/年 2,980件/年 1回/年 多数あり 7回/年 多数	患者アンケートの中に「寄り添っていただいて」という内容が見られるようになってきた。患者にそう感じてもらえるような看護実践が浸透してきたと考える。「患者に寄り添う看護」を継続していき、多くの方からこのような反応をもらえるように努めていく。 看護部主催の接遇研修の参加人数は1年間で178人。受講回数は定めていないが、参加していない職員もいる。ころならずも患者から接遇に対する苦情のあった職員もおり、他が努力していてもその1人の対応で全てが「0」になってしまう事を再度認識して日々の業務を行うように、部署・看護部全体で一層の接遇向上を継続して行っていく事が課題である。
財務の視点	全員が前向きに経営に参画できる	診療報酬改定への対応 稼働率85%達成のための 方策検討 NASVA病床の安定した運 営	看護師長会での検討回数 1回以上 業務改善数 260件/年以 上 NASVA委託病床患者数 16人/月	2回 347件/年 16人/月 病床利用率99.6%	前向きに経営に参画する姿勢がみられるようになってきた。しかし、全職員が前向きであるとは言えない点もあり、部署の所属長の意識をもっと高めていく事が課題である。業務改善には各部署積極的に取り組んでいる。引き続き「改善」の「さらなる改善」を推し進めていければと考える。NASVA委託病床は利用率99.6%。次年度は3年の入院期間に入る患者も多く、継続して安定した入院患者確保をしていくことが課題である。また新看護プログラム研修の受講が決まれば、ますます病棟は活性化していくことが期待されている。
内部プロセスの視点	他職種と連携し専門職として看護が提供できる環境が整う	応援機能の定着と充実 看護補助者業務の効率化と 連携 効果的な業務改善・業務 検討 他職種との協働 看護広報活動	応援回数 看護補助者研修 3回/年 インシデントレポートからの業務改 善数 退院調整加算算定件数 活動数	98回/年 3回/年 47件/年 27件/年 6件/年	応援機能は定着したが、各部署で応援要員が捻出できない状況もある。所属長の意識の統一が課題である。看護補助者研修は成果があったし、助手の応援機能も開始できた。応援内容の種類を増していくように次年度は取り組んでいく。インシデントレポートを活用する認識ができ多くの業務改善につながった。加算件数は少ないが、患者の退院支援には多くの職種と関わることができた。患者・家族の立場に焦点をおいた退院支援を実践していく。
学習と成長の視点	専門職としての自覚を持ち、共に成長できる	看護実践能力向上 新採用者の定着 リーダーの充実 後輩育成・リーダー育成 安全・安心な看護技術の 提供 看護の専門性の向上	研修参加者数 退職者数 0人 リーダー認定者数 20人/年以 上 リーダー研修会 2回/年	2,962人/年 1人/年 37人/年 3回/年	現任教育推進委員会を看護部に新設した。この委員会の活動や教育担当者の活動で研修参加数が増加した。しかし部署間で参加回数に開きがあり、やはり所属長の認識を統一し、行動に移せるようにしていくことが課題である。リーダーの申請者・認定者も増加した。主任会が行ったリーダー研修は看護部において「教育目標」を見直すきっかけになったと考える。次年度は当院看護部にそった「教育目標」を検討していく。

[3階詰所]

看護師長 小林 祥子					
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
26年度看護部目標	患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する				
部署の使命	1. 患者に寄り添い、質の高い看護を提供する 2. スタッフ全員が、生き生きと働ける職場を作る				
区分	目標	主な成果	26年度目標値	26年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に寄り添い質の高い看護を実践する	看護の振り返りができる 患者一人一人の看護を考 えることができる 患者参画型看護計画の 継続 接遇の向上	ケースカンファレンス数 120件以上/年 記録監査件数 各チーム30件 以上/年 患者参画型看護計画件数 対象患者100% 看護計画評価修正数 対象 患者の60%に実施 アグシデント数 0件 苦情件数 0件	40件 平均22件 100% 78% 11件 0件	カンファレンス実施数は各チーム持ち回りで担当者を決めていたが、実施数は目標達成できなかった。時間設定が業務多忙な時間と重なるので、テーマの提供方法やチーム内カンファなど工夫が必要。内容については合同カンファやデスカンファ1件実施し看護の振り返りができた。今後は論理的視点に立った意見交換を効果的にできるよう検討していく。 目標には届かなかったが、看護必要度と併せてチーム内で行う事で記録監査は定着してきている。今後はICの同席・記録を増やし、記録内容のレベルアップを目指す必要がある。記録監査の定例日を増やしていく。 パス以外全員実施できた。維持していく。治療方針変更時は計画修正を行う事ができているが、後追いになることもあった。適時に修正できるよう記録監査の充実や医師との連携を密にしていく。 転倒転落5件事故抜針6件。安定剤服用後や高齢者の転倒が続いている。センサーマットを常備し必要な状況にすぐ対応できるようにしたことで、前半よりは件数は減ったが、転倒での骨折1件あり、注意喚起と環境整備で事故を最小限にしていく。苦情はなかったが、自発的に身だしなみを整えられるように、接遇研修への参加の呼びかけや部署内で指導していく。
財務の視点	経営に参画できる	7対1入院基本料と急性期看護補助体制加算維持 超勤時間を減らす 診療報酬改定への対応	看護必要度 15%以上継続 超過勤務時間 5.3時間以内 がん患者指導管理料 20件/年 周術期における口腔機能の管理(歯科医療機関連携加算) 50件/年 NST加算 50件/年	25% 6.5時間 30件 3件	看護必要度は準夜の見直しや声掛けで入力は出来ている。必要度の改正は部署内で勉強会を開催し、医師と協力しA項目を上げるよう取り組み対応できた。入力間違いはその都度スタッフに伝え修正していくことで、入力ミスは減少してきている。維持できるよう声かけ続けていく。勤務者が少ない日や夕方に入院・処置が重なりと超勤がでているが、個人差が大きい。適時応援依頼や業務調整を続けていく。がん指導料は認定看護師の勤務調整しているが、医師からの依頼は少なく有効活用はできていない。外科以外の医師も含め再周知が必要。周術期口腔ケアは外来へ協力依頼したが、医師の外来での業務が複雑で殆ど実施できなかった。外来との連携及び医師への再周知が必要。NSTラウンド時の情報提供はできたが部署からの依頼が少なかった。部署内で関わっていける様周知が必要。
内部プロセスの視点	働きやすい環境づくり	業務改善 看護補助者業務の効率化 新人育成	業務改善数 20件以上/年 看護補助者との意見交換 12回以上/年 新人の退職者数 0人 新人の夜勤導入 既卒4月 新卒7月	19件 0人 既卒4月 新卒7月	インシデントレポートからの改善は1件。業務の中での気づきはあるが改善には至らなかった。業務の効率性を上げる為にも小さい気づきを大切に改善に取り組んでいく。 看護補助者が異動になり進捗状況の確認を含めて、不定期ではあるが副師長を中心に意見交換する事ができた。定着できるよう調整していく。 新採用者が11月に異動となった。新人の定着率が低いので指導方法の検討が必要。
学習と成長の視点	看護実践能力の向上	専門知識・技術の習得 ラダー 勉強会の実施	院内・院外研修の参加 1人12回以上/年 ラダー認定数 全員受審できる 病棟勉強会の開催数 12回以上/年	14.1回 4人 12回	参加数の個人差はあるが昨年度より増加している。緩和ケアは関心が高く参加者は多いが、感染・リスク等必須研修の参加が増えるよう動機づけしていく。研修ファイルの活用と声掛けし業務調整していく。 複数年の経験があるスタッフ4名がラダーⅡへ進む事ができたが、ラダー評価の認識が低く、他のスタッフはナラティブの提出もなかった。詰所全体で受審する風土になるように根気強く声掛けしていく。 教育係を中心に計画通り開催できた。不参加者に対して複数回の開催は出来ておらず資料配布のみにとどまった。複数回開催することや伝達方法を検討していく。

[4階詰所]

看護師長 堀内 正子

看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
26年度看護部目標	患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する				
部署の使命	サービス向上に努め、安心・安全な看護を提供する				
区分	目標	主な成果	26年度目標値	26年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者のニーズに応える看護を提供する	安心・安全な看護を提供できる	お礼の件数 50件/年 インシデント・アクシデント検討数 1件/月 ケースカンファレンス数 20件/月 看護部アンケートの評価 1回/月 新生児サマリー数	33件 1回/月 5回/月 1回/月 64件	お礼の件数は目標値に達していないが一人一人の看護を考える事ができた結果として、お礼の内容の中にわからないことや不安について優しく解りやすく教えてもらえた、皆が親切だったとの声が聞けた。今後も喜ばれる良いケアを提供していく。インシデント・アクシデントレポートの検討は毎月チームで行えた。しかし客観的情報分析ができていない。今後は事例分析に力を入れ再発防止に努めていく。また、医療事故防止に必要な事故レベルゼロのヒヤリハットレポートを意識を持って提出できるように取り組みたい。ケースカンファレンスについては後半意識的に時間を作る事から始めた。結果、少しずつ意識づけができてきた。ハイリスクケースについては新生児サマリー作成後保健センターへ郵送できている。ベビー室からの発生もあり64件のケースを保健センターと連携する事ができた。また、ケースによっては入院中に保健師の面会もお願した。今後も入院中の状況に応じて個別性のある看護が提供できる様注意して対象に目を向けていく。
財務の視点	経営改善に積極的に参画する	入院、分娩件数の増加 助産師外来、OGCS受け入れの充実	病床利用率 85% 分娩数増加 分娩比率の割合 70% 助産師外来受診数 60件/月 時間外・夜間の助産師外来数 OGCS受け入れ数 100%	73.5% 60件 66% 44件 41件 100%	財務の視点では分娩数は昨年とほぼ変わりはない。分娩比率に関しては約10%上昇した。さらにサービス向上及び広報活動で増加を目指すようスタッフ全員が意識する必要がある。内部プロセスの視点では接遇に関するクレームが5件あった。個人個人が患者に寄り添い丁寧な対応が出来る様になる事で良い看護の提供をしていく。クレームについては伝達共有する事で自身を振り返る事ができた。業務改善としては、今年度は部署の係の活動が充実する事を目標にした。係として母乳推進係、産後ケア入院係を発足した。母乳推進係は母乳に関する知識、ケアの情報共有が行えるよう業務改善に取り組んできた。院外研修に参加し、スタッフへの伝達講習も終了した。今後各スタッフに実践してもらい意見を集約し、ケアを充実させていく予定である。産後ケア入院は産後支援が受けられない方や、育児不安などで入院の継続を希望する母児の入院についての企画まで進められた。今後具体的な計画、実施へとつなげていく予定である。NICUから産科病棟に転棟するケースを症例カンファレンスする事を目標に挙げたがカンファレンスを開く時期などに問題があり今年度は開催できなかった。連携を密にする為にも今後の課題となった。学習と成長の視点では院内・院外研修受講を一人年間2回としていたが、7割は受講できたが、参加していない人の研修に対する意識の温度差が感じられた。受講できない者に対しても啓発を行い、受講を促していくのが今後の課題である。勉強会は予定していた回数以上行え、目標達成できた。今後も勉強会を通して専門職としての知識向上に努める。今年度は新人職員の退職者があった。詰所全体で新人を育てるシステムと風土作りについての検討など、今後新人を迎えるにあたりサポート体制を考えていきたい。当病棟は産科中心の病棟ではあるが、産科患者のサービスを考えるだけでなく、産科以外の患者さんにも良いケアの提供が出来る様、応援体制を充実・実践できる事を目指していく。
内部プロセスの視点	専門職として看護サービスの提供ができる	ケア場面での接遇向上 効率的な業務改善 サービス、広報活動 NICUとの連携	苦情の件数 0件 業務改善数 30件 マタニティケア件数 インファントマッサージ件数 地域活動件数 NICUとの合同カンファレンス数 6回/年	5件 34件 21.8件/月 2組/月 2回/年 0回/年	
学習と成長の視点	専門職として共に成長できる	キャリアアップ支援 リーダーの充実 リーダー育成・後輩教育 新人指導の支援	院内研修受講数 2回/年/人 勉強会開催数・受講数 4回/年 リーダー認定者数 5人 夜勤導入時期 新卒7月 中途退職者数 0人	2.1回/年/人 8回/年 10人 退職の為中止 1人	

[4階北詰所]

看護師長 須川 景子

看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
26年度看護部目標	患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する				
部署の使命	NASVA病床が問題なく稼働する				
区分	目標	主な成果	26年度目標値	26年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	個々の患者・家族ニーズに焦点をあわせた看護提供をする	個別ケアの充実	ケースカンファレンス数 週1回 記録の監査 週1回 苦情がない 年間0件	96件 37件 1件	4月7件、5月6件、6月9件、7月8件、8月9件、9月8件、10月10件、11月7件、12月10件、1月6件、2月6件、3月10件。目標は達成できた。 前半が15件で、記録監査の仕組みがつくれていなかった。後半カンファレンスの時間に記録監査の日を設けて実施した。11月が2件しかできていなかった。後半22件。 前半1件、言葉の遣い方で苦情があったが、接遇面の強化で後半0件。
財務の視点	NASVAが満床で稼働する	NASVAが満床で稼働する	NASVAスコアの評価 毎月1回 NASVA病床稼働 16床	12回 16床	NASVAスコアのチェックは各プライマリナースが施行できている。チームの情報共有もできている。 毎月1回開催していた師長、主任、MSW、リハビリでカンファレンスしていたが10月より必要時に集まるようになった。状況に応じて開催していく。
内部プロセスの視点	他病棟とも連携し、かつ各専門職が働きやすい環境をつくる	業務改善 応援体制づくり 看護補助者研修	業務改善数 30件 応援体制の数 12件 看護補助者研修参加数 3回/年	15回 22件 3回	NASVA2年目に入り、業務整理はできてきている。次年度は新看護プログラムに向けて、また、退院に向けての業務整理が必要になると考える。 応援体制は7月、8月、9月、11月は毎日人員を確保するには至らなかった。他の月は出来る限りの体制作りはできたと考ええる。 参加出来た。
学習と成長の視点	NASVAに入院する患者の状態にあわせた看護が提供できる	自己啓発 適切な看護提供 職員の定着	詰所勉強会 12回 ラダー1段階アップする 退職者がいない	年21回 7人 1人	前半16回、後半5回。年度計画はできた。次年度も教育係中心に計画して行っていく。 19人申請させるが、7人申請した。動機づけて次年度増加を目指す。 嘱託職員で緩和ケアに従事したいとの理由で退職となる。

[5階詰所]

看護師長 西川 朝子					
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
26年度看護部目標	患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する				
部署の使命	患者に寄り添った看護を実践する				
区分	目標	主な成果	26年度目標値	26年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点▲	患者に寄り添った看護を提供する	提供した看護に対して患者、家族の満足が得られる 受け持ち看護師の役割を認識できる	カンファレンス 合同1回/3ヶ月 症例3回/週(水・木・金) 倫理1回/3ヶ月 IC立ち合いIC後の反応の記録 100% お礼の手紙 20件/年 苦情 3件以下/年 NCP修正数 25件/月	11回/年 46件 8件 93.5% 8件 2件 9件/月	機能評価受審に向けての準備・周知すべきことの伝達や勉強会の開催などにカンファレンスの時間を費やしたことや緊急入院受け入れ等の業務多忙の影響もあり開催できないことがあったがは達成することができた。合同カンファレンスは患者・家族と一緒に話し合う場となり患者家族の思いをしる機会となった。患者・家族を取り巻く医療チームスタッフが目指すゴールの共通認識を持つことで医療・看護の提供に繋がれたと考える。倫理検討については、話し合った意見や思いが語られた記録を残せたことで参加できなかったスタッフに情報を提供することができた。また、看護を振り返る機会となり今後も看護に活かしていければ良いと考える。カンファレンスの質の向上に向けて今後も継続していきたい。ICの立ち合い後の反応の記録の中には立ち合いができなかった場合でも患者・家族の話を開き記録に残していたことで目標に近い結果を残せた。今後も医師にIC内容を事前に確認し看護師の立ち合いが必要かどうかを見極め、立合えるための時間、業務調整など行い継続して行っていきたい。接遇に関しては、相手の受け止め方での対応の善し悪しの印象が違ってくる。相手に不快感を与えないようにするためのノウハウを学習し、それを身につけ常に相手の立場を考えた行動ができるように接していければと考える。看護計画については、受け持ち看護師がNCP評価を適切に行うとともに患者の状態を把握し患者・家族の意向を確認、必要に応じて看護計画の修正を行い個々の患者にあった看護を提供していかなければならないと考える。
財務の視点	病院経営に参画する	病院経営に貢献できる	稼働率 85%以上 看護必要度監査 15%維持 ケアマネ加算 60件以上/年 摂食機能療法 100件以上/月 栄養サポートチーム加算 50件以上/年 新規4人以上/月 退院前在宅療養指導管理料 HOT患者の50%	84.7% 11.35% 75件/年 173件 98件/年 4.8件/月 3件	入院の受け入れはスタッフ間の協力もありスムーズに受け入れができています。看護必要度は未入力がなくならないため再度確認方法を周知することで未入力の件数が減った。A項目の評価ミスはあるがB項目は評価ミスはほとんどなかった。評価があっても記録がないについてはB項目が圧倒的に多かった。適正な評価とその記録ができるように検討していく必要がある。記録の監査を含め看護必要度に関する記録について今後検討していく必要がある。ケアマネ加算は、連携シートの活用と退院支援計画の勉強会などを行ったこともありチームでの意識を高く持ち行動できていたと考える。摂食機能療法の必要な患者のリストアップや医師への働きかけはできており今後も継続して行っていきたい。栄養サポートについてはラウト時は各チームから担当者を明示したことで患者の情報提供ができる体制を整えることができた。NST系の活動として今後も継続し、医師との連携をより一層図り栄養状態の改善に向けて関わっていければと考える。退院前在宅療養指導管理料についてはHOT導入患者すべてに退院時パンフレットを用いて指導ができ今後も行っていきたい。

区分	目標	主な成果	26年度目標値	26年度実績値	分析・評価・今後の課題
内部プロセスの視点	良好な人間関係を築き チーム力の強化を図る	相談、協力し合える人間 関係ができる	業務改善数 3件/月 超過勤務時間 1人6時間以内/月	17件 4.56時間/月	業務上ミスがあった事例からカンファレンスで話しあえたことで早期に業務改善に取り組むことができた。マニュアルを作成する過程において情報の共有や疾患やケアについて知識・技術の向上が図れた。他部署との情報共有が円滑に行われたことで安全で円滑な業務遂行ができ質の高い看護に繋がった業務改善であったと考える。看護の質を担保する重要となる業務改善を今後も検討し継続していきたい。今後もスタッフが中心となり取り組めるような体制づくり・サポートも行っていく必要があると考える。超過勤務において、他職種に委譲できることは委譲し看護師本来の業務に専念することで、個々の役割を認識し業務分担できた結果時間の短縮に繋がったと考える。また、チームリーダーやメンバーが残務内容の把握を行いスタッフ間での調整ができていたと考える。個々の役割を上手く発揮することができるように時間・人の采配・業務調整などが円滑にできるよう個々の能力に応じた教育・指導を継続して行っていく必要があると考える。
学習と成長の視点	基本的知識・能力の向上 を図る	看護実践能力の向上	知識、技術の習得 必要な 勉強会を開催する ラダー取得アップ 各ラダー到達レベル I、IIは 100% 院内研修会への参加 6回以上/年	レベル I :60% レベル II :25% 4.28回/年	5階病棟に多い疾患についてスタッフが統一した看護ができるようにと考えた内容の勉強会を開催することができていた。また、チーム会において、感染に関すること特殊な疾患について、看護必要度についてなど実践に活かせる勉強会を行うなど看護実践に活かせる学びとなっていた。今後も知識・技術の向上勉強会の内容を検討し開催を行い看護の質を維持向上できるように努めていきたい。ラダー I・II に関してワンランクアップのラダーを目指していたが必須研修がクリアできていないこと、その中には時間外の研修には参加できないスタッフがいたこともあり目標には至らなかった。しかしレベル I・II をクリアできていなかったスタッフが今年度クリアできていたことからレベルアップへの意識付けはできていたのではないかと考える。引き続き個々のスキルアップができるよう働きかけていく必要がある。伝達研修に参加したスタッフがカンファレンスやチーム会で伝達したり資料を配布するなどお互いが学び合える環境作りができてきたのではないかと考える。しかし、院内研修への参加ができていないことが多く、声掛けを行い参加を促していかないと参加しない傾向で積極的な参加はできていない。声掛けを日々行っていくとともに必須である研修には参加するように今後も働きかけていく必要がある。

[6階詰所]

看護師長 尾崎 弘己					
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
26年度看護部目標	患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する				
部署の使命	患者に寄り添った看護を提供する 業務改善を行い安心・安全な療養環境を整える 教育体制を構築し看護の質を向上させる				
区分	目標	主な成果	26年度目標値	26年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者・家族のニーズを捉えた看護ケアが提供できる 接遇の向上	受け持ち看護師の役割が發揮できる 苦情の減少	患者参画型看護計画立案数 100% 患者参画型看護計画修正数 4件/月 ケースカンファレンス 4件/月 苦情件数 0件/年 お礼の件数 10件/年	94% 5.4件/月 1.6件/月 3件/年 19件/年	患者参画型看護計画立案数、修正数は、ほぼ目標達成出来た。ケースカンファレンスについては、目標達成が出来なかった。カンファレンスの場の調整を行うなど、患者・家族のニーズを捉えた個別性のある看護計画が立案でき、実践できるように支援していきたい。 接遇に関しては、お礼の件数は目標達成出来た。しかし、苦情件数が3件あり、患者満足度調査でも評価が低い項目が少数だがあった。その都度、カンファレンスを開催し、接遇に関する意識改革と、早期の対応改善を行ってきた。今後も患者満足度評価が向上し、苦情「0」件を目指して部署で検討していきたい。
財務の視点	リーダーを育成し、業務の効率化を図る 看護必要度の評価が正しくできる	時間管理ができる 業務整理ができる 看護必要度監査表で評価し必要時修正できる	超過勤務 5時間/月/人 業務マニュアルの作成・評価 随時 看護必要度の監査 評価2・3の割合 2割以下	3.6時間/月/人 45件/年 1.2割	超過勤務時間数は目標達成できた。業務改善も随時行い、マニュアル作成や評価も出来たが、部署内での周知が不十分であり、実践に活かしていないケースもある。次年度もリーダー育成を行い、カンファレンスのあり方や伝達方法についても検討し、支援していきたい。 看護必要度に関する目標値は達成出来たが、評価間違いや記録の抜けがある。今後もスタッフ間で監査を行ってもらい、看護必要度が正しく評価できるように指導していきたい。
内部プロセスの視点	救急外来と詰所業務が両立できるスタッフの育成	救急外来と詰所業務の修得	救急外来と詰所業務が両立できるスタッフ数 10人/年	10人/年	救急外来と詰所業務を両立できるスタッフが3名育成でき、目標値は達成できた。しかし、2名の部署異動があった。今後もスタッフ育成を継続するとともに、育成が困難な小児救急業務のあり方を考えていきたい。
学習と成長の視点	自己研鑽できる	救急看護の知識向上 泌尿器科看護の知識向上 脳外科看護の知識向上	院内研修参加 5回/年/人	17.6回/人/年	年間目標値は達成する事が出来た。次年度は、個人で得た知識を部署で共有できるように支援し、部署の看護の質が向上できるように働きかけたい。

[6階小児詰所]

看護師長 藤原 美幸

看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
26年度看護部目標	患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する				
部署の使命	効率的で安心・安全な看護を提供する				
区分	目標	主な成果	26年度目標値	26年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	小児の療養環境を整えることで、こどもと保護者が安心して療養できる	受け持ち看護師の役割発揮 定期レスパト入院の定着と安全確保 母児同室入院の受け入れ 療養指導の充実 小児病棟としての環境整備 接遇の向上	患者参画型看護計画の評価数 1人3件/年 ケースカンファレンス数 5件/年 レスパト入院受け入れ数 24件/年 母児同室入院受け入れ件数 3件/年 エントランスの模様替え 6回/アンケート2以下 5件/年	42件 15件 52件 1件 12回 0件	受け持ち看護師の役割については、ケースカンファレンスを行うことで発揮できた。そして院内学級、中学校の先生と合同カンファレンスを行い、退院後地域の学校に復学できるように進めることができた。計画の評価は短気入院が多いため1人3件以上は達成できず。レスパトにおいては院外施設、保健所、母子センター、訪問看護などとの連携体制の確立、情報交換を小児科医と連携を図り進めていった。母児同室は情報共有を行い作成した手順に沿って、入院の受け入れを評価した。評価した課題を基に次回の受け入れ患児の体制を進めている。 療養指導については作成した川崎病、ネフローゼのリーフレットを医師ともに活用することで、入院中だけでなく退院後の治療などについても患児家族に理解してもらいやすくなった。 詰所のエントランスの模様替えや、クリスマスカードを作成し、患児に喜ばれるような企画を行うことができた。
財務の視点	安全・安心な業務の遂行	効率的な時間管理 二交替勤務の定着 入院待ち時間短縮	超過勤務 6時間/月 整理整頓	4時間/人/月	接遇に関しては接遇アンケートより「2」以下はなかったが、すべての内容をスタッフでフィードバックした。電話対応などテーマ毎についても話し合った。今後も継続していく。効率的な時間管理として詰所主催の会議のあり方を検討し、時間内にチーム会をするよう時間管理に努めていたが、最終はできていないため、検討課題である。小児救急時、フリースタッフの小児救急応援については、リーダーが業務調整し救急と連携を図ることができた。入院時オリエンテーションの作成した冊子は小児科外来の協力で活用し、入院時オリエンテーションの時間短縮に繋がっているが、時間などの評価ができていないので今後の検討課題とする。基準・マニュアルは年1回もしくは変更時に改正し、業務改善した内容も作成または変更し、活用できる内容にした。クリニックパスに関しては、成長ホルモンを導入し、体制を整備し、受け入れることができた。川崎病のグローバルパスは検討のみで作成には至らなかったため課題とする。レポートに関しては、低減を図るために情報共有後、対策を検討し実践していく。レポート内容の観察の記録の充実も継続して行う。 小児救急のできるスタッフが2人育成したが、次年度も人選し、育成していく。新採用者は情報共有に努め、計画をたて進めたが退職となってしまった。教育係が専門的な勉強会の開催を企画実施し、部署全員で知識を深めるよう努めた。院内研修の参加数の1人3回以上の目標としそれは達成できた。しかし必須研修の絶対参加や、参加できない研修においては部署で伝達するなど、検討課題である。看護研究は、メンバーが中心となり、スタッフの意見を聞きながら進め、インシデントレポートからの業務改善へと繋がった。
内部プロセスの視点	専門職として看護の提供 人材育成	効率的な業務の推進 リスクの改善 救急業務ができる人材育成 新採用者の定着	業務基準・マニュアルの整備 業務改善数 12件/年 クリニックパス作成 2件/年 レベル3以上 5件/年 レポートカンファレンス レポートからの業務改善数 5件/年 救急業務ができるスタッフの育成 2人/年 新採用者の定着率 100%	11件 0件 1件 5件 2人 50%	
学習と成長の視点	専門的知識の向上		勉強会の開催 6件/年 勉強会の参加者数 院内研修の参加数 1人3回/年		

[NICU・3階GCU]

NICU看護師長 田中 美紀					
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
26年度看護部目標	患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する				
部署の使命	1. 子どもの最善の利益を尊重した看護の提供 2. 産科・小児病棟、小児科外来、及び、地域との連携及び継続看護の充実				
区分	目標	主な成果	26年度目標値	26年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	子どもにとっての適切な環境を整える	デイ・ロップメンタルケアの標準化 情報共有を図る 面会時間の拡大ができる 他部門との連携強化 部署内の感染予防	産科病棟との連絡会の件数 6件 5件 保健師への連絡回数 40件 NICUでの保健師面談 10件 感染に関する業務改善数 2件 5件	6件 30件 13件 2件	デイ・ロップメンタルケアの係では、ポジショニングの定着、ハンドリング技術の向上、カンガルケアの導入などを推進した。カンガルケアやハンドリング技術の向上はまだまだ進めていく必要がある。 情報を共有しプライマリナースを補充しチームで看護を提供するための方法として固定チームについて1月より患者分けを開始。今後、問題点を洗い出し少しでも良い方法を模索していく。 金曜日のカンファレンスでは、看護師が中心となり医師・心理士・MSWと症例検討できている。 保健師への連絡は、できているが症例数により変動する。 フロアでの面会もスムーズに実施できている。 24時間面会に向けて係を中心に24時間入室拡大を実施した。 前期に気管切開患者の退院支援を初めて実践したこの症例を振り返り、後半は高度医療の必要な子どもの退院調整を多職種と共に進めている途中である。感染に関しては、昨年度の持越し課題のみの改善となっている。
財務の視点	経営に参画する	応援機能の充実 物品管理	定数見直し回数	3回	応援要員の確保した勤務表が作成できている。 看護部全体への応援は、主任以上が出来ている。 患者数が少ないときは、小児科外来への増員と4北への入浴介助などをスタッフが実践できている。 正月は実践できなかったが4北への応援の体制は作った。 物品係が定数の変更を随時実践し、デットストックの減少や効率的な物品管理を実践している。
内部プロセスの視点	個人が主体的に専門職として業務に取り組むことが出来る	チーム活動の充実 リーダー会の順調な運営 業務改善 親しみやすい環境作り 防災意識が高まる	チーム会の実施数 10回 リーダー会の実施数 10回 業務改善数 25件 マニュアル改善数	22回 11回 38件	リーダーが中心となりそれぞれのチームの意見をまとめてリーダー会議へ提案できている。チーム会はスムーズに運営できているがリーダー会議での決定が困難なことがあった。今後リーダー会の機能の強化に努める必要がある。 固定チームについては、患者わけ、応援体制、ステップアップが検討され1月開始。今後問題点を洗い出し解決していく予定。 昨年度よりされているレポートの情報共有が定着した。カンファレンスがなかなか出来ていない。レポートによる業務改善は少しずつ進んでいる。 防災係が後半に一度シミュレーションを実施。今後次の段階へ進む。
学習と成長の視点	専門職として必要な知識・技術を習得し、共に成長できる	自己啓発 教育体制の充実 後輩育成ができる	スタッフによる講義回数 1回/年/人 部署内勉強会回数 研修参加数(院内・院外)	18人 17.5回/人	勉強会は順調に進んだ。今後もスタッフによる勉強会を進めていく。スタッフが講師になっての勉強会も実施できた。それぞれ主体的に研修参加できている。

[手術室・内視鏡センター]

		看護師長		永田 美華	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
26年度看護部目標	患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する				
部署の使命	チームワークを高め、患者の安全・安心を第一に看護を提供する				
区分	目標	主な成果	26年度目標値	26年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	優しさと思いやりを持ち信頼できる看護を提供する	術前、術後訪問を行い、看護を振り返る 患者のことを話し合う機会が増える(倫理カンファレンス) アクションが起こさない 接遇向上	術前術後訪問(内視鏡はESD) 振り返りのカンファレンス数 倫理カンファレンス 6件 1回/2ヶ月 アクション数 0件 アンケートで普通以上、良いコメント 病棟アンケート結果で手術室の悪い評価が出ない 悪い評価0件	内視鏡 100% OP 100% 内視鏡 100% OP 30件 内視鏡 19件 OP 7件 0件 悪い評価 内視鏡 1件 OP 0件	術前、術後訪問については100%実施できた。今後は実施した訪問内容の質向上が課題である。術前術後カンファレンス数については、内視鏡は100%実施している。手術室は年間目標値を実施できた。患者の病態に基づいた振り返りと対応策を意見交換することで、気付きを得て患者の立場に立った看護を提供していく。倫理カンファレンスについては、年間目標値を上回った。しかし、手術室は後半は、1件しか実施できなかった。目標値達成目的ではなく、倫理的な気付きとの内容の充実に繋げる必要がある。次の看護に活かせるように積極的に意見交換を行っていく。アクションは、手術室・内視鏡共に0件であった。インシデントについては、内視鏡17件、手術室25件であった。これらの全ての事例に対してカンファレンスを行い、情報共有し、対策を検討した。また、リーダー会でも情報共有し、意見交換を行っている。今後もインシデントについてはリスク対策に重要な事例として、共有し検討していく。アンケートで「悪い」の評価は手術室はなかった。内視鏡は1件あり、対策としてマスクを外して笑顔で挨拶など接遇強化をするようカンファレンスを行った。その後は良い評価で経過している。次年度は患者の待ち時間への配慮など更なる接遇・サービス向上へ取り組み。今後もミーティングでアンケートの結果をフィードバックし、対策を検討する。
財務の視点	コスト意識を持ち、病院経営に参画できる	診療報酬改定への対応 クリバズ評価・改正ができる 物品の破損がでない 不良在庫の整理 ウエルカム姿勢で、検査件数が増える	請求漏れ、間違い 0件 クリバズ評価 100% 物品破損 10件以下 OPキット・物品定数の整理 12件 検査件数 5,800件以上	内視鏡 0件 OP 1件 OP 100% 内視鏡 100% OP 0件 内視鏡 8件 OPキット 7件 定数整理 6件 5,760件	内視鏡では検査・手術のオーダリングコストと診療報酬点数表の整合性をもたせたことで、請求間違いがなくなった。また、一覧表にし貼り出したことで医師・看護師共にコスト意識が向上した。今後、高額な処置に対してのコスト意識向上に向けての働きかけを行っていく。物品破損は内視鏡の8件のみであった。その都度共有し、対策を講じた事で目標値以内であった。不良在庫の整理のためのOPキット・物品定数の整理は13件だが、医師の異動に伴い、現在も引き続き対応中である。検査件数は目標件数を達成できなかった。これは、医師の異動の影響も考えられるが、自部署としては目標件数を達成できる体制は継続する。今後も地域の要望に応えながら件数増加に取り組んでいく。
内部プロセスの視点	チームワークを高め活き活きと働ける環境を整える	OP・内視鏡間の応援機能の充実 フィッシュな発言、行動実践ができ、人間関係が良好に保てる 相談、協力し合える人間関係を築き、退職者が業務改善ができる	応援実績 フィッシュの企画 2回/年 中途退職者 0人 業務改善数 25件 業務改善に関するカンファレンス数 各チーム月1件以上	94件 OP 2回 内視鏡 15回 2名 内視鏡 67件 OP 21件 OP 19件	前年度に引き続き応援体制の充実に取り組み、応援できる内容も増え、急な応援もお互いに依頼し合い、業務がスムーズに進むように対応できている。また、手術・検査予定表確定後に応援調整を行っている。次年度も継続して実践していく。フィッシュの取り組みは、手術室・内視鏡とも年間目標値を前半で達成した。主任以上でフィッシュの勉強会の企画、運営を行った。グループワークで意見交換した内容で実践できることを業務の中に取り入れて行けるように意見交換を行った。また、コミュニケーション研修やクリスマス会を開催することで、他人への配慮や交流に繋げることができた。今後もフィッシュ精神で人間関係を良好に保つ。また交流会などの企画を継続していく。業務改善件数については手術室・内視鏡合わせて88件と目標達成できた。内視鏡では業務上の問題点に気付けば、意見交換し改善する職場作りを行い、業務改善前後の評価をカンファレンスしている。今後もスタッフ個々の前向きな意見を尊重し、働きやすい職場づくりに取り組む。
学習と成長の視点	個人の成長と後輩育成ができる	積極的に研修に参加できる スタッフ個々が責任感を持ち自立した行動ができる 後輩と共に成長できる 新人の自立 OP室ラダーの活用	研修参加数 1人12回以上/年 個人目標シートの評価 評価値の向上 ラダー評価 ラダー評価の向上 待機開始時期 新人7月 異動者4月 指導計画に基づいた成長 ラダー評価 全員の評価	内視鏡 20回(平均) OP 15.4回(平均)	研修参加回数については、スタッフの平均値であるため、最終評価としてはクリアした。しかし、6回から33回と個人差があるため、参加数の少ないスタッフに対しては、引き続き働きかけをして行く。また、次年度は研修参加者の伝達など検討する。個人目標シート・ラダー評価については、中間評価より向上できたが、ラダー申請予定者は1名であった。目標達成への満足感や達成感を得られるような管理者の関わりが必要であると考えている。責任感と自律した行動を促すための振り返りの機会を今後とも進める。新卒新人の待機開始は、予定通り7月に開始できた。プリセプターを中心にスタッフ全員で支援することで一般的な手術室業務の自立ができた。次年度は長時間の手術やリーダー業務ができるように継続して支援する。手術室ラダーを活用することで、自己の課題を認識し、中間評価から最終評価の向上に繋げることができた。次年度も活用していく。

[外来]

看護師長 森 浩子					
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
26年度看護部目標	患者に寄り添い、安心・安全な看護を提供する				
部署の使命	患者の立場に立った温もりのある看護を提供する				
区分	目標	主な成果	26年度目標値	26年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に寄り添った看護の提供	看護実践力の向上 統一した看護の提供 接遇の強化 患者満足度の向上	受け持ち患者数 全スタッフ1例 記録の監査件数 各チーム5件 倫理カンファレンス 各チーム1件 お礼の件数 10件 苦情の件数 0件 身だしなみチェック 3回/年	1/全スタッフ 計5件 計46件 178件 6件 2回/年	受け持ちに関しては、カルテ上全スタッフが、1例ずつ受け持ちを持って記録の監査2例、評価5例行う事が出来、目標は達成できた。係を中心に記録監査のラウンドを計画的に行い、監査に対する意識が高まった。症例カンファレンスは後半は1件(前期合わせて9件)だけである。症例カンファレンスの内容には倫理的な部分も含まれるが、今後内容を深めていくためにも倫理についての事前研修も必要と考える。お礼の内容には、他部門へも働きかけ共同で対応で出来ているものもあった。苦情の内容は、待ち時間によるものが多かった。診療の進行を表示する電光掲示板も修理できず壊れたままのものが多く、医事課とも相談し、待ち時間が有効に利用できる情報や、お知らせを伝える手段に使用できるよう検討中である。接遇に関しては、定期的な身だしなみチェックを行い、外来での接遇研修も6回行い接遇の強化に努めた。臨床の場でも活かせるよう努力していく。
財務の視点	診療報酬改定に対応した経営の参加	コスト意識を持つ 指導料が正しく取れる コスト漏れを防ぐ 効果的な勤務時間管理	物品管理 1回/年 在庫管理 2回/年(必要時適宜) 医事課との連携 必要時適宜 超過勤務時間数 10時間/月/人	必要時適宜 必要時適宜 副師長を含む35人 9時間/月/人 ナースアシスタント9人 17時間/月/人	財務の視点では、各科新しく行われる処置・指導などについて医事課と相談する場を設け、加算の有無、処置伝票の見直し、指導記録用紙の改正を行い、コスト請求漏れを防ぐとともに個人の意識向上にもつながった。
内部プロセスの視点	働きやすい環境作り 応援機能の充実	業務改善の実施 外来全体での協力体制 統一した看護の提供	業務改善数 各科3件以上 応援科のできる看護師を増やす 1科/人 クリパス作成・使用件数 勉強会の実施 各科1件	計9名 皮膚科2名 放射線科2名 脳外科1名 整形外科1名 中央処置1名 5科	応援機能の充実に対しては、全スタッフに応援希望科を聴取し、外来全体の協力体制の強化を目標に、他科応援できるスタッフの増員に努めた。他科応援できるスタッフは9名増加した。しかし、一人で複数科を応援している者とそうでない者の差が生じ、また複数科の応援に対してはストレスも多いため、応援内容を考慮する必要がある。異動に伴い、外来の即戦力も低下してしまったので、応援体制の見直しも考え機能別な応援体制を取り入れていこうと考えている。機能評価受審もきっかけとなり、マニュアルの見直し、整理また必要なマニュアルの作成を行え知識の統一を図る事ができた。
学習と成長の視点	看護実践能力のアップ モチベーションの向上	個別性のある看護の提供 専門的技術、知識の習得	研修会の参加(院外含む) 10件/年 ラダー申請者 5人/年 指導件数・内容	計331回 2人/年 自己注射指導 4件 SMBG 25件 インフューザーポンプ 10件	外来で行う勉強会は、勤務時間内に行い17時以降の研修会は代表者が参加し、時間内に全体に伝達する外来独自の方法で、個々の知識の習得と勉強会参加率の向上を目指した。曜日、時間、実施回数を考慮したことで臨時職員、嘱託職員の参加も増加した。時間外の参加が困難な職員が多い外来では、効果的な手段であったと考える。

☆看護部委員会活動実績☆

委員会名	目 標	活 動 結 果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
看護副師長会議	患者満足度が向上する為に問題点を抽出し、解決方法を見出し実践する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者満足度が向上する為に問題点を抽出した 2. 接遇について4つのテーマ「態度」「身だしなみ」「言葉遣い」「私語」に絞った 3. 問題解決技法を用いグループワークを行った 4. 4つのテーマについて問題点をさらに掘り下げ、解決策を見出した 5. 身だしなみマニュアルに沿って定期的に評価を行った 6. 接遇委員会に問題提起を行いマニュアル改正と説明文が追加され身だしなみの改善に繋がった 7. 看護業務基準、看護業務手順の評価、改正を行った 	◎川上好美 ○植村恵美 岩切いつ子 江藤潔子 熊本訓子 清水美幸 溝内千晶 望月ゆみ子
主任会 災害グループ	災害看護対応マニュアルを作成し、看護部で周知できる	前期は緊急連絡網、赤電話の使用法、後期は地震発生時のフローチャートについて取り組んだ ・緊急連絡網については検討するも災害対策プロジェクトで検討 ・赤電話の使用法については、火災フローチャートを作成しスタッフに周知させた ・地震発生時のフローチャートを完成させ看護部各部署にて伝達した ・災害対策プロジェクトが発足され今年度で災害グループは終了した	◎大植美智子 飯阪幸子 金子貴久代 武内香利 坂井雅子 寺中直美 葉山美紀 尹明恵 濱田幸子 山口朋子 北野浩輝
看護手順グループ	看護技術チェックリストにある看護手順を完成させる	・個人での作成は順次行うよう試みたが全体での検討が終了していない項目を順次完成させる予定であったが、一部完成できなかった。次年度に持越しする。平成26年度に終了する予定 ・振り分けできていない9項目に関して担当割り振りを作成した ・キャリア新人担当と連絡を取り合い、チェックリストの変更部分を看護手順にも反映させた	○禱淳子 山本直美 山本明美 阿多亜矢子 船本加奈子 大宅加代 西田京子 浅田陽子 隅野美佐与 遠藤千恵 井上千穂 新妻尚巳
看護リスクマネジメント委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. リスクに対する意識を高める 2. レポート分析による対策立案と周知 3. リスク関連書類の評価、修正 	・2ヶ月毎のレポート集計と、他部署で発生した事象を報告・検討 ・レポートの集計方法の統一のため、転倒・転落の集計表のひな形を作成し使用。インシデントの集計では、NICUで作成した用紙を使用した。要因を明確化するため集計項目の表を作成中 ・転倒・転落に関するレポートの評価では、小児分は事象が少なく、引き続きそのまま使用。今後再評価する ・内服自己管理に対するアセスメントスコアシートの検討中 ・リスク関連書類の見直し	◎岩切いつ子 ○山口朋子 藤本佳恵 竹田容子 阪口みどり 梅本真紀 新甚尚美 平井美由紀 吉田幸子 河野雅津子

委員会名	目 標	活 動 結 果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
看護記録委員会	1. 看護記録基準の周知 2. 記録監査の充実を図る 3. ラダー研修の充実を図る	1. 看護記録基準の見直しを行う 透析記録の改正 新生児記録の改正 データベースの基準の追加 2. 記録監査については、質監査に対する新しい監査表の作成 3. ラダー研修は新人研修 ラダーⅠ、Ⅱ、Ⅲの内容検討と研修を行う	◎尾崎弘己 ○遠藤千恵 池上浩子 重田美由紀 東賢 矢邊範恵 小島直美 山田松代 山田育子 木村千亜紀
看護広報委員会	1. 当院の看護活動を地域にアピールし、市民とふれあう 2. 看護師確保のための活動をする	・ 6月6日（木）看護協会主催ふれあい看護体験 高校生2名受け入れ ・ 11月20日（火）21日（水）職場体験 忠岡中学校2年生女子4名受け入れ ・ 3月31日 看護部ホームページ更新 ・ 5月9日（金）13時～15時看護の日フェア開催 アルザアトリウム 参加者100名	◎小林祥子 ○隅野美佐与 西田京子 中西幸乃 山中歩 田口真弓 鈺真由美 大西陽子 尾上光子 藪内裕子
看護補助者連絡会	1. 看護補助者の業務を整理し、全職員に業務内容の浸透を図る 2. 看護補助者会の研修を企画・運営し、レベルアップに努める	1. 看護補助者の業務整理を行い、業務内容の浸透を図った 2. 看護補助者会運営方法の再周知を行い、運営がスムーズに行えるようになった 3. 研修の参加率が向上した 4. 年間計画は予定通り行えた 5. 認定看護師に依頼し、感染についての研修を行った 6. 実践をまじえた入浴介助の研修は、理解しやすかったと好評でレベルアップにつながった 7. 看護補助者連絡会に、看護補助者のリーダーとサブリーダーが参加することで情報伝達がスムーズに行えるようになった	◎川上好美 ○井上千穂 船本加奈子 浅田史美 瀬戸山睦子 二家本潤
感染リンクナース部会	1. 実践能力の統一を図る 2. 部署で実践モデルとなり、感染対策を実践する	1. 感染対策マニュアルの見直しと改正を行った 2. ICTラウンド実施後の現場へのフィードバックと改善の確認を行った 3. ラダー研修Ⅰ～Ⅲの担当を決めた。各自が講師として、研修資料作成から準備し、研修を実施した	◎濱田幸子 ○溝内千晶 寺中直美 東賢 野村陽子 高橋祥子 中村美穂 池田佳代 森弘樹 鍛冶幸司

委員会名	目 標	活 動 結 果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
キャリア開発委員会：クリニカルラダー	<ol style="list-style-type: none"> 各個人がキャリア向上にむけての動機付けができる ラダー研修の充実に向けた取り組みができる 	<ol style="list-style-type: none"> ラダーについての研修を各部署単位で実施した 他委員会との調整は不十分であった。次年度は各委員長へ研修内容を確認していく 年間研修スケジュールの作成と修正を行った。ラダー受付については、担当部署への声かけが必要 	◎永田美華 ○藤原美幸 西村映里香 中野奈津子 北野浩輝
キャリア開発委員会：新人担当	<ol style="list-style-type: none"> 新人看護師臨床研修制度の研修体制を確立する チェックリストの運用および評価を行う（看護技術チェックリストと看護業務チェックリストを使用する） ローテーション研修の運営・評価と今後の課題を明確にする 新人・既卒新人・中途採用者の進行状況の把握を行う 必要研修への参加を促す 	<ol style="list-style-type: none"> シミュレーション（人工呼吸器・CVなど）・看護技術・コミュニケーション研修の実施など研修内容を検討し研修の質向上に努めた チェックリストを活用し、未経験項目の把握と声かけを行った。チェックリストの見直し実施 新人の進捗状況とともにローテーション研修の各部署の受け入れ環境について検討・実施・評価した 交流会の報告や会議の中で新人の進捗状況について情報交換を行い支援した 参加必須研修について声かけやお知らせを配布した。必須研修の見直し検討を行った 	◎永田美華 ○江藤潔子 寺田真弓 袴淳子 西山知子 西川朝子 井上和美 武内香利 隅野美佐与 寺中直美 山口朋子
キャリア開発委員会：プリセプター	プリセプター制度を理解し、活用できる	<ol style="list-style-type: none"> 面接時期の面接を実施できたのかの確認を行った また、プリセプターの「私の成長日記」と「自己評価表」をチェックした 教育担当者会議、キャリア全体会議で「私の成長日記」・「自己成長日記」の使用と支援について声かけを行った ラダーⅡプリセプター研修を実施 看護部新人研修と次年度の新プリセプターへ当院のプリセプター制度について説明を行った 各時期にプリセプターの状況に応じて、研修の企画・運営を行った キャリア全体会議プリセプターの状況についての情報交換を行った 	◎永田美華 ○井上千穂 橋本舞子 大芝利恵 川崎華子 横田優
キャリア開発委員会：臨地実習	基礎教育課程の把握と臨地実習受け入れ施設としての向上を図る <ol style="list-style-type: none"> 教員との連携を深め、指導の向上を図る 各部署での実習環境の整備を図る 	<ol style="list-style-type: none"> 河崎会看護専門学校、泉大津市医師会附属看護高等専修学校の学生指導マニュアルの見直し・改正実施 統合実習のマニュアル見直し・改正 各部署の学生指導マニュアル作成 実習指導者会で教員と実習指導の状況について情報交換を実施 各部署の指導状況の確認と問題点の検討 	◎永田美華 ○植村恵美 大植美智子 中田真澄 大宅加代 松山鈴代

委員会名	目 標	活 動 結 果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
キャリア開発委員会：教育担当者会議	<ol style="list-style-type: none"> キャリア開発委員会にて教育全般について情報共有する 自部署での問題等を会議で検討する プリセプターや実習指導者など、自部署で教育に携わる看護師の直接的支援を行う 	<ol style="list-style-type: none"> キャリア開発委員会にてキャリア各担当の情報共有を行った 自部署での新人やプリセプター、看護学生の進捗状況や問題点を話し合い、解決策を検討した プリセプターや新人のチェックリストを確認し、支援に繋げた。学生指導を主体的に実践した 	◎永田美華 ○袴淳子 大植美智子 西山知子 武内香利 隅野美佐与 川上好美 北野浩輝 山口朋子
看護システム委員会	<ol style="list-style-type: none"> 固定チームナーシングにおけるチームリーダーの育成を図る 受け持ち看護師の役割を發揮できるように働きかける 	<ol style="list-style-type: none"> 年2回のリーダー研修会の開催 固定チームナーシング基準のマニュアルの受け持ち看護師の役割について見直し 	◎阿多亜矢子 ○金子貴久代 亀甲佳奈 徳尾純子 福島妙 古川舞 井上千穂 徳永優子 若井規子 鍛治幸司
認定看護師会	認定看護師の役割が發揮できるように活動内容を構築する	認定看護師の役割を果たすため、広報活動、研修、必要書類のフォーマット作成を行った <ul style="list-style-type: none"> 泉大津市の広報誌「いずみおおつ」に人認定看護師の役割と活動内容に関する記事記載 おづレンジャー新聞の発刊 認定看護師研修会開催 市民公開講座講師 コンサルテーション報告書作成 認定看護師講義依頼書作成 	◎望月ゆみ子 ○池野真智 濱田幸子
退院調整委員会	<ol style="list-style-type: none"> 退院支援看護師の役割を果たす 退院支援システムと退院支援計画書・介護支援専門員との共同支援の周知と定着 	退院支援看護師として、退院支援システムについて各部署で勉強会や決定事項の伝達を行い、周知に努める事ができ、地域連携室と協力して活動することができた 介護支援専門員との共同支援については、周知、定着してきたが、ケアマネージャーとの情報交換を行うための窓口を含めた、システムの構築が必要である。退院支援計画書は、地域連携室が主体となって行っているが、今後は退院支援看護師として、各部署へ周知、定着できるよう継続して支援する	◎江藤潔子 ○船本加奈子 堀内正子 川崎伸絵 泉谷めぐみ 中野裕美 小野智里 川上好美

委員会名	目 標	活 動 結 果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
看護部機能評価委員会	平成26年度機能評価受審に向けて問題点を抽出し、看護の質の向上を図る機能種別版Ver. 1.0の自己評価を行い、問題点の抽出と改善に繋げる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会の新メンバーが多かった為、1、2、領域の自己評価の方法、問題点の抽出と各部署での改善を行った。後期に行われた機能評価プロジェクトに看護部で検討した問題点、課題を提案した ・ 各委員会、部署に伝達し、マニュアル評価、改正を行った ・ 2グループに分かれて院内ラウンドの検討、実施を行った。次年度も受審に向けて院内ラウンドの検討、実施と受審のシミュレーションを行う ・ 機能評価委員が機能種別版Ver. 1.0の各部署での自己評価の指導を行い、C評価改善と看護職員への周知を行う ・ 看護部で解決できない問題は、引き続き機能評価受審プロジェクトで検討・改善するように、問題提起を行う ・ 受審に必要なマニュアル、看護の準備を行う 	◎熊本訓子 ○武内香利 須川景子 岩切いつ子 清水美幸 尹明恵 葉山美紀 遠藤千恵 森下多美 内田美砂子 山本真奈美
外来治療室担当者会議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外来治療室のシステム構築 2. 外来治療室担当者による患者指導の標準化 3. がん化学療法に関する看護実践の向上 	<ol style="list-style-type: none"> 1. インフューザーポンプ使用者の自己抜針指導方法、CVポート固定方法の統一化を図った 2. 抗がん剤が薬剤部より運搬された際のダブルチェックに加え、抗がん剤接続後に滴下速度、薬剤名のダブルチェックを行い、レジメンに看護師2名のサインをするシステムの導入 3. 一部の抗がん剤使用者に副作用チェックシートを渡し副作用マネジメントに介入するようにした 4. 新たな抗がん剤導入のシステム確立 5. 一部抗がん剤の注射部位反応を考慮し、腹部に変更した 6. 化学療法に使用する衛生材料の検討と導入 7. 各種抗がん剤勉強会 	◎飯坂幸子 ○西田京子 奥茜 本田由美 池上浩子 藤野陵子 野口愛 渥美加奈子
患者サービス向上委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「患者さんの声」を聴き、サービスの向上に反映させる 2. 看護師満足度を向上させる 	「理想の看護師像」をテーマにフレームワークを行いアンケート内容を検討し作成した。自分たちが患者目線で考えることで自身の行動を振り返る機会になった 11月よりアンケート調査を開始し、患者さんから評価をいただいた。結果を各部署にフィードバックすることで話し合う機会を作り自分たちの看護を振り返る事ができた。患者の声を聴き、接遇およびサービスの意識が高まり看護師のモチベーションの向上に繋がった	◎清水美幸 ○森浩子 下平みどり 山本明美 井上真佐美 西浦智成 那須井みか子 山中かおり 森佳子 大杉久枝

☆看護部院外活動実績☆

No.	活動場所	活動内容	開催日	活動者名
1	コラッセふくしま	小児救急電話相談スキルアップ研修会 基礎コース	平成26年6月20日	北野京子
2	大阪市立総合医療センター	関西ストーリーメイクアップ講習会	平成26年8月8日～ 8月9日	池野真智
3	大阪府看護協会 桃谷センター	救急看護 演習講師	平成26年8月8日	望月ゆみ子
4	テクスピア大阪	感染対策セミナー講師	平成26年8月22日	濱田幸子
5	和泉保健所	小児在宅医療看護連絡会議報告	平成26年8月27日	藤原美幸
6	国立オリンピック記念青少年総合センター	小児救急電話相談スキルアップ研修会 実践コース	平成26年9月22日 ～9月23日	北野京子
7	大阪府看護協会 桃谷センター	フィジカルアセスメントの基礎のインストラクター	平成26年9月26日	望月ゆみ子
8	河崎会看護専門学校 看護第1学科	成人看護方法論Ⅲ講師	平成26年10月14日 ～11月18日	望月ゆみ子
9	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	成人看護 講師 (成人看護概論・消化器看護)	平成26年10月～ 11月	池野真智
10	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	成人看護 講師 (骨関節・循環器)	平成26年10月～ 12月	西川直美
11	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	成人看護 講師 (呼吸器・内分泌)	平成26年10月～ 12月	藤野芳子
12	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	母性看護 講師 (母性看護 正常)	平成26年10月～ 12月	袴淳子
13	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	成人看護 講師 (脳神経・口腔)	平成26年11月～ 12月	中野裕美
14	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	成人看護 講師 (血液・感染・アレルギー)	平成26年11月～ 12月	山原真代
15	テクスピア大阪	感染対策セミナー講師	平成26年11月21日	濱田幸子
16	ナーシングアート 大阪	臨床倫理事例研究会 事例検討ファシリテーター	平成27年1月10日 ～1月11日	尹明恵
17	大阪府立成美高等学校	おつきあいのマナー デートバイオレンス予防 ワークショップ	平成27年1月22日	大西陽子
18	和泉市立信太小学校	性教育について	平成27年3月19日	山本明美
19	テクスピア大阪	地域で支える在宅療養高齢者等の口腔ケア・口腔機能維持管理 講師	平成27年3月29日	田中美紀

☆看護部院外研修実績☆

No.	研修名	主催	開催日時	参加者名
1	日本創傷オストミー失禁管理学会集会	日本創傷オストミー失禁管理学会	H26.5.16～17	池野真智
2	ハート先生の心電図セミナー	医学同人社	H26.5.8	肥後麗華 橋本伊都子 荒木結香 山本真奈美
3	NICUにおける在宅移行支援研修 (リフレクション)	FCCN	H26.5.14	松川めぐみ 山本真奈美
4	感染対策セミナー	小津感染管理担当実務者連携 協議会	H26.5.23	八幡知絵 森本紀子
5	第17回日本臨床救急医学会学術集 会	日本臨床救急医学会	H26.5.31～6.1	望月ゆみ子
6	第113回日本皮膚科学会総会	日本皮膚科学会	H26.6.1	池野真智 北悠奈 石川希 横田美喜 武内博子 渥美加奈子
7	大腸がんレビュー	webエキスパートセミナー	H26.6.5	飯阪幸子 渥美加奈子
8	退院支援から見えてきたこれからの医 療・看護の考え方 ～地域包括ケアを実現するために～	大阪府公立病院協議会看護部 長会	H26.6.7	鳥羽敏子 田中美紀 尾崎弘己 須川景子 西川朝子 岩切いつ子 望月ゆみ子 西田京子 遠藤千恵 江藤潔子 金子貴久代 徳尾純子 若井規子 中野裕美 川崎伸絵 土井美和 小野智里
9	関西ストーマケア研究会	関西ストーマケア研究会	H26.6.7	池野真智
10	平成26年度大阪母性衛生学会	大阪母子衛生学会	H26.6.8	望月ゆみ子 小野智里
11	ハイリスク新生児の根拠に基づいた人工 呼吸管理と児のケアのポイント	日総研	H26.6.14	坂本美由起 尾上光子
12	不当なクレームに負けない院内トラブルの 予防と対策	日総研	H26.6.15	飯阪幸子
13	助産師のための超音波セミナー	近畿産婦人科学会	H26.6.21	禰淳子
14	地域看護1 病棟看護師としてできる 退院支援・調整	大阪府看護協会	H26.6.23	中野裕美
15	地域包括ケア岸和田市における 医療と介護の連携	大阪府看護協会泉南支部	H26.6.24	藤野芳子 尾上光子

No.	研 修 名	主 催	開催日時	参加者名
16	HIVについて	泉州感染ネットワーク	H26.6.25	濱田幸子
17	第14回ODES	大阪糖尿病患者教育担当医会	H26.6.28	松尾みゆき 江藤潔子
18	重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修	日本臨床看護マネジメント学会	H26.6.29	尾崎弘己 井上千穂
19	実務に必要な労務管理の法的知識と現場のトラブル対策	日総研	H26.6.29	飯阪幸子
20	思春期から伝えておきたい健康課題とは	SRHセミナー日本家族協会	H26.7.5	川上好美
21	PEACE研修	PEACE	H26.7.5～6	池野真智 西村佳恵
22	機能種別版評価項目3rdG受審ポイントと業務改善・資料作成・プレゼンのコツ	日総研	H26.7.13	藤原美幸
23	ゼロから学ぶ先天性心疾患	メディカ出版	H26.7.19	坂本美由起 尾上光子
24	おっばい研修	日総研	H26.7.20	禰淳子 寺田利恵 上田由香 毛穴裕子
25	ペインコントロールと鎮静	大阪府看護協会	H26.7.23	望月ゆみ子
26	関西ストーマケア講習会	関西ストーマケア研究会	H26.8.8～10	池野真智 北悠奈
27	NICUにおける退院調整	日総研	H26.8.9	深川政和
28	オペラント条件付け	心理学研究会	H26.8.18～19	川上好美
29	感染対策セミナー	小津感染管理担当実務者連携協議会	H26.8.22	森本紀子 濱田幸子
30	第4回透析療法看護セミナー	医学の友社	H26.8.24	吉田早苗 田中典子
31	中枢神経障害患者の管理	大阪府看護協会	H26.8.28	望月ゆみ子
32	日本褥瘡学会学術集会	日本褥瘡学会	H26.8.29～30	池野真智
33	高次脳機能障害	大阪府	H26.8.30	西山知子 須川景子 瀬戸山睦子
34	ELNEC-J	大阪府看護協会	H26.8.30～31	西川朝子
35	緩和ケア研修会	大阪南医療センター	H26.9.6	池野真智
36	放射線療法・化学療法について	市立岸和田市民病院緩和セミナー	H26.9.11	中野裕美 那須井みか子 寺内美久里 奥茜
37	新生児救急相談	大阪府看護協会	H26.9.13	尹明恵

No.	研修名	主催	開催日時	参加者名
38	これからの母親学級	メディカ出版	H26.9.14	葛山伸
39	虐待予防の家庭訪問	H F J	H26.9.23	川上好美
40	看護管理 I 組織とリーダーシップ	大阪府看護協会	H26.9.25～26	尹明恵
41	地域看護2 病棟管理者としてできる 退院支援・調整	大阪府看護協会	H26.9.29～30	西田京子 遠藤千恵
42	共通4 災害看護における初期医療 活動支援①	大阪府看護協会	H26.10.1	東賢
43	脊髄損傷患者の排尿管理	堺市医師会	H26.10.1	梶原薫
44	脳卒中リハビリテーション看護	岸和田市民病院	H26.10.4	井上千穂
45	間歇導尿指導認定セミナー	NPO快適な排尿をめざす全国 ネットの会	H26.10.6～7	梶原薫
46	感染看護2 組織で取り組む感染管理 (応用編)	大阪府看護協会	H26.10.7～8	寺中直美
47	HIVサポートリーダー養成	大阪府立大学	H26.10.9	大西陽子 根来梓
48	日本救急看護学会学術集会	日本救急看護学会	H26.10.10～11	望月ゆみ子
49	ソフロロジー研修	メディカ出版	H26.10.12	宇和田由可
50	タッチケア	日本タッチケア協会	H26.10.12～13	川上好美
51	経管栄養・コミュニケーションエラー	学研ナーシングサポート	H26.10.15	福本共美
52	基礎教育と臨床現場のギャップをうめる 看護技術教育	医学書院	H26.1.18	西川朝子 井上和美
53	泉州がん拠点病院合同公演会	泉州がん診療連携拠点病院7施設	H26.10.25	高橋祥子 池上浩子 坂本恵三
54	日本内視鏡技師学会	日本消化器内視鏡技師会	H26.11.25	熊本訓子 藪内裕子 山中かおり 亀井夕紀子 正垣純子
55	BLSプロバイダーコース	日本ACLS協会	H26.10.26	北野京子
56	災害看護	大阪府看護協会	H26.10.28	望月ゆみ子
57	災害時における地域連携	南大阪の透析と防災を考える会	H26.11.1	飯阪幸子
58	小児救急におけるトリアージ	メディカ出版	H26.11.2	那須井みか子 新甚尚美 松窪彩 中野裕美

No.	研修名	主催	開催日時	参加者名
59	大阪大学秋季安全衛生集中講習会	大阪大学	H26.11.12	川崎伸絵 望月ゆみ子 小野智里
60	終末期の意志決定支援	日総研	H26.11.16	飯阪幸子
61	もしかして虐待と感じたら	泉大津市	H26.11.25	森本紀子 深川政和 尾上光子
62	感染対策セミナー	小津感染管理担当実務者連携協議会	H26.11.21	濱田幸子
63	呼吸の基礎知識と酸素吸入	学研ナーシングサポート	H26.11.26	福本共美
64	高次脳機能障害の理解と看護	大阪府看護協会	H26.11.26～27	福本共美
65	BSケアベーシックコース	日総研	H26.11.29	袴淳子 寺田利恵 宇和田由可 上田由香 毛穴裕子 山本直美
66	アレルギー治療の現状	大阪市医師会	H26.11.29	濱口美由紀
67	BSケアアドバンスコース	日総研	H26.11.30	袴淳子 寺田利恵
68	母性看護 I	大阪府看護協会	H26.12.3	島田富美子
69	日本看護学会学術集会	日本看護協会	H26.12.6	須川景子
70	大阪大学病院フォーラム災害	大阪大学	H26.12.6	望月ゆみ子 東賢
71	在宅医療を必要とする児	FCCN	H26.12.10	肥後麗華
72	第12回認定更新者用講習会	日本糖尿病療養士認定機構	H26.12.20～21	江藤潔子
73	排便障害のケア・急性期の患者管理	学研ナーシングサポート	H27.1.5	福本共美
74	NICU長期入院に対する地域での取組	新生児学術講演会	H27.1.7	尾上光子 川上好美 濱口美由紀 山本真奈美
75	臨床倫理事例検討会	臨床倫理事例研究会	H27.1.10.～11	武内香利
76	重症心身障害児のコーディネート事業について	第5回小児在宅医療を考える会	H27.1.11	深川政和
77	摂食・嚥下障害のある患者の看護アドバンス	大阪府看護協会	H27.1.13～14	西山知子
78	臨床看護研究支援のポイント	日総研	H27.1.17	飯阪幸子
79	ストーマセミナー	コンパテック	H27.1.18	石川希

No.	研 修 名	主 催	開催日時	参加者名
80	WOCNが行う排泄ケア外来		H27.1.24	池野真智
81	緩和ケア研修会	市立堺病院	H27.1.31～2.1	高橋祥子
82	救急看護認定看護師ブラッシュアップセミナー	大阪府看護協会	H27.2.7	望月ゆみ子
83	泉州がん拠点病院合同公演会	泉州がん診療連携拠点病院7施設	H27.2.7	木村千亜紀
84	堤式乳房マッサージ	日総研	H27.2.8	袴淳子 上田由香 寺田利恵
85	NST静脈経腸栄養学会	日本静脈経腸栄養学会	H27.2.12～13	木村千亜紀
86	緩和ケア研修会	大阪市立大学医学部附属病院	H27.2.19～20	長濱桂子
87	産婦人科診療ガイドライン研修産科編	大阪府看護協会	H27.2.21	坂井雅子 寺田利恵
88	胸部レントゲン・CT画像の読み方	医学の友社	H27.3.1	新甚尚美 那須井みか子 松窪彩
89	ハイリスク妊婦に関する報告会	堺市保健センター	H27.3.2	袴淳子 浅田史美
90	写真で見る小児の異常の早期発見	日総研	H27.3.7	上田由香 寺田利恵
91	薬物依存・危険ドラッグについて	性と健康を考える女性専門家の会	H27.3.7	尾上光子
92	第5回いのちのフォーラム ケアの宛先	兵庫県看護協会	H27.3.14	大江桂子 古久保礼子 尾崎弘己
93	大阪府災害医療研修	大阪府	H27.3.17	望月ゆみ子

☆看護研究☆

院内発表（平成27年2月14日（土）9：00～11：00）

演 題	部 署	研究者（○発表者）
早期離床への援助に向けたリーフレットの作成 ～看護師の早期離床への理解と統一した援助に向けて～	3階	○大塚和美 満永涼子 福原史恵
インスリン自己注射手技指導方法の見直しの実践報告	4階	○重田美由紀 高橋祥子 竹田容子
個人の排便周期にあった個別性のある排便ケアに向けた取り組み	4階北	○福本共美 川崎伸絵 西山知子
看護業務による腰痛の予防に向けた取り組み	5階	○石井純代 西村映里香 池上浩子
安全で正確な服薬援助を目指して ～配薬パネルの導入～	6階小児	○平井美由紀 徳永優子 藤野陵子
医療従事者による水平伝播予防のための取り組み ～適切な手指衛生のタイミングの周知から定着へ に向けて～	N I C U ・ G C U	○西尾恵里香 木村加矢子 中川麻美子
安全な大腸内視鏡検査前処置に対する取り組み	手術室・内視鏡 センター	○藪内裕子 山中かおり 正垣純子

看護研究指導講師

森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科 精神看護学 来栖 清美先生

☆看護部院内研修実績☆

平成26年度

No.	研 修 名	日 時	参加人数
1	新人看護部職員研修	4月2日	12名
2	第1回接遇研修	4月2日	12名
3	新人看護部職員研修	4月3日	12名
4	新人第1回研修(1日目) 酸素吸入・採血	4月4日	7名
5	新人第1回研修(2日目) 静脈注射・輸液ポンプ	4月7日	12名
6	新人看護部職員研修 オーダリング説明会	4月4日～9日	12名
7	新人交流会	4月11日、18日、25日	7名
8	第1回看護研究指導(講義)	4月22日	38名
9	ラダー研修Ⅰ リスク	4月28日	22名
10	1ヶ月交流会(新人)	5月8日	6名
11	1ヶ月交流会(既卒)	5月8日	3名
12	ラダー研修Ⅱ 記録	5月12日	12名
13	ラダー研修Ⅲ 感染	5月20日	4名
14	第1回管理職(看護師長)研修	5月20日	9名
15	ラダー研修Ⅲ リスク	5月26日	4名
16	第2回看護研究指導	5月28日	20名
17	ラダー研修Ⅲ 記録	6月9日	8名
18	ラダー研修Ⅱ フリセプター	6月11日	10名
19	2ヶ月交流会	6月13日	7名
20	第2回新人研修 心電図・モニター	6月13日	12名

No.	研修名	日時	参加人数
21	ラダー研修Ⅱ 感染	6月17日	11名
22	第2階接遇研修	6月18日	40名
23	ラダー研修Ⅱ リスク	6月23日	9名
24	第3回看護研究指導	6月25日	15名
25	新人第3回研修会 中心静脈トレーニング	6月27日	13名
26	昇任者研修(看護副師長)	7月3日	1名
27	3ヶ月交流会(新人)	7月4日	6名
28	3ヶ月交流会(既卒)	7月11日	3名
29	新人第4回研修会(ディベート)	7月11日	9名
30	ラダー研修Ⅰ 記録	7月14日	20名
31	第2回管理職(看護師長)研修	7月15日	8名
32	伝達講習「病棟看護師としてできる退院支援」	7月22日	7名
33	伝達講習「重症度、医療・看護必要度」	7月31日	44名
34	ラダー研修Ⅰ 感染	8月5日	23名
35	4ヶ月交流会(新人)	8月8日	6名
36	第3回接遇研修	8月20日	34名
37	ラダー研修Ⅰ 記録	9月8日	7名
38	第3回管理職(看護師長)研修	9月16日	8名
39	ラダー研修Ⅲ リスク	9月22日	7名
40	6ヶ月交流会(新人)	10月1日	6名
41	6ヶ月交流会(既卒)	10月2日	3名
42	ラダー研修Ⅱ プリセプター	10月8日	8名
43	第4回接遇研修	10月15日	32名
44	ラダー研修Ⅰ 感染	10月21日	11名
45	ラダー研修Ⅱ リスク	10月27日	2名
46	伝達講習「病棟看護師としてできる退院支援・調整」	10月28日	5名
47	認定看護師の役割を知ろう	10月29日	25名
48	伝達講習「組織とリーダーシップ」	10月30日	9名
49	ラダー研修Ⅱ 記録	11月10日	4名
50	伝達講習「災害看護における初期医療支援活動」	11月10日	9名
51	ラダー研修Ⅲ 感染	11月18日	7名
52	第4回看護研究指導	11月18日	15名
53	第4回管理職(看護師長)研修	12月1日	10名
54	8ヶ月交流会(新人)	12月5日	6名
55	ラダー研修Ⅲ 記録	12月8日	5名
56	伝達講習「組織で取り組む感染管理(応用編)」	12月8日	8名
57	ラダー研修Ⅱ 感染	12月16日	3名
58	第5回接遇研修	12月17日	25名
59	ラダー研修Ⅰ リスク	12月22日	9名
60	第5回看護研究指導	1月7日	15名
61	コミュニケーショントレーニング	1月10日	19名
62	第5回管理職(看護師長)研修	1月20日	9名
63	伝達講習「摂食嚥下障害のある患者の看護の基礎と実際を学ぶ」	1月27日	9名

No.	研 修 名	日 時	参加人数
64	認定看護師研修「エビデンスに基づいた知識・技術」	1月30日	33名
65	1年目交流会	2月2日	6名
66	伝達講習「周産期の診断、検査とグリーフケア」	2月9日	4名
67	認定看護師研修「エビデンスに基づいた知識・技術」	2月12日	37名
68	看護研究発表会	2月14日	78名
69	第6回接遇研修	2月18日	37名
70	伝達講習「嚥下障害のある患者の看護アドバンス」	2月24日	10名
71	小児救急看護電話相談研修会	2月24日	60名
72	中途採用者交流会	3月2日	3名
73	第6回管理職(看護師長)研修	3月17日	8名
74	伝達講習「看護記録(実践編)」	3月24日	8名

☆実習受け入れ状況☆

実 習 名	期 間	人数
泉大津市医師会附属看護高等専修学校 (基礎・各論)	H26. 4. 7 ~ H27. 3. 13	3 2 名
河崎会看護専門学校 看護第1学科 19期生 各論実習	H26. 4. 7 ~ H26. 12. 5	4 4 名
河崎会看護専門学校 看護第1学科 19期生 統合実習	H26. 10. 27 ~ H26. 12. 5	1 3 名
河崎会看護専門学校 看護第1学科 20期生 各論実習	H27. 2. 9 ~ H27. 2. 27	8 名
河崎会看護専門学校 看護第1学科 21期生 基礎Ⅱ実習	H27. 1. 12 ~ H27. 1. 30	1 0 名
大阪府病院協会看護専門学校 通信制 (基礎・各論)	H26. 7. 28 ~ H26. 8. 28	4 0 名
福岡看護専門学校 通信制 (各論：母性)	H26. 10. 2 ~ H26. 10. 3	2 名
大阪大学医学部保健学科 看護学専攻(助産学)	H26. 10. 6 ~ H26. 11. 13	6 名
森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科	H26. 12. 15 ~ H27. 3. 13	3 4 名
樟蔭東高等学校 (本科・専攻科)	H26. 7. 28 ~ H27. 2. 26	2 8 名
関西女子短期大学 保健科 養護・保健コース	H27. 2. 23 ~ H27. 3. 6	2 名
泉大津市立小津中学校 職場体験学習	H26. 11. 20 ~ H26. 11. 21	2 名
ふれあい看護体験	H26. 6. 12	2 名
		計 2 2 3 名

6

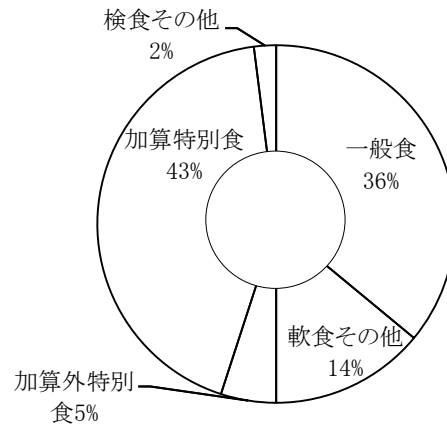
栄養・給食管理業務の現況

6. 栄養・給食管理業務の現況

【平成26年度入院患者給食延人員】

一般 常食	18,824
軟食その他	7,301
加算外特別食	2,591
加算特別食	21,953
検食その他	955
給食総延人員数	51,624
1日平均喫食人員	141
特別食比率（検食その他除く）	43%
調理師1人1日平均調理数	26
1人1日平均給食費（円）	832円

平成26年度入院患者食種別分類



年度別患者食・患者外食延人員及び給食費

区 分		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
一 般 食	常 食	20,557	20,029	18,335	18,824
	軟食その他	7,591	5,976	8,573	7,301
特 別 食	加 算 外 食	1,496	1,169	2,255	2,591
	加 算 食	20,025	18,261	22,432	21,953
患 者 外 食	検 食	1,862	1,000	911	955
給 食 総 延 人 員 数		51,531	47,323	52,506	51,624
1 日 平 均 喫 食 人 員		143	130	141	141
特 別 食 比 率		41%	40%	43%	43%
調 理 師 1 人 1 日 平 均 調 理 数		27	25	29	26
1 人 1 日 平 均 食 費（円）		☆ 736	☆ 802	☆ 853	☆ 832

☆消費税抜きの単価

【スタッフ】

管理栄養士：正職2名、嘱託1名、嘱託1名（調乳業務）

栄養士：嘱託1名（調乳業務）

給食業務は業者へ委託

【概要】

◎NST活動では、毎週火曜日13:00～回診、症例検討会・勉強会を実施。

正職1名入職したことにより、4月～加算が取れるようになった。

糖尿病教育入院、糖尿病勉強会、糖尿病教室等、糖尿病療養指導士チーム、褥瘡対策チーム、緩和ケアサポートチームとしてもチーム医療へ積極的に関わってきた。

腎臓病教室を定例開催とした。（年4回）

機能評価

26年5月9日（金） 看護の日 栄養相談 佃 暁子

26年5月13日（火） 糖尿病教室「この勘違いが高血糖の落とし穴」 佃 暁子

26年6月4日(水) 腎臓病教室 中島 あゆみ
 26年11月16日(日) 出前講座「認知症予防の食事」 大北 知子
 26年12月3日(水) 腎臓病教室「年末年始の食事の摂り方」 中島 あゆみ
 26年12月9日(火) 糖尿病教室「年末年始の食事の摂り方」 大北 知子
 27年3月9日(月)10日(火) 機能評価受審
 27年3月21日(土)22日(日) 緩和ケア研修(くるみ餅、ブリュレ提供)

市民セミナーH27年3月28日(土)テクスピア大ホール 14:00～16:30

糖尿病セミナー 糖尿病っていわれたら～楽しく生きるために～
 「抑えておきたい高血糖を防ぐ食生活」 佃 暁子

27年2月1日(日)～ 院内食事箋改訂
 27年3月1日(日)～ 祝膳リニューアル

【実習生受け入れ】

平成27年1月26日～2月13日 大手前栄養学院 2名
 平成27年2月23日～3月6日 羽衣国際大学 2名

【認定等】

日本糖尿病療養指導士認定機構 認定栄養士 1名
 日本病態栄養学会 病態栄養専門士 1名
 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士
 臨床実施修練終了 1名

月別入院外来栄養指導件数(平成26年度)

区分	糖尿病	胃腸病	肝臓病	腎臓病	脂質異常症	心高血圧	肥満	妊娠高血圧	胆石	その他	合計	集団	人間ドック
4月	入院	44	59	10	8	5	17	0	1	10	16	6	21
	外来	27	0	1	15	7	1	0	0	0	1		
5月	入院	34	46	5	12	4	8	0	0	5	13	2	15
	外来	27	1	0	24	8	7	1	2	0	3		
6月	入院	36	84	11	9	2	5	0	3	7	19	18	25
	外来	24	0	0	28	12	7	3	0	0	8		
7月	入院	43	43	11	6	1	9	0	3	4	22	5	23
	外来	29	1	1	29	5	2	3	0	1	2		
8月	入院	36	50	16	18	4	8	0	1	4	28	5	25
	外来	33	1	0	21	8	0	1	0	0	3		
9月	入院	22	31	8	9	7	8	0	1	7	23	16	21
	外来	26	0	0	15	4	0	0	0	0	0		
10月	入院	26	49	7	13	4	8	0	0	11	10	3	24
	外来	22	0	0	20	10	2	0	0	1	2		
11月	入院	28	36	8	19	5	8	0	2	11	11	5	22
	外来	26	1	0	19	11	3	0	0	0	0		
12月	入院	17	53	10	20	3	9	0	2	8	21	10	24
	外来	17	1	1	18	3	3	0	0	1	0		
1月	入院	36	36	13	10	3	11	0	0	15	19	4	19
	外来	21	0	0	19	11	10	0	0	0	2		
2月	入院	25	40	8	12	0	9	0	0	9	14	5	9
	外来	22	0	1	14	5	8	0	0	0	1		
3月	入院	19	49	12	20	4	6	0	0	8	6	18	13
	外来	18	0	1	16	10	5	0	0	0	1		
合計	入院	366	576	119	156	42	106	0	13	99	202	97	241
	外来	292	5	5	238	94	48	8	2	3	23		

月別患者食及び患者外食延人員(平成26年度)

	一般食			特別食		給食人員 総合計	1日平均 給食人員	患者外食	給食 総延人員数	患者食 1日1人当 平均単価☆
	常食	軟食	流動食	加算食	非加算食			検食		
4月	1,616	449	41	1,974	245	4,325	144	76	4,401	867
5月	1,645	530	36	1,833	181	4,225	136	74	4,299	890
6月	1,477	662	25	2,016	212	4,392	146	76	4,468	843
7月	1,564	689	37	1,825	140	4,255	137	91	4,346	881
8月	1,681	692	30	2,034	165	4,602	148	90	4,692	816
9月	1,446	621	40	1,646	209	3,962	132	89	4,051	859
10月	1,424	625	29	1,673	233	3,984	129	68	4,052	803
11月	1,610	477	40	1,715	246	4,088	136	81	4,169	787
12月	1,596	547	26	1,717	254	4,140	134	75	4,215	800
1月	1,498	642	33	1,854	231	4,258	137	69	4,327	819
2月	1,468	463	64	1,809	236	4,040	144	84	4,124	819
3月	1,799	431	72	1,857	239	4,398	142	82	4,480	800
計	18,824	6,828	473	21,953	2,591	50,669	1,665	955	51,624	9,984
月平均	1,569	569	39	1,829	216	4,222		80	4,302	
1日平均	52	19	1	61	7	141	139	3	141	832
食種別比	37%	13%	1%	43%	5%	100%				

☆消費税抜きの単価

7

事務局の取り組み状況等

経営状況

財務諸表

月次経営指標

社会保険事務局への施設基準届出状況一覧

科別診療収入

診療行為別診療収入

地域別・男女別患者数

疾病別大分類統計表

クリニカルパス統計資料

7. 事務局の取り組み状況等

【平成26年度の主な取り組みと今後の方策】

平成26年度は、透析ルームを拡張し、11床を16床としたため、確実な収入増となった。また、透析患者の送迎も始めており、今後の患者増に期待することとした。全体の収益としては、昨年度と同程度となる見込みで、経常損益は黒字化できている。加えて、公営企業法の全部適用事業所として、目標としていた看護師やコメディカルの給与表を一般事務職のそれから切り離し、それぞれの給与表を作成することができた。

【経営状況等】

平成26年度の収益的収支（損益ベース）については、収益は5,973,218千円で、前年度に比べ84,756千円（1.4%）の増収となっている。これは医業収益において8,131千円減収、医業外収益において76,158千円増収、会計制度見直し等により特別利益が16,729千円増加したことによるものである。

一方、費用は7,267,642千円で、前年度に比べ1,524,675千円（26.5%）の増加になった。これは会計制度見直しによる退職給付引当金の一括計上等、特別損失で1,488,692千円を処理したことが主な要因である。以上、収益的収支差引としては1,294,424千円の損失となった。

また、資本的収支については、収入239,731千円、支出759,702千円となり、収支差額は519,971千円の不足となった。

病院の目標として「消化器病診療の充実」、「こどもと女性にやさしい病院」、「生活習慣病対策」「高齢者にやさしい病院」という目標を掲げ、近隣医療機関との連携を強化し、研修医の獲得と育成に努め、地域の中核病院としての役割を果たしつつ、経営の健全化を進めていく。

収益的収支種別比較表

区 分	年 度		24 年 度		25 年 度		26 年 度	
	金額 (千円)	金額 (千円)	対前年度比率	金額 (千円)	対前年度比率	金額 (千円)	対前年度比率	
医 業 収 益	4,987,097	5,193,947	104.1	5,185,816	99.8			
入院収益	3,059,044	3,101,008	101.4	3,110,964	100.3			
外来収益	1,617,016	1,612,423	99.7	1,581,101	98.1			
その他医業収益	311,037	480,516	154.5	493,751	102.8			
医 業 外 収 益	547,121	520,894	95.2	597,052	114.6			
受取利息配当金	0	0	-	0	-			
他会計補助金	431,904	400,000	92.6	481,282	120.3			
補助金	67,792	61,128	90.2	46,521	76.1			
長期前受金戻入	-	-	-	9,757	皆増			
その他医業外収益	47,425	59,766	126.0	59,222	99.1			
雑収益	-	-	-	270	皆増			
特 別 利 益	172,412	173,621	100.7	190,350	109.6			
その他特別利益	172,412	173,621	100.7	190,350	109.6			
(A) 収 益 合 計	5,706,630	5,888,462	103.2	5,973,218	101.4			
医 業 費 用	5,462,961	5,376,300	98.4	5,457,481	101.5			
給 与 費	2,854,159	2,929,259	102.6	2,988,637	102.0			
材 料 費	979,472	915,220	93.4	894,516	97.7			
経 費	1,252,412	1,164,120	93.0	1,181,143	101.5			
減価償却費	362,335	350,059	96.6	375,821	107.4			
資産減耗費	3,999	5,876	146.9	4,982	84.8			
研究研修費	10,584	11,766	111.2	12,382	105.2			
医 業 外 費 用	392,274	361,669	92.2	316,865	87.6			
支払利息及び 企業債取扱諸費	159,909	151,834	95.0	143,369	94.4			
患者外給食材料費	323	324	100.3	324	100.0			
看護師養成費	-	-	-	3,498	皆増			
雑 損 失	105,819	95,462	90.2	136,634	143.1			
長期前払消費税償却	-	-	-	13,040	皆増			
繰延勘定償却	96,223	84,049	87.3	-	-			
寄 付 金	30,000	30,000	100.0	20,000	66.7			
特 別 損 失	4,821	4,998	103.7	1,493,296	29,877.9			
過年度損益修正損	4,821	4,998	103.7	4,605	92.1			
その他特別損失	0	0	-	1,488,691	皆増			
(B) 費 用 合 計	5,860,056	5,742,967	98.0	7,267,642	126.5			
(A) - (B) 収 益 的 収 支	△ 153,426	145,495	-	△ 1,294,424	-			
不良債務額	530,082	462,738	-	811,076	-			

収益の支出明細比較表

区 分	年 度	25 年 度		26 年 度	
	24 年 度	金 額 (千円)	金 額 (千円)	対前年度比率	金 額 (千円)
給 料	1,067,912	1,074,301	100.6	1,078,121	100.4
手 当	1,015,916	1,045,549	102.9	923,631	88.3
賃 金	60,344	78,942	130.8	31,559	40.0
法定福利費	410,227	417,339	101.7	402,295	96.4
報 酬	304,967	315,139	103.3	364,911	115.8
(退職給与金)退職給付費	11,708	15,791	134.9	29,318	185.7
賞与引当金繰入額	-	-	-	158,802	皆増
薬 品 費	605,663	517,230	85.4	512,186	99.0
診療材料費	359,537	386,014	107.4	377,405	97.8
給食材料費	0	112	-	0	-
医療消耗備品費	14,272	11,863	83.1	4,925	41.5
厚生福利費	8,400	8,306	98.9	7,798	93.9
報 償 費	152,430	161,283	105.8	209,798	130.1
旅費交通費	4,854	5,920	122.0	6,445	108.9
職員被服費	403	983	243.9	367	37.3
消耗品費	32,281	28,972	89.7	31,582	109.0
消耗備品費	17,666	14,347	81.2	10,009	69.8
光熱水費	150,220	170,553	113.5	177,272	103.9
燃 料 費	165	357	216.4	509	142.6
食 糧 費	0	0	-	25	皆増
印刷製本費	11,446	12,390	108.2	9,892	79.8
修繕費	31,561	22,382	70.9	29,686	132.6
保 險 料	33,260	28,331	85.2	26,258	92.7
賃 借 料	133,985	150,633	112.4	124,022	82.3
通信運搬費	6,634	6,844	103.2	6,391	93.4
委託料	642,141	525,206	81.8	535,994	102.1
諸 会 費	1,225	1,452	118.5	1,213	83.5
貸倒引当金繰入額	-	-	-	495	皆増
雑 費	8,444	7,873	93.2	2,510	31.9
交 際 費	382	489	128.0	667	136.4
補 償 金	0	0	-	210	皆増
企業債利息	142,757	133,739	93.7	124,410	93.0
他会計長期借入金利息	3,331	3,305	99.2	3,742	113.2
一時金借入金利息	13,821	14,790	107.0	14,752	99.7
リース債務利息	-	-	-	465	皆増
謝 金	1,166	602	51.6	1,018	169.1
図 書 費	3,029	2,640	87.2	3,763	142.5
旅 費	4,193	5,082	121.2	4,809	94.6
研究雑費	2,197	3,442	156.7	2,792	81.1
患者外給食材料費	323	324	100.3	324	100.0
減価償却費	362,335	350,059	96.6	375,821	107.4
資産減耗費	3,999	5,876	146.9	4,982	84.8
雑 損 失	105,819	95,462	90.2	136,634	143.1
(退職給与金償却)	84,002	71,020	84.5	-	-
寄 付 金	30,000	30,000	100.0	20,000	66.7
看護師養成費	-	-	-	3,498	皆増
(控除対象外消費税額償却) 長期前払消費税償却	12,221	13,028	106.6	13,040	100.1
特 別 損 失	4,821	4,997	103.7	1,493,296	29,883.9
合 計	5,860,057	5,742,967	98.0	7,267,642	126.5

()は24年度・25年度の区分

資本の収支種別比較表

(税込)

区 分	年 度	25 年 度		26 年 度	
	24 年 度	金 額 (千円)	金 額 (千円)	対前年度比率	金 額 (千円)
企 業 債	0	0	—	0	—
一般会計出資金	296,439	303,928	102.5	212,524	69.9
補 助 金	14,176	2,160	15.2	27,207	1,259.6
（府補助金）	(14,176)	(2,160)	15.2	(27,207)	1,259.6
（国庫補助金）	(0)	(0)	—	(0)	—
売 却 収 入	0	0	—	0	—
（固定資産売却収入）	(0)	(0)	—	(0)	—
投 資 収 入	0	0	—	0	—
（看護師養成収入）	(0)	(0)	—	(0)	—
（その他投資収入）	(0)	(0)	—	(0)	—
他会計長期借入金	0	0	—	0	—
寄付金	10,000	0	—	0	—
（A）資本的収入合計	320,615	306,088	95.5	239,731	78.3
施設費（建物改良費）	4,835	6,928	143.3	68,563	989.7
固定資産購入費 （器械備品購入費）	37,544	39,263	104.6	20,151	51.3
リース資産購入費	—	—	—	33,271	皆増
企業債償還金	620,964	651,694	104.9	634,333	97.3
看護師養成費貸付金	3,856	4,008	103.9	3,384	84.4
退 職 給 与 金	170,585	122,494	71.8	—	—
他会計長期借入金返還金	0	0	—	0	—
（B）資本的支出合計	837,784	824,387	98.4	759,702	92.2
（A）－（B）資本的収支	△ 517,169	△ 518,299	100.2	△ 519,971	100.3

貸借構成比較表

年度 区分	24年度		25年度		26年度	
	金額 (千円)	金額 (千円)	対前年度比率	金額 (千円)	対前年度比率	
固定資産	8,216,593	7,908,657	96.25	7,850,262	99.26	
有形固定資産	13,502,666	13,429,142	99.46	13,659,752	101.72	
(減価償却累計額)	△ 5,300,135	△ 5,538,555	104.50	△ 5,838,322	105.41	
土地	1,026,407	1,026,407	100.00	1,026,407	100.00	
建物	9,301,947	9,308,545	100.07	9,372,029	100.68	
(同減価償却累計額)	△ 2,717,682	△ 2,914,197	107.23	△ 3,113,147	106.83	
構築物	192,258	192,258	100.00	192,258	100.00	
(同減価償却累計額)	△ 181,963	△ 182,003	100.02	△ 182,043	100.02	
車輛	0	0	-	0	-	
(同減価償却累計額)	0	0	-	0	-	
器械及び備品	2,982,054	2,901,932	97.31	2,820,947	97.21	
(同減価償却累計額)	△ 2,400,490	△ 2,442,355	101.74	△ 2,497,908	102.27	
リース資産	-	-	-	248,111	皆増	
(同減価償却累計額)	-	-	-	△ 45,224	皆増	
建設仮勘定	0	0	-	0	-	
投資	14,062	18,070	128.50	28,832	159.56	
長期貸付金	0	0	-	19,954	皆増	
貸倒引当金	-	-	-	△ 19,954	皆増	
地方公共団体金融機構出資金	-	-	-	1,500	皆増	
破産更生債権	-	-	-	6,566	皆増	
貸倒引当金	-	-	-	△ 5,585	皆増	
長期前払消費税	-	-	-	26,351	皆増	
その他投資	14,062	18,070	128.50	-	-	
流動資産	995,312	1,071,449	107.65	1,124,882	104.99	
現金預金	53,083	88,866	167.41	125,786	141.55	
未収金	917,219	951,072	103.69	972,207	102.22	
貸倒引当金	-	-	-	△ 1,624	皆増	
貯蔵品	11,416	18,186	159.30	16,113	88.60	
前払金	13,594	13,325	98.02	12,400	93.06	
繰延勘定	269,458	309,939	115.02	-	-	
退職給与金	238,028	289,501	121.62	-	-	
控除対象外消費税額	31,430	20,438	65.03	-	-	
資産合計	9,481,363	9,290,045	97.98	8,975,144	96.61	
固定負債	1,274,523	1,100,902	86.38	7,352,626	667.87	
企業債	524,523	350,902	66.90	5,443,560	1,551.30	
他会計借入金	750,000	750,000	100.00	750,000	100.00	
リース債務	-	-	-	142,384	皆増	
引当金	-	-	-	1,016,682	皆増	
退職給付引当金	-	-	-	1,016,682	皆増	
その他固定負債	0	0	-	0	-	
流動負債	1,525,394	1,534,187	100.58	2,355,201	153.51	
一時借入金	1,050,000	1,100,000	104.76	1,150,000	104.55	
企業債	-	-	-	595,307	皆増	
建設改良費等の財源に充てるための企業債	-	-	-	419,243	皆増	
その他企業債	-	-	-	176,064	皆増	
リース債務	-	-	-	52,226	皆増	
未払金	469,101	402,623	85.83	367,251	91.21	
引当金	-	-	-	158,802	皆増	
賞与引当金	-	-	-	158,802	皆増	
預り金	6,293	31,564	501.57	31,615	100.16	
繰延収益	-	-	-	101,644	皆増	
長期前受金	-	-	-	165,035	皆増	
長期前受金収益化累計額	-	-	-	△ 63,391	皆増	
負債合計	2,799,917	2,635,089	94.11	9,809,471	372.26	
資本金	12,980,614	12,806,469	98.66	6,696,695	52.29	
自己資本金	6,180,243	6,484,171	104.92	6,696,695	103.28	
借入資本金	6,800,371	6,322,298	92.97	-	-	
企業債	6,800,371	6,322,298	92.97	-	-	
剰余金	△ 6,299,168	△ 6,151,513	97.66	△ 7,531,022	122.43	
資本剰余金	146,559	148,719	101.47	10,000	6.72	
寄附金	10,000	10,000	100.00	10,000	100.00	
国庫補助金	18,247	18,247	100.00	-	-	
府補助金	118,312	120,472	101.83	-	-	
欠損金	△ 6,445,727	△ 6,300,232	97.74	△ 7,541,022	119.69	
当年度未処理欠損金	△ 6,445,727	△ 6,300,232	97.74	△ 7,541,022	119.69	
資本合計	6,681,446	6,654,956	99.60	△ 834,327	△ 12.54	
負債資本合計	9,481,363	9,290,045	97.98	8,975,144	96.61	

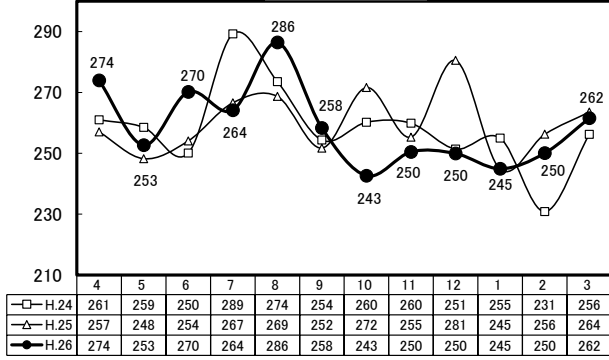
經 営 分 析 表

(単位:%)

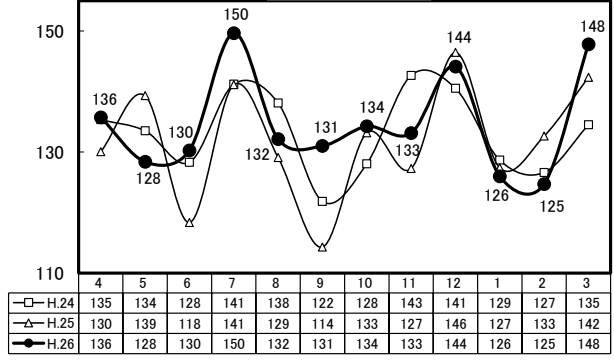
分析項目	24年度	25年度	26年度	算 式		
				24年度・25年度	26年度	
構成比率	1 固定資産構成比率	86.66	85.13	87.47	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延勘定}} \times 100$	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延資産}} \times 100$
	2 固定負債構成比率	85.17	79.90	81.92	$\frac{\text{固定負債}+\text{借入資本金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
	3 自己資本構成比率	-	3.58	-	$\frac{\text{自己資本金}+\text{剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	$\frac{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
	4 固定比率	-	-	-	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本金}+\text{剰余金}} \times 100$	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{固定負債}+\text{繰延収益}} \times 100$
	5 流動比率	65.25	69.84	47.76	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
	6 現金比率	3.48	5.79	5.34	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$
損益に関する各種比率	7 経常収支比率	94.52	99.60	100.15	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
	8 医業収支比率	91.29	96.61	95.02	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
	9 累積欠損金比率	129.25	121.30	145.42	$\frac{\text{累積欠損金}}{\text{医業収益}} \times 100$	$\frac{\text{累積欠損金}}{\text{医業収益}} \times 100$
	10 不良債務比率	10.63	8.91	15.64	$\frac{\text{流動負債}-(\text{流動資産}-\text{翌年度繰越財源})}{\text{医業収益}} \times 100$	$\frac{(\text{流動負債}-\text{建設改良費等の財源に充てた企業債})-(\text{流動資産}-\text{翌年度繰越財源})}{\text{医業収益}} \times 100$
料金収入に対する比率	11 企業債元金償還金対料金収入比率	8.99	9.20	8.86	$\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$	$\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$
	12 企業債利息対料金収入比率	2.86	2.57	2.40	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$
	13 企業債元利償還金対料金収入比率	11.76	11.71	11.22	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$
	14 職員給与費対料金収入比率	57.23	56.40	57.63	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{料金収入}} \times 100$	$\frac{\text{職員給与費(特別損失のうちの職員給与費含む)}}{\text{料金収入}} \times 100$

月次経営指標<全科計>

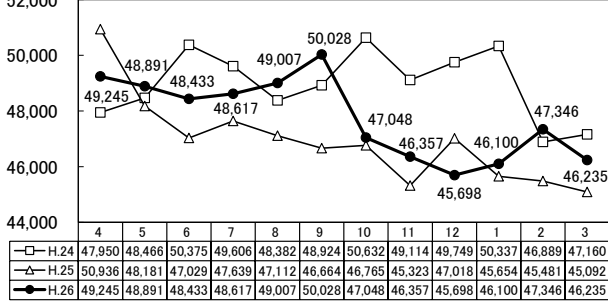
入院収益の状況



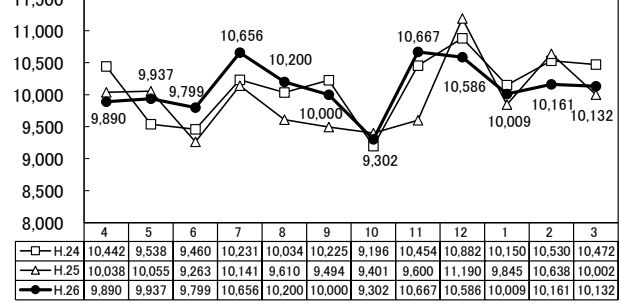
外来収益の状況



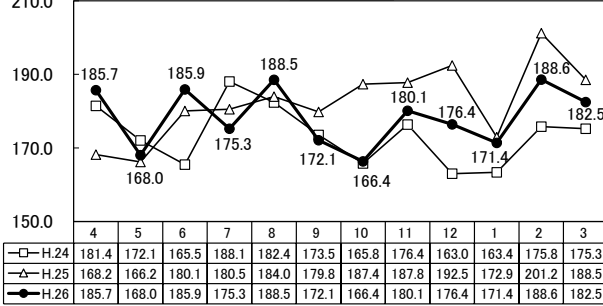
入院単価



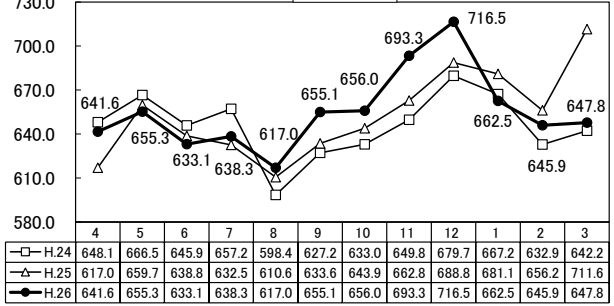
外来単価



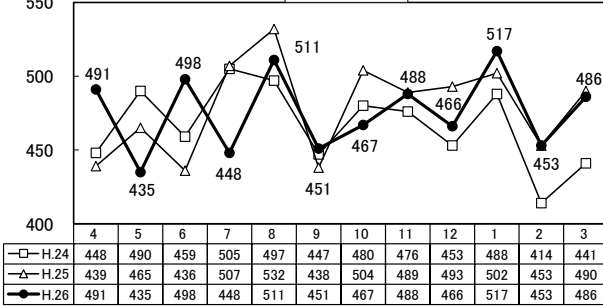
入院患者数



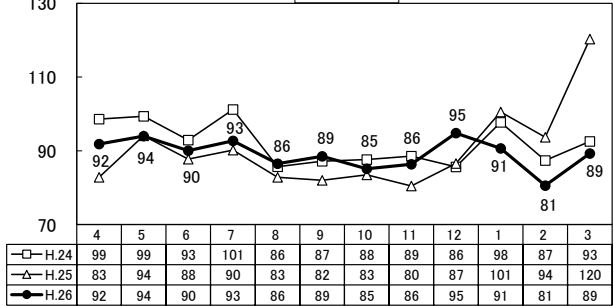
外来患者数



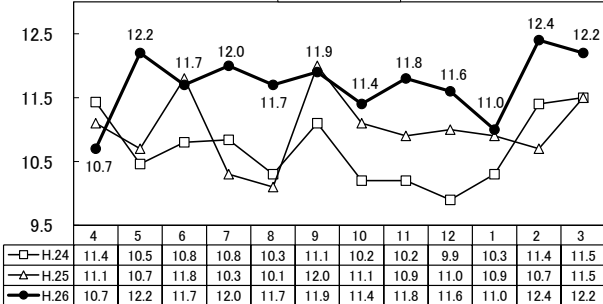
新入院患者数



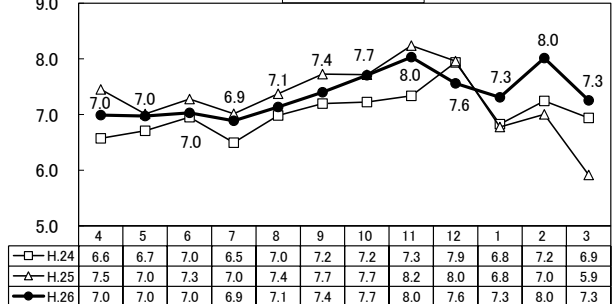
初診患者数

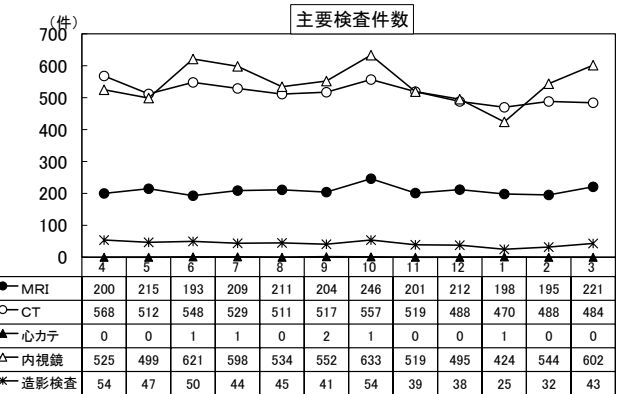
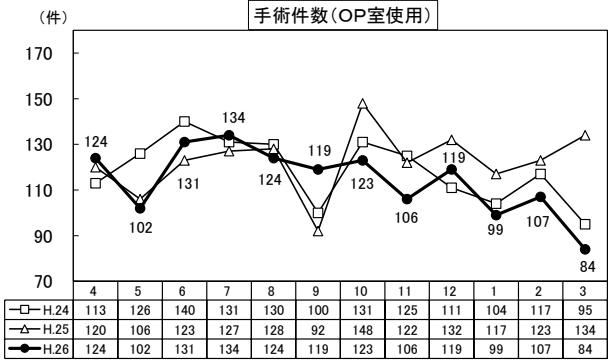
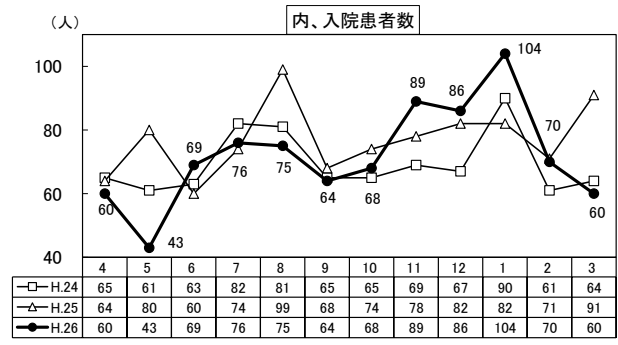
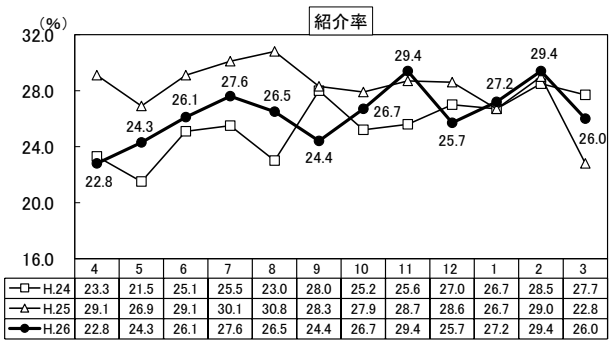
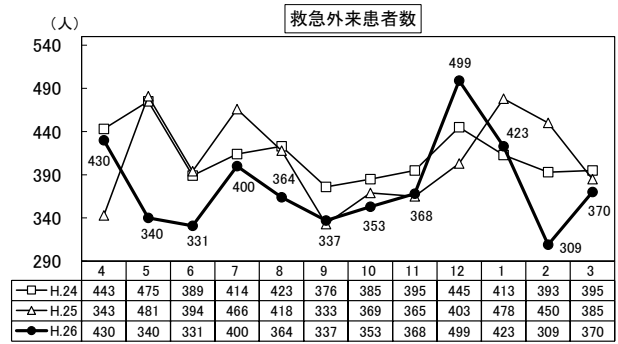
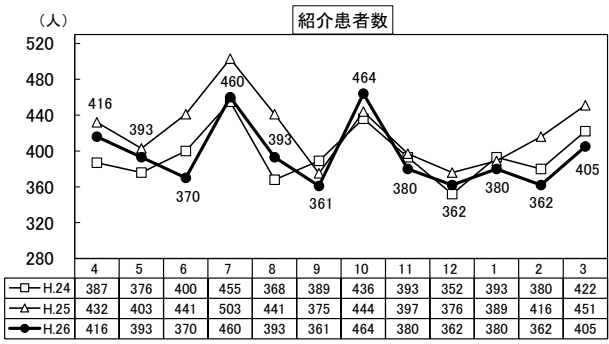
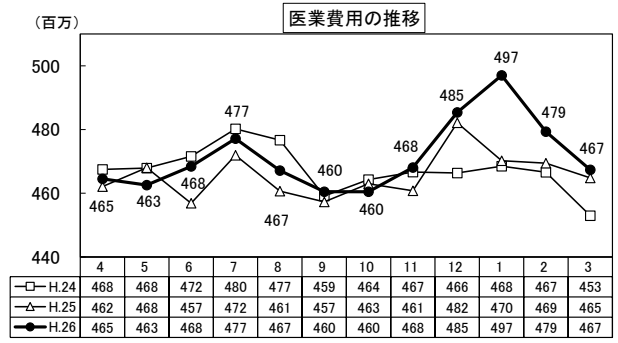
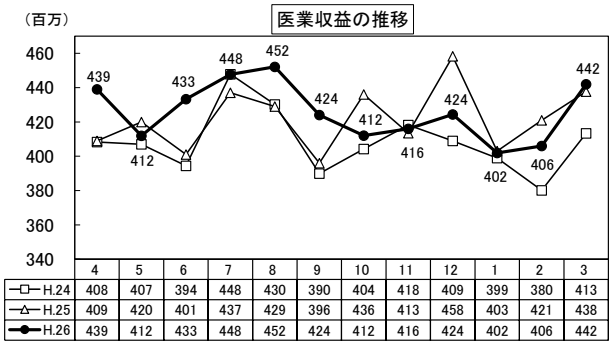
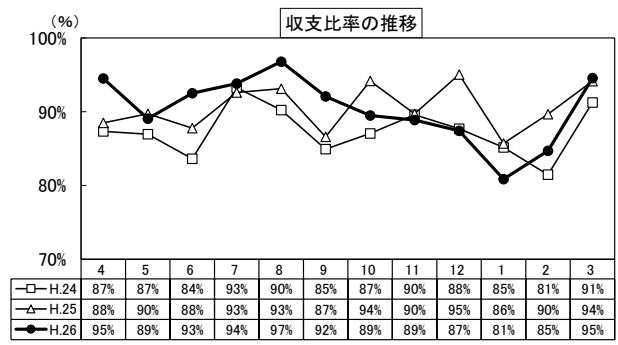
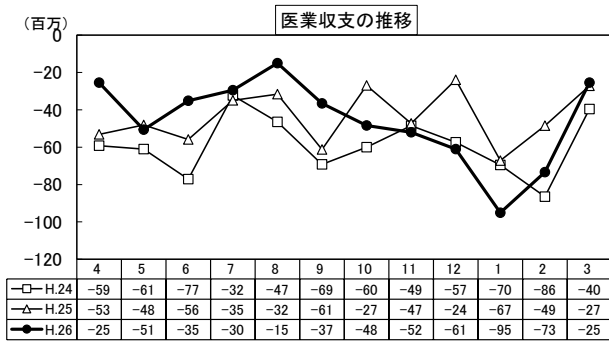


平均在院日数



通院回数(年間)





施設基準届出状況

平成27年3月31日現在

解釈番号	項目	点数(金額)	算定開始年月日
A100	一般病棟入院基本料(7対1)	1,591点	平成26年10月1日
A106	障害者施設等入院基本料(10対1)	1,329点	平成25年3月1日
A204-2	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	40点	平成20年8月1日
A205	救急医療管理加算	800点	平成22年4月1日
A205-3	妊産婦緊急搬送入院加算	7,000点	平成20年4月1日
A207	診療録管理体制加算1	100点	平成26年4月1日
A207-2	医師事務作業補助体制加算1(20対1)	648点	平成26年11月1日
A207-3	急性期看護補助体制加算(50対1)	120点	平成23年11月1日
A211	特殊疾患入院施設管理加算	350点	平成25年3月1日
A219	療養環境加算	25点	平成21年11月1日
A223-2	栄養サポートチーム加算	200点	平成26年4月1日
A234	医療安全対策加算2	35点	平成22年4月1日
A234-2	感染防止対策加算1	400点	平成25年6月1日
A234-3	患者サポート体制充実加算	70点	平成24年4月1日
A236-2	ハイリスク妊娠管理加算	1,200点	平成21年2月1日
A237	ハイリスク分娩管理加算	3,200点	平成21年2月1日
A238	退院調整加算	—	平成24年9月1日
A238-4	救急搬送患者地域連携紹介加算	1,000点	平成24年4月1日
A238-5	救急搬送患者地域連携受入加算	2,000点	平成22年4月1日
A240	総合評価加算	100点	平成26年8月1日
A242	呼吸ケアチーム加算	150点	平成26年8月1日
A243	後発医薬品使用体制加算2	28点	平成25年11月1日
A245	データ提出加算2	110点	平成24年10月1日
A302	新生児特定集中治療室管理料2	8,109点	平成26年10月1日
A307	小児入院医療管理料3	3,670点	平成24年1月1日
—	入院時食事療養(Ⅰ)	640円	昭和47年10月1日
B001 20	糖尿病合併症管理料	170点	平成25年9月1日
B001 22	がん性疼痛緩和指導管理料	200点・100点	平成23年9月1日
B001 23	がん患者指導管理料	500点・200点	平成25年9月1日
B001-2-5	院内トリアージ実施料	100点	平成24年4月1日
B001-2-6	夜間休日救急搬送医学管理料	200点	平成24年4月1日
B001-2-7	外来リハビリテーション診療料	109点・72点	平成24年10月1日
B002	開放型病院共同指導料(Ⅱ)	220点	平成15年6月1日
B005-2	地域連携診療計画管理料	900点	平成21年6月1日
B005-6	がん治療連携計画策定料1	750点	平成23年3月1日
B005-8	肝炎インターフェロン治療計画料	700点	平成22年4月1日
B008	薬剤管理指導料	430点・380点・325点	平成22年4月1日
B011-4	医療機器安全管理料1	100点	平成20年4月1日
B011-4	医療機器安全管理料2	1,100点	平成20年4月1日
D023 7	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	360点	平成26年4月1日
D026 注3	検体検査管理加算(Ⅰ)	40点	平成20年4月1日
D026 注3	検体検査管理加算(Ⅱ)	100点	平成23年11月1日
D211-3	時間内歩行試験	200点	平成24年6月1日
D215 3	胎児心エコー法	1,000点	平成26年1月1日
D231-2	皮下連続式グルコース測定	700点	平成26年8月1日
D291-2	小児食物アレルギー負荷検査	1,000点	平成22年4月1日
通則5	画像診断管理加算2	180点	平成20年4月1日
E200・E202	CT撮影及びMRI撮影	—	平成24年4月1日
E200 注4	冠動脈CT撮影加算	600点	平成23年12月1日
E200 注7	大腸CT撮影加算	620点・500点	平成24年4月1日
E202 注4	心臓MRI撮影加算	300点	平成20年4月1日
F100 注7・F400 注5	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	70点	平成25年11月1日
通則6	外来化学療法加算1	780点・580点・630点・430点	平成20年4月1日
H001	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)	200点・146点	平成24年4月1日
H002	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	180点	平成24年4月1日
H003	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	175点	平成24年4月1日
H007-2	がん患者リハビリテーション料	205点	平成24年3月1日
J038 注9	透析液水質確保加算1	8点	平成22年5月1日
K476 注2	乳がんセンチネルリンパ節加算2	3,000点	平成22年6月1日
K597・K579-2	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	15,060点・9,520点・4,000点	平成22年9月1日
K600	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	8,780点・3,680点	平成24年9月1日
K695-2	腹腔鏡下肝切除術	59,680点・74,880点	平成22年11月1日
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	18,370点	平成24年4月1日
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	19,300点	平成3年7月1日
K800-3	膀胱水圧拡張術	6,410点	平成23年10月1日
—	手術の通則5及び6に掲げる手術	—	平成20年4月1日
K920-2	輸血管管理料Ⅱ	110点	平成24年6月1日
K939-3	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	450点	平成24年6月1日
M000 注2	放射線治療専任加算	330点	平成12年8月1日
M000 注3	外来放射線治療加算	100点	平成20年4月1日

平成26年度 診療収入集計表(科別)

入院の部	内科	小児科	新生児内科	外科・内視鏡外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器科	麻酔科	放射線科	脳神経外科	合計
平成26年4月	73,220,761	28,334,510	18,967,370	64,649,364	9,820	45,363,918	4,556,330	215,330	975,989	14,192,933		159,720	23,745,465	274,391,510
” 5月	67,846,237	19,710,200	22,384,740	56,142,050	11,640	43,350,796	4,569,246	119,740	1,050,964	12,659,304		201,600	24,650,084	252,696,601
” 6月	77,740,334	22,487,798	12,610,090	72,060,202	5,650	41,758,244	5,579,344	94,410	1,101,454	12,299,818		205,940	24,215,740	270,159,024
” 7月	77,065,429	12,865,188	14,935,790	60,336,048	52,224	48,922,545	7,504,812	911,090	1,918,196	15,738,930		60,600	23,825,181	264,136,033
” 8月	79,429,513	24,224,946	22,251,570	65,077,667	28,333	50,408,614	4,688,500	118,650	2,333,026	14,093,616		225,320	23,519,240	286,398,995
” 9月	71,935,054	25,122,870	17,330,950	56,637,361	47,513	51,353,832	3,517,499	1,118,880	1,350,818	7,556,292		277,340	22,047,349	258,295,758
” 10月	75,727,980	22,154,596	10,549,480	55,130,354	10,471	34,491,341	8,436,169	136,850	36,297	11,244,424		156,180	24,555,102	242,629,244
” 11月	74,879,170	26,549,354	14,465,180	44,930,832	39,050	43,320,040	5,658,272	851,560	282,219	13,959,930		371,940	25,158,181	250,465,728
” 12月	66,705,728	26,370,568	16,575,510	58,694,238	9,750	40,805,069	3,714,168	86,620	17,818	14,262,344		75,600	22,607,166	249,924,579
平成27年1月	76,717,172	26,845,742	13,341,970	46,982,218	6,800	42,417,746	4,807,194	833,260	5,030	10,197,473			22,776,272	244,930,877
” 2月	80,138,884	21,481,983	11,676,746	55,108,108	3,800	39,170,926	4,001,706	3,761,940	2,007,840	9,394,660			23,289,419	250,036,012
” 3月	80,152,268	29,138,390	14,798,090	46,778,332	40,290	50,948,349	7,280	3,103,660	1,272,144	9,719,034			25,593,590	261,551,427
合計	901,558,530	285,286,145	189,887,486	682,526,774	265,341	532,311,420	57,040,520	11,351,990	12,351,795	145,318,758	0	1,734,240	285,982,789	3,105,615,788
占有率	29.0%	9.2%	6.1%	22.0%	0.0%	17.1%	1.8%	0.4%	0.4%	4.7%	0.0%	0.1%	9.2%	100.0%

外来の部	内科	小児科	新生児内科	外科・内視鏡外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器科	麻酔科	放射線科	脳神経外科	合計
平成26年4月	46,669,515	36,617,263		13,425,223	2,461,998	9,872,390	4,944,530	2,353,010	1,919,662	11,082,510		3,258,840	3,130,917	135,735,858
” 5月	46,773,175	31,173,613		12,351,870	2,701,800	9,871,820	5,192,870	1,903,560	2,002,894	9,708,820		3,103,490	3,594,265	128,378,177
” 6月	49,393,851	28,851,698		12,235,145	2,655,147	9,853,950	6,516,960	2,325,520	2,114,870	10,317,520		2,072,620	3,940,976	130,278,257
” 7月	51,143,370	41,212,392		16,258,890	2,559,890	9,801,455	6,547,150	2,557,250	2,377,520	10,969,946		2,945,290	3,264,977	149,638,130
” 8月	45,688,564	35,299,123		12,248,826	2,617,793	9,247,470	5,757,895	2,267,970	2,349,147	9,522,564		4,010,460	3,137,120	132,146,932
” 9月	45,782,507	30,358,991		15,570,981	3,169,672	8,397,560	4,753,270	2,764,160	2,324,650	9,871,260		4,734,445	3,279,127	131,006,623
” 10月	49,190,251	28,703,945		15,326,680	2,914,683	9,029,651	5,282,670	2,504,440	2,015,060	11,023,404		4,889,945	3,363,554	134,244,283
” 11月	45,448,493	41,382,603		12,241,491	2,013,771	7,751,784	4,088,230	2,217,435	1,414,250	9,943,740		3,179,820	3,439,301	133,120,918
” 12月	46,439,781	47,859,743		12,940,425	2,580,917	8,752,900	4,330,100	2,150,450	1,726,430	11,221,745		2,536,240	3,574,864	144,113,595
平成27年1月	46,710,629	29,022,925		15,031,485	2,394,428	8,994,317	5,006,770	2,233,780	1,627,250	8,833,524		2,960,545	3,176,347	125,992,000
” 2月	45,845,932	31,794,110		12,333,522	2,521,946	8,213,151	4,330,470	2,596,890	1,501,832	8,510,400		3,662,820	3,400,479	124,711,552
” 3月	52,449,967	46,170,841		12,902,204	2,688,846	9,708,151	2,896,785	2,910,170	1,991,790	9,642,900		2,895,350	3,526,140	147,783,144
合計	571,536,035	428,447,247	0	162,866,742	31,280,891	109,494,599	59,647,700	28,784,635	23,365,355	120,648,333	0	40,249,865	40,828,067	1,617,149,469
占有率	35.3%	26.5%	0.0%	10.1%	1.9%	6.8%	3.7%	1.8%	1.4%	7.5%	0.0%	2.5%	2.5%	100.0%
総合計	1,473,094,565	713,733,392	189,887,486	845,393,516	31,546,232	641,806,019	116,688,220	40,136,625	35,717,150	265,967,091	0	41,984,105	326,810,856	4,722,765,257
占有率	31.2%	15.1%	4.0%	17.9%	0.7%	13.6%	2.5%	0.8%	0.8%	5.6%	0.0%	0.9%	6.9%	100.0%

※(入院)の「その他」⇒『医学管理等』『在宅医療』、「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「X線料」⇒『X線料』『放射線治療料』
 ※(外来)の「その他」⇒『院外処方箋料』、「再診料」⇒『再診料』『医学管理等』『在宅医療』、「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「X線料」⇒『X線料』『放射線治療料』

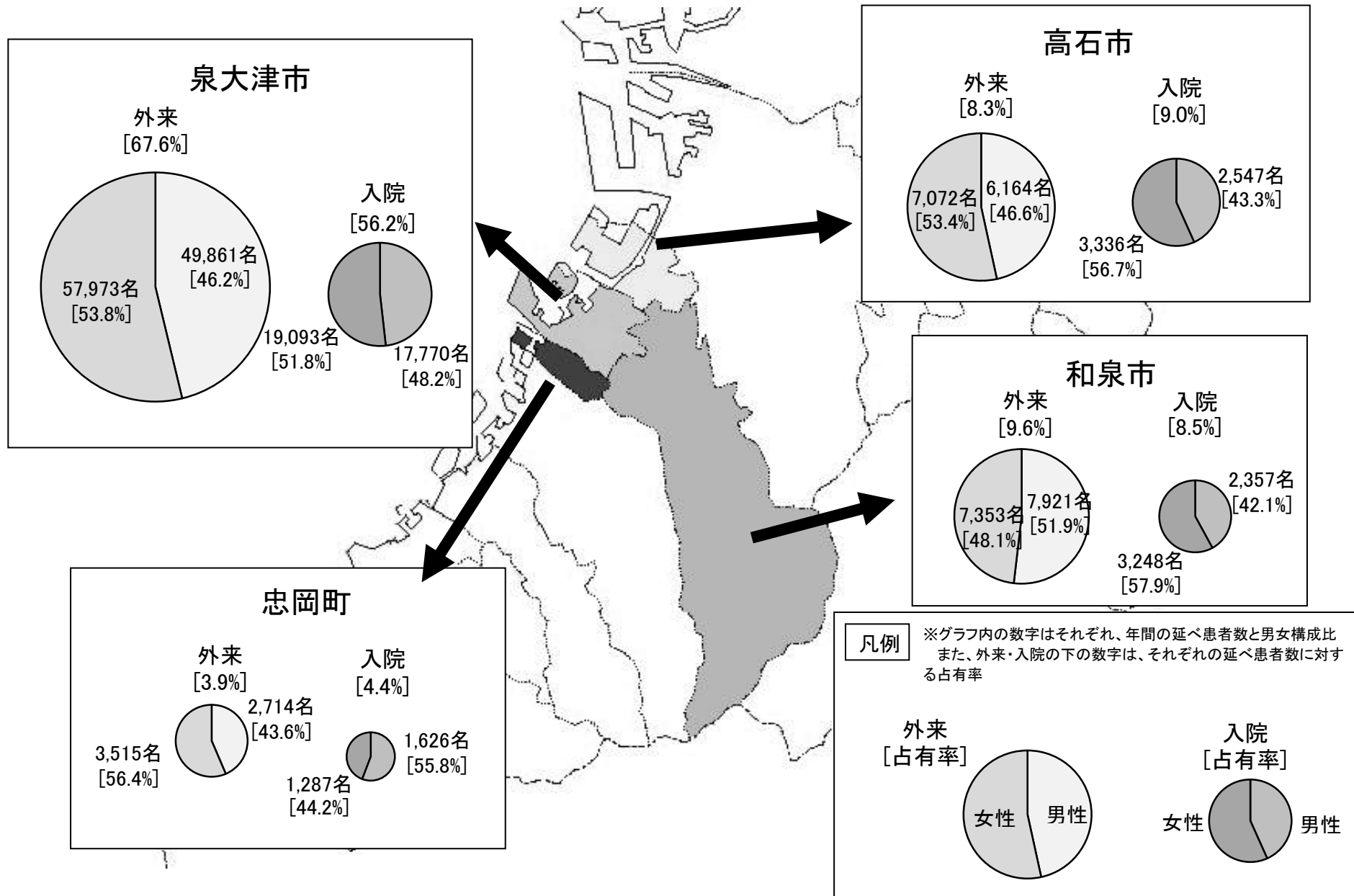
平成26年度 診療収入集計表(行為別)

入院の部	初診料		投薬料	注射料	処置料	検査料	X線料	入院料(DPC)	入院基本料	その他	手術料	分娩料	食事療養費	入院基本加算	合計
平成26年4月	479,130		2,188,949	1,900,026	10,992,576	3,440,023	896,393	121,058,640	62,852,092	2,883,468	39,208,870	10,172,054	8,966,860	9,352,429	274,391,510
" 5月	498,640		1,680,895	1,117,550	11,949,523	3,500,620	913,437	102,899,990	62,641,603	2,398,494	36,829,260	11,836,140	8,704,754	7,725,695	252,696,601
" 6月	447,960		2,032,194	1,720,293	11,208,235	3,898,960	909,067	116,079,090	60,821,371	2,754,967	43,488,120	9,356,800	9,101,080	8,340,887	270,159,024
" 7月	432,340		2,476,948	1,852,645	11,794,650	4,211,641	630,116	109,793,320	58,850,301	2,996,783	42,190,530	12,036,408	8,793,708	8,076,643	264,136,033
" 8月	450,670		2,575,189	2,727,071	11,155,228	3,862,935	1,102,533	120,011,810	69,864,231	2,722,298	41,137,820	12,061,500	9,530,400	9,197,310	286,398,995
" 9月	369,160		2,079,694	1,733,330	11,561,118	4,093,859	895,044	100,610,495	63,126,155	2,427,602	42,334,610	12,840,500	8,194,022	8,030,169	258,295,758
" 10月	362,130		1,546,136	1,711,394	11,810,456	3,600,587	783,476	106,130,610	56,851,317	2,941,901	33,587,980	8,210,896	8,183,260	6,909,101	242,629,244
" 11月	544,330		1,536,904	1,409,520	10,500,195	3,148,993	923,747	110,668,240	59,612,780	2,476,280	31,602,850	10,910,000	8,193,874	8,938,015	250,465,728
" 12月	387,080		1,305,159	800,865	11,214,204	3,427,421	625,270	110,564,660	58,942,844	2,827,770	32,293,440	10,368,800	8,447,849	8,719,217	249,924,579
平成27年1月	607,830		1,764,022	925,976	12,483,031	3,644,664	489,109	107,913,270	57,323,569	2,833,050	28,168,820	12,008,400	8,515,344	8,253,792	244,930,877
" 2月	414,560		1,445,936	771,134	10,862,790	3,338,674	498,265	115,954,790	51,999,112	2,954,310	35,583,660	9,603,500	8,237,038	8,372,243	250,036,012
" 3月	365,210		2,069,696	1,665,313	12,793,093	3,538,125	598,433	115,723,940	62,736,486	2,889,860	28,211,450	13,943,795	8,937,392	8,078,634	261,551,427
合計	5,359,040		22,701,722	18,335,117	138,325,099	43,706,502	9,264,890	1,337,408,855	725,621,861	33,106,783	434,637,410	133,348,793	103,805,581	99,994,135	3,105,615,788
占有率	0.2%		0.7%	0.6%	4.5%	1.4%	0.3%	43.1%	23.4%	1.1%	14.0%	4.3%	3.3%	3.2%	100.0%

外来の部	初診料	再診料	投薬料	注射料	処置料	検査料	X線料			その他	手術料				合計
平成26年4月	6,443,512	30,630,654	418,876	19,571,686	12,198,526	44,156,367	13,926,697			4,516,980	3,872,560				135,735,858
" 5月	6,267,995	28,446,645	377,203	15,879,348	13,330,016	41,682,597	14,385,259			4,398,664	3,610,450				128,378,177
" 6月	6,101,380	27,291,709	292,418	18,025,934	11,262,485	44,118,264	14,242,517			4,330,550	4,613,000				130,278,257
" 7月	6,689,425	38,640,049	349,610	22,430,770	12,172,960	46,032,080	14,648,692			4,574,374	4,100,170				149,638,130
" 8月	5,941,450	32,357,841	297,278	16,477,950	11,101,040	41,876,647	14,942,686			4,161,680	4,990,360				132,146,932
" 9月	5,899,200	28,475,736	263,340	22,748,086	9,719,109	40,179,150	15,899,171			4,341,761	3,481,070				131,006,623
" 10月	6,057,230	23,776,695	275,395	22,676,996	12,403,300	43,572,815	17,117,850			4,670,614	3,693,388				134,244,283
" 11月	5,184,288	36,740,214	312,442	19,350,573	11,328,550	37,821,939	14,188,881			4,133,150	4,060,881				133,120,918
" 12月	6,464,175	40,405,961	764,952	22,192,527	13,295,495	39,508,475	13,660,500			4,616,030	3,205,480				144,113,595
平成27年1月	6,080,420	23,017,595	726,743	23,637,666	12,645,472	39,003,565	13,431,917			4,268,374	3,180,248				125,992,000
" 2月	5,111,700	25,207,797	331,314	21,042,460	13,131,442	38,721,835	13,643,974			4,037,460	3,483,570				124,711,552
" 3月	6,555,460	34,786,155	416,544	23,200,312	14,491,370	45,699,904	14,008,056			4,813,070	3,812,273				147,783,144
合計	72,796,235	369,777,051	4,826,115	247,234,308	147,079,765	502,373,638	174,096,200			52,862,707	46,103,450				1,617,149,469
占有率	4.5%	22.9%	0.3%	15.3%	9.1%	31.1%	10.8%			3.3%	2.9%				100.0%
総合計	78,155,275	369,777,051	27,527,837	265,569,425	285,404,864	546,080,140	183,361,090	1,337,408,855	725,621,861	85,969,490	480,740,860	133,348,793	103,805,581	99,994,135	4,722,765,257
占有率	1.7%	7.8%	0.6%	5.6%	6.0%	11.6%	3.9%	28.3%	15.4%	1.8%	10.2%	2.8%	2.2%	2.1%	100.0%

※(入院)の「その他」⇒『医学管理等』『在宅医療』、「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「X線料」⇒『X線料』『放射線治療料』
 ※(外来)の「その他」⇒『院外処方箋料』、「再診料」⇒『再診料』『医学管理等』『在宅医療』、「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「X線料」⇒『X線料』『放射線治療料』

地域別・男女別患者数(平成26年度・年間)



疾病別大分類統計表(退院月別)

2015. 3. 31現在

分類	コード	4月			5月			6月			7月			8月			9月			上半期合計				
		件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	割合	平均在院日数	死亡数	
I	感染症および寄生虫症	A00-B99	35	10.0	2	28	7.4		20	9.3	1	16	12.3	2	21	10.3	1	22	7.5		142	5.0%	9.5	6
II	新生物	C00-D48	69	13.6	4	68	13.1	5	74	12.4	5	54	11.9	5	85	15.7	5	59	16.6	5	409	14.4%	13.9	29
III	血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-D89	4	14.3	1	4	44.0		9	7.2		7	11.1	1	6	14.5	1	5	16.6		35	1.2%	18.0	3
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	E00-E90	15	9.8		8	9.6	1	9	19.4		20	13.9		24	7.5		12	11.9		88	3.1%	12.0	1
V	精神および行動の障害	F00-F99	2	4.0		1	2.0								1	1.0					4	0.1%	1.2	
VI	神経系の疾患	G00-G99	15	6.5	1	7	7.3	1	10	7.6		8	5.5		11	3.4		10	2.3		61	2.1%	5.4	2
VII	眼および附属器疾患	H00-H59	18	2.9		17	3.0		18	3.1		23	2.9		18	3.4		14	8.1		108	3.8%	3.9	
VIII	耳および乳様突起の疾患	H60-H95	4	8.5		7	10.3		3	11.0		7	6.9		5	6.2		13	12.2		39	1.4%	9.2	
IX	循環器系の疾患	I00-I99	16	20.9	1	13	17.1		17	18.0		17	27.4		20	15.8		18	28.8	1	101	3.5%	21.3	2
X	呼吸器系の疾患	J00-J99	88	9.6		54	8.4		76	8.7	2	56	9.8	1	75	11.7	2	62	12.9	1	411	14.4%	10.2	6
X I	消化器系の疾患	K00-K93	83	9.1		67	7.8		92	7.1	1	92	11.3	2	85	7.5	1	76	8.2	1	495	17.4%	8.5	5
X II	皮膚および皮下組織の疾患	L00-L99	4	16.3		3	10.0		8	9.5		4	7.0		8	11.4		6	34.8		33	1.2%	14.8	
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-M99				5	11.4		3	40.0		2	21.5		4	57.0		7	8.9		21	0.7%	23.1	
X IV	尿路性器系の疾患	N00-N99	36	16.6		38	13.7		39	14.6		29	13.2		38	9.3		32	12.4		212	7.4%	13.3	
X V	妊娠、分娩および産褥	O00-O99	70	7.5		66	8.0		71	7.6		79	10.2		90	8.0		88	7.1		464	16.3%	8.1	
X VI	周産期に発生した病態	P00-P96	22	6.8		33	13.5		22	8.7		19	11.8		23	11.9		30	8.1		149	5.2%	10.1	
X VII	先天奇形、変形および染色体異常	Q00-Q99	3	3.3		4	4.5		2	8.0		3	2.0		2	5.0		2	2.5		16	0.6%	4.2	
X VIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	3	5.7		4	5.3		2	4.0		2	3.5		2	5.5		2	2.0		15	0.5%	4.3	
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	10	49.3		7	6.3		8	59.1		9	17.9		6	3.3		3	1.7		43	1.5%	22.9	
X X	傷病および死亡の外因	V01-Y98																						
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	Z00-Z99																						
X X II	特殊目的用コード	U00-U89																						
合計			497	11.0	9	434	10.1	7	483	10.6	9	447	11.3	11	524	10.5	10	461	11.2	8	2,846	100%	9.7	54

分類	コード	10月			11月			12月			1月			2月			3月			下半期合計				総合計				
		件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	割合	平均在院日数	死亡数	件数	割合	平均在院日数	死亡数	
I	感染症および寄生虫症	A00-B99	17	10.9		26	5.3		27	7.7		24	6.5		27	7.2		33	9.2	1	154	5.3%	7.8	1	296	5.2%	8.5	7
II	新生物	C00-D48	67	12.5	3	63	14.3	6	76	13.8	4	49	18.2	5	64	13.6	10	70	16.0	6	389	13.5%	14.7	34	798	13.9%	14.3	63
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-D89	2	13.0		4	11.8		5	39.4		2	54.5		7	10.9		6	13.8	1	26	0.9%	23.9	1	61	1.1%	17.8	4
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	E00-E90	9	12.6		14	8.1		8	11.3		14	8.7		15	13.1		20	9.4		80	2.8%	10.5		168	2.9%	10.9	1
V	精神および行動の障害	F00-F99	1	1.0					1	6.0								1	51.0		3	0.1%	9.7		7	0.1%	9.9	
VI	神経系の疾患	G00-G99	9	4.2		15	5.8		9	7.1		17	4.5		9	6.8		10	4.4		69	2.4%	5.5		130	2.3%	5.4	2
VII	眼および附属器疾患	H00-H59	30	2.2		20	2.4		14	2.5		18	2.7		15	2.3					97	3.4%	2.0		205	3.6%	3.1	
VIII	耳および乳様突起の疾患	H60-H95	7	5.3		4	19.8		2	3.0		3	5.7		3	3.0		3	5.7		22	0.8%	7.1		61	1.1%	8.9	
IX	循環器系の疾患	I00-I99	23	10.9	1	19	10.1		20	16.2		19	42.4	1	24	12.6		17	12.6	1	122	4.2%	17.5	3	223	3.9%	19	5
X	呼吸器系の疾患	J00-J99	61	10.8	3	77	11.5	1	93	9.0	4	96	10.7	3	75	11.7	1	93	12.6	3	495	17.2%	11.1	15	906	15.8%	10.6	21
X I	消化器系の疾患	K00-K93	94	9.1		80	8.1	3	90	10.0	1	69	8.3	1	77	9.2	2	73	7.4	1	483	16.8%	8.7	8	978	17.1%	8.6	13
X II	皮膚および皮下組織の疾患	L00-L99	2	5.0		6	6.2		2	7.0		4	6.5		5	12.2		2	7.0		21	0.7%	7.3		54	0.9%	12.2	
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-M99	5	30.0		2	13.5		5	18.6		5	6.4		4	16.8		2	11.0		23	0.8%	16.1		44	0.8%	20.5	
X IV	尿路器系の疾患	N00-N99	45	10.3		36	12.7		48	15.4		34	17.4	1	29	9.7		32	9.5	1	224	7.8%	12.5	2	436	7.6%	13	2
X V	妊娠、分娩および産褥	O00-O99	65	7.4		75	7.6		65	6.9		76	6.6		77	7.0		86	7.0		444	15.4%	7.1		908	15.9%	7.6	
X VI	周産期に発生した病態	P00-P96	31	11.0		22	7.1		24	10.5		28	11.2		26	9.5		34	8.3		165	5.7%	9.6		314	5.5%	9.9	
X VII	先天奇形、変形および染色体異常	Q00-Q99	1	3.0		2	2.0		3	3.7		1	3.0		3	4.3		2	3.5		12	0.4%	3.3		28	0.5%	3.8	
X VIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99				1	4.0		4	4.8		2	4.0		1	2.0					8	0.3%	2.5		23	0.4%	4.4	
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	9	8.9		8	4.5		5	3.2		11	4.0		4	2.0		5	13.6		42	1.5%	6.0		85	1.5%	17	
X X	傷病および死亡の外因	V01-Y98																										
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	Z00-Z99																										
X X II	特殊目的用コード	U00-U89																										
合計			478	9.6	7	474	9.3	10	501	10.6	9	472	11.3	11	465	9.8	13	489	10.3	14	2,879	100%	8.3	64	5,725	100%	10.5	118

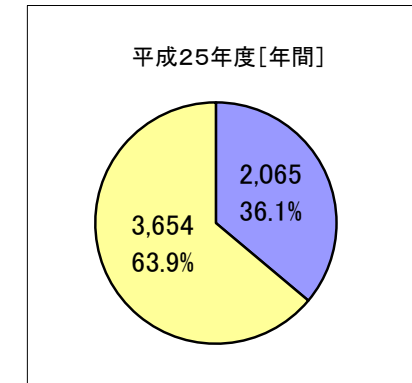
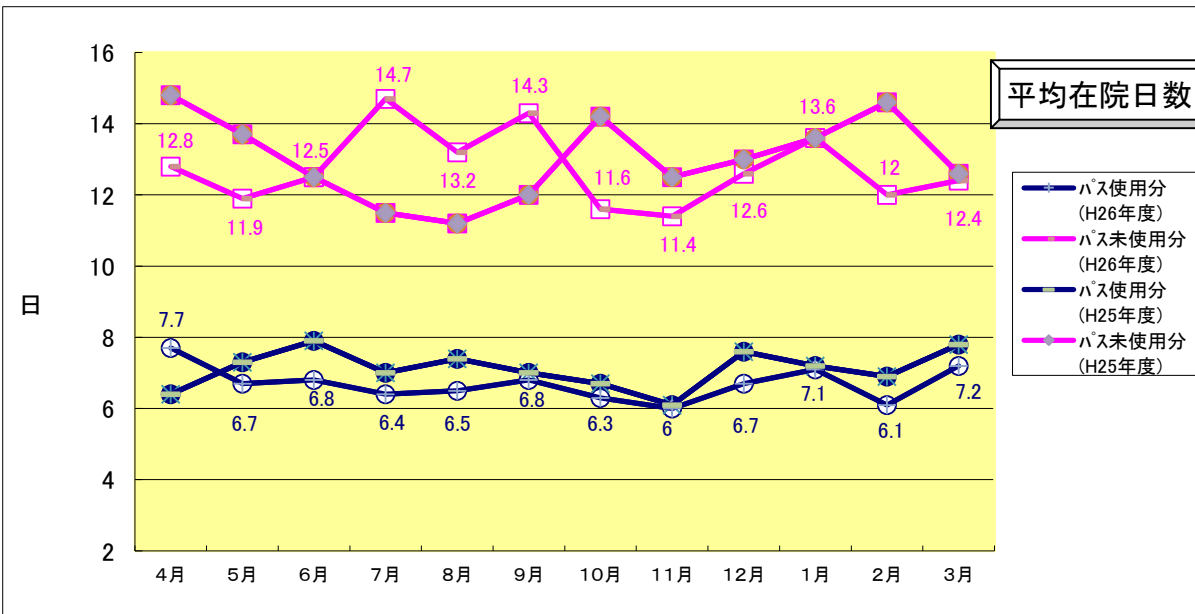
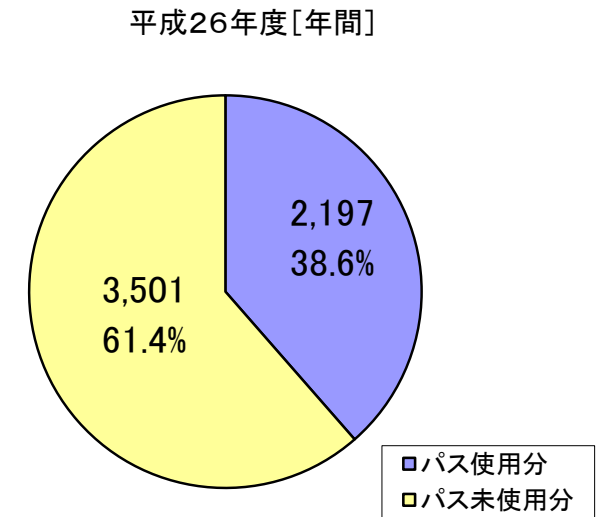
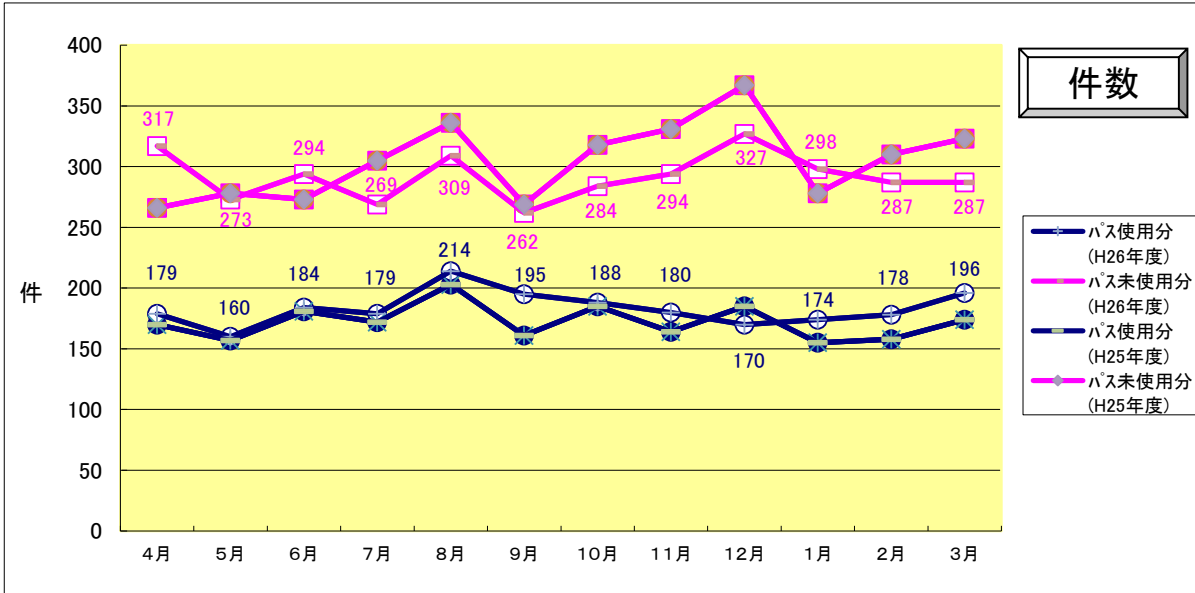
クリニカルパス統計資料[No. 1]

診療科	パス名		H26.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H27.1月	2月	3月	合計	
泌尿器科	BCG膀胱注入	件数	1			2	1			1					5	
		平均在院日数(日)	11.0			10.5	11.0			10.0						10.6
泌尿器科	D-J挿入・交換	件数	1	1	3	3	2	2	2	2	1	1	1		19	
		平均在院日数(日)	4.0	3.0	2.7	2.7	3.0	7.5	2.5	3.0	3.0	2.0	2.0		3.3	
泌尿器科	D-J挿入・交換・ESWL	件数											1		1	
		平均在院日数(日)												3.0		3.0
内科	DM教育入院	件数	3	3	3	7	2	3	3	4		4	4	5	41	
		平均在院日数(日)	10.0	11.3	11.0	13.9	10.0	11.7	12.3	10.0		10.0	9.8	12.4		11.4
内科	DM地域連携	件数												1	1	
		平均在院日数(日)													10.0	10.0
泌尿器科	ESWL	件数	6	6	6	5	7	8	6	7	6	6	6	1	5	69
		平均在院日数(日)	3.8	2.2	5.5	4.0	2.6	2.1	2.0	2.0	2.2	2.0	2.0	2.0	2.2	2.7
泌尿器科	ESWL、尿管ステント留置	件数												1	1	
		平均在院日数(日)													3.0	3.0
外科	PEG(胃瘻造設)	件数	3		1			1				1	1		7	
		平均在院日数(日)	39.3		10.0			5.0				7.0	12.0		21.7	
外科	PEG(胃瘻交換)	件数			1			1		1					3	
		平均在院日数(日)			5.0			5.0		6.0					5.3	
泌尿器科	TUR-BT	件数	10	4	7	1	8	4	6	5	10	2	6	6	69	
		平均在院日数(日)	9.6	8.5	10.1	8.0	10.6	9.3	10.3	11.8	8.2	8.0	10.7	10.7	9.8	
泌尿器科	TUR-P	件数	2	2	3				1		2				10	
		平均在院日数(日)	11.5	15.5	14.0					11.0		16.5				14.0
耳鼻咽喉科	アデノイド・チューピング	件数							1	1	2		3		7	
		平均在院日数(日)								3.0	3.0	3.0		3.0		3.0
外科	ジオン注(ヘモ)	件数			1	4	4	1	1	1	3	4	3	1	23	
		平均在院日数(日)			5.0	3.3	8.3	6.0	3.0	3.0	3.0	6.8	3.0	3.0	4.9	
外科	ソケイヘルニア	件数											1	2	3	
		平均在院日数(日)												9.0	6.0	7.0
外科	ヘルニア(腹腔鏡下)	件数	6	6	3	2	2	4	4	4	1	2	2	2	38	
		平均在院日数(日)	6.3	4.7	4.3	8.0	10.0	6.0	5.8	5.8	8.0	5.0	7.5	7.0	6.1	
内科	ポリペク	件数	18	15	27	26	27	12	24	22	19	22	19	22	253	
		平均在院日数(日)	2.0	2.0	2.1	2.2	2.2	2.0	2.3	2.1	2.4	2.0	2.5	2.0	2.2	
外科	ラパロ(単純嚢腫)	件数	2	1	1									1	5	
		平均在院日数(日)	5.0	5.0	7.0									7.0		5.8
外科	ラパロ(皮様嚢腫)	件数			1										1	
		平均在院日数(日)			6.0											6.0
脳神経外科	ルンパール	件数	8	5	5	5	3	9	4	9	5	5	8	10	76	
		平均在院日数(日)	2.0	2.0	2.2	2.0	2.0	2.8	2.0	2.2	5.8	3.2	2.1	4.1	2.7	
内科	胃ESD(内科)	件数	3	3	4	3	2	5	4		4	3	1	5	37	
		平均在院日数(日)	30.3	9.0	9.5	9.3	12.5	7.4	11.0		9.8	10.3	8.0	8.8	11.1	
外科	胃切除術(腹腔鏡下)	件数									1			1	2	
		平均在院日数(日)										13.0			35.0	24.0
外科	胃切除術(全摘出術)	件数		4				1	3		2	1		2	13	
		平均在院日数(日)		21.8				38.0	20.3		24.0	16.0			20.5	22.4
外科	胃切除術(部分切除術)	件数			2	3		1		2			1	1	12	
		平均在院日数(日)			25.0	17.0		21.0		18.0	29.0			18.0	16.0	20.8
外科	胃瘻交換	件数	2												2	
		平均在院日数(日)	4.5													4.5
外科	胃瘻交換 地域連携	件数												1	1	
		平均在院日数(日)													5.0	5.0

診療科	バ ス 名		H26.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H27.1月	2月	3月	合計	
外科	開胸肺葉切除術(胸腔鏡下)	件数	2	1	3										6	
		平均在院日数(日)	9.0	9.0	11.0											10.0
産婦人科	開腹手術(子宮・卵巣)	件数	4	1	1	1	4	1	2	5	1			1	2	23
		平均在院日数(日)	11.0	10.0	8.0	10.0	9.8	9.0	11.5	9.0	10.0			9.0	10.0	9.9
内科	気管支鏡検査	件数		1	2	3	1	4	3	1	1	4	3		23	
		平均在院日数(日)		2.0	2.0	2.0	2.0	2.3	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	8.7		2.9
外科	結腸切除術	件数	6	5	7	1	7	8	7	1	4	2	3	5	56	
		平均在院日数(日)	20.5	17.4	20.3	27.0	16.4	20.1	20.7	10.0	21.3	74.0	16.0	20.6		21.3
産婦人科	産褥	件数	40	48	46	43	57	57	45	52	41	55	46	60	590	
		平均在院日数(日)	7.3	7.5	6.4	7.5	7.7	7.1	7.5	7.5	6.5	6.4	6.7	6.7		7.1
外科	痔核根治術(ヘモ)	件数			4		2	2	3	5	3	2		3	24	
		平均在院日数(日)			5.5		5.5	6.5	5.0	5.0	7.0	3.5		7.3		5.7
産婦人科	子宮筋腫(開腹)	件数	1												1	
		平均在院日数(日)	10.0													10.0
産婦人科	子宮頸部円錐切除術	件数	1					1		2			1	1	6	
		平均在院日数(日)	6.0					5.0		3.5			4.0	4.0		4.3
外科	虫垂切除術(小児)	件数												1	1	
		平均在院日数(日)												5.0		5.0
外科	虫垂切除術(腹腔鏡下)(小児)	件数	1	1	1		1		1					1	6	
		平均在院日数(日)	5.0	6.0	4.0		9.0		5.0					8.0		6.2
外科	小児ヘルニア	件数	2	2	3	5	7	1	2		5	2	2	8	39	
		平均在院日数(日)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
産婦人科	人工中絶	件数	1	3	3	3	5	2	3	3	3	2	2	2	32	
		平均在院日数(日)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.4	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1
内科	睡眠時無呼吸検査	件数												1	1	
		平均在院日数(日)												2.0		2.0
内科	睡眠時無呼吸症候群	件数												1	1	
		平均在院日数(日)												2.0		2.0
外科	成人ヘルニア	件数	4	2	3		2	4	2	3	3	3	1	2	29	
		平均在院日数(日)	5.8	7.5	4.0		6.0	5.3	15.5	5.7	5.7	6.0	7.0	6.0		6.4
泌尿器科	精巣固定術	件数									1				1	
		平均在院日数(日)									2.0					2.0
小児科	成長ホルモン分泌試験	件数										2		2	4	
		平均在院日数(日)										1.0		1.0		1.0
泌尿器科	前立腺生検術	件数		4	1	2	8	3	2	4	2	3	4	6	39	
		平均在院日数(日)		4.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.8	2.0	2.0	2.3
内科	大腸ESD(内科)	件数		1	1										1	3
		平均在院日数(日)		7.0	2.0											17.0
外科	胆嚢摘出術(腹腔鏡下)	件数	6	3	6	5	3	6	3	7	6	4	5	4	58	
		平均在院日数(日)	11.8	5.7	14.5	8.0	7.7	9.7	8.7	14.4	7.2	9.8	8.2	7.0		9.9
外科	胆嚢摘出術(開腹)	件数						1				1	1	2	5	
		平均在院日数(日)						11.0				7.0	22.0	15.0		14.0
外科	虫垂切除術	件数		1			1	2				2	1	2	9	
		平均在院日数(日)		11.0			12.0	10.0				10.0	6.0	6.0		9.0
外科	直腸低位前方切除術	件数	1	1	1	1	3	3			2				12	
		平均在院日数(日)	26.0	18.0	30.0	15.0	15.7	15.3			28.5					19.9
産婦人科	帝王切開	件数	11	6	9	11	10	11	8	6	6	9	10	9	106	
		平均在院日数(日)	9.7	9.7	9.9	15.5	11.6	9.4	10.3	11.8	10.2	11.4	9.3	11.1		10.9
外科	乳管・乳腺腫瘍	件数	2	1	1				1		1	1	1		8	
		平均在院日数(日)	2.5	31.0	7.0				10.0		3.0	3.0	6.0			8.1

診療科	パ ス 名	H26.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H27.1月	2月	3月	合計	
外科	乳癌(乳房温存療法)	件数	5	4	2	5	4		2	2	4	4	2	2	36
		平均在院日数(日)	8.6	6.8	7.5	7.6	5.8		6.5	5.5	6.3	7.3	5.5	10.0	7.1
外科	乳癌(乳房切除術)	件数	3	1	4	4	6	3	3	1	2	1	3	6	37
		平均在院日数(日)	9.3	9.0	9.5	6.8	6.0	11.3	6.3	6.0	8.5	189.0	7.7	23.3	15.3
外科	肺葉切除術(胸腔鏡下)	件数				3	5	4	1	2	2		2		19
		平均在院日数(日)				13.7	16.4	10.0	9.0	13.5	23.0		22.0		15.2
外科	肺葉切除術(開胸)	件数											2		2
		平均在院日数(日)											11.5		11.5
眼科	白内障(当日片目)	件数	12	16	15	19	13	7	19	12	7	15	11		146
		平均在院日数(日)	2.7	3.0	3.3	3.0	3.0	2.9	2.6	2.8	3.0	2.8	2.5		2.9
眼科	白内障(当日片目)(DM)	件数				1	1	1		1	2	2	2		10
		平均在院日数(日)				3.0	3.0	3.0		3.0	3.5	3.0	1.5		2.8
眼科	白内障(当日両目)	件数	3						1						4
		平均在院日数(日)	4.7						3.0						4.3
眼科	白内障(日帰り)	件数						2	6	5	4	1	1		19
		平均在院日数(日)						1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		1.0
眼科	白内障(日帰り)DM	件数							1						1
		平均在院日数(日)							1.0						1.0
耳鼻咽喉科	鼻内視鏡手術	件数	1	3	1	2	1	3	6	4	5	2	5	4	37
		平均在院日数(日)	5.0	4.3	5.0	4.5	4.0	5.0	4.0	5.0	5.2	5.0	6.0	4.8	4.9
産婦人科	分娩前	件数					2	3	1	1	2	2			11
		平均在院日数(日)					1.0	2.0	1.0	2.0	7.0	2.0			2.6
外科	虫垂切除術(腹腔鏡下)	件数	1			2		4	1	2	1		2		13
		平均在院日数(日)	5.0			10.0		5.8	2.0	9.0	5.0		5.0		6.4
外科	直腸低位前方切除術(腹腔鏡下)	件数											1		1
		平均在院日数(日)											20.0		20.0
産婦人科	流産手術	件数	6	4	1	6	5	6	2	1	4	3	6	5	49
		平均在院日数(日)	1.0	3.5	1.0	1.2	1.0	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0	1.2	1.0	1.3
耳鼻咽喉科	扁桃腺摘出術(小児)	件数	1				6		2		1			2	12
		平均在院日数(日)	5.0				6.0		6.5		5.0			5.0	5.8
耳鼻咽喉科	扁桃腺摘出術(成人)	件数					1		1			1		2	5
		平均在院日数(日)					6.0		7.0			8.0		8.0	7.4
産婦人科	膣式手術(子宮全摘出術)	件数		1	1	1	1								4
		平均在院日数(日)		11.0	7.0	9.0	10.0								9.3
産婦人科	腹腔鏡下手術 (卵巣嚢腫・子宮外妊娠)	件数						2	1				1	1	5
		平均在院日数(日)						6.0	4.0				4.0	5.0	5.0
産婦人科	膣式手術 (子宮筋腫・CIS・子宮腺筋腫)	件数							1				1	1	3
		平均在院日数(日)							10.0				11.0	10.0	10.3
外科	鼠径ヘルニア	件数						1							1
		平均在院日数(日)						7.0							7.0
合 計		件数	179	160	184	179	214	195	188	180	170	174	178	196	2,197
		平均在院日数(日)	7.7	6.7	6.8	6.4	6.5	6.8	6.3	6.0	6.7	7.1	6.1	7.1	6.7

クリニカルパス統計資料[No. 2]



8

地域医療連携室

8. 地域医療連携室

【概要】

平成26年度は、病院事業管理者の指導の下、年度目標の見直しを行い、泉大津市等近隣医療機関からの緊急受診および入院依頼の増加に取り組みました。

前方連携業務では連携業務の推進強化のため、渉外活動の促進を行い、泉大津市医師会の診療所全てと「登録医」の契約が完了致しました。今年度は当院の入院機能をより活用頂けるよう、医療機関からの緊急診察・入院要請件数の増加を目指し、252件の実績として昨年度を大きく上回りました。また、引き続きNASVA委託病床の入退院に係る調整も行い、年間を通して満床運用となりました。

後方連携業務では医療ソーシャルワーク業務を中心に各種相談援助業務に取り組み、支援患者数については前年度365件に対し、今年度376件に増加しました。また、地域医療連携室内のがん相談支援センターでは、がん相談や緩和ケアチームの活動に主体的に取り組み、がん医療に係る相談援助業務等にも積極的に取り組みました。

今後は地域連携業務の質を向上させることにより、泉大津市等近隣医療機関からの紹介患者のさらなる増加を目指します。

【職員構成】

- 室長：竹林 忠洋（診察局次長）
- 医師：庄野 嘉治（部長）
- 事務職員：寺内 淳（室長補佐）
- 看護師：城家 優子
宇多津 志保子
- MSW：平松 大和
西本 卓司
鎌田 裕加里
- 事務職員：北野 真由美
- 予約センター：法橋 知子
加川 ひとみ

【業務実績】 《平成26年度集計》

○予約センター（予約関連業務※）

15,199件

※診療予約・予約変更・予約確認、問い合わせ、担当科へ取次ぎを含む。

○医療機関からの診療予約

1,397件

○医療機関からの検査予約

検査内容	件数
MR I	679
C T	455
上部消化管内視鏡	639
下部消化管内視鏡	416
腹部エコー	23
胃透視	0
PEG造設 PEG交換	32
甲状腺エコー	8
脳波	5
注腸	0
頸動脈エコー	6
心エコー	11
その他	18
合計	2,292

○医療相談（地域医療連携室対応分）

相談内容	件数
入院・外来について	1,387
病診連携について	11,642
医療・福祉に関して	549
料金について	8
苦情	2
その他	249
合計	13,837

平成 2 6 年度 病院年報

発 行 泉大津市立病院
泉大津市下条町 1 6 番 1 号
